

る。氏の資性温厚にして堅實なれども、



寛容にして洒脱なるところがあり、従業員に對しては

常に温顔を以て接し、人格者として敬慕されてゐる。氏は現在區長、村會議員として村治に盡瘁し、殊に交通に關して多大の功績あり、村の發展工作は先づ交通からであるとのモットーに依り、終始誠心誠意、私利私慾を捨て盡力したものである。氏はまた、消防組部頭として功績が多い。

常家は氏を以て十代目とする舊家にして、代々農を牛業とし、各名譽職を務め村治に盡瘁し來りし名望家である。先代源次郎氏は八十八歳にして永眠せるも、終始至誠の人であり、圓滿なる人格者として村民の信望厚く、氏の實母やすさんは七十七歳の高齡にて他界した、賢母に

して、氏が今日あるは、實に嚴父源次郎氏より受けたる天稟の才能と、慈母や皆さんの愛育の結實であらう。氏は明治十一年二月一日當地に呱呱の聲を擧げ、爾來村政に盡瘁し、事業家として敏腕を振つて來たものであり、その家庭は圓滿にして春風駘蕩としてゐる。

鹽野町村

自動車營業 佐藤 薫

明治二十五年十二月十日、此の世に生を受けた氏は、天性温厚にして篤實、又進取的氣象に富み、剛毅果斷なる人物である。夙に起ちて村政に參與、推されて村會議員となり盡瘁努力し、また氏は自ら進んで交通方面に盡力し、村政發展は交通の發達に依ることを信じ、自動車業の經營を始め、日に日に隆盛を極めて居り、故に村政に於ける氏の努力と共に村民みな信望を寄せてゐる。

佐藤家は當村相當の舊家にして、開祖以來五代目にして、代々村治に功績あり

殊に先代政太郎氏は鹽野町郵便局の第二代目の郵便局長として功有り、また徳望家として仰がれた人物である。母堂はタツさんにて、父母とも村民からの敬慕を受けし一家にて、家庭は和氣霽々として常に春日の照る如き一家團樂の家庭愛に惠まれてゐる。

曹洞宗の家にして、一家また信仰心厚く、氏は未だ四十七歳の壯年にして、前途洋々、將來の發展を期して待望されるものあり、氏の事業的手腕は縦横無盡に活躍を遂げ、交通上に於ける進歩と、村民の福祉、および村政の圓滿なる發展は、村の雙肩にかかり、與つて力あるものである。

八幡村上大鳥

素封家 富樫 倉藏

氏は日露戦役に出征し、砲車長として最初より最後の奉天大會戦まで奮闘、腰部貫銃創の名譽の負傷を受け、兵役を免除され、功により歩兵曹長勳七等功七

級に叙せられた榮譽の士である。氏は前



新潟縣傷兵會副會長として功績あり現在下越傷兵會會長

八幡村會議員として盡瘁してゐる。氏は聰明にして敏腕なる事業家にして、明治三十年土木建築請負業富樫組を創立し、爾來村上水力電氣荒川發電所水路工事、(大正十三年起工同十五年完成)を始め、沼垂、保内等各小學校、道路、堤防、橋梁、鐵道保線工事等、數多の大工事を請負ひ、其名聲は東京方面にまで聴え、現在では新潟縣下斯界の第一人者として著名である。尙富樫組の従業員は常備五十名である。氏は又村會議員として大正九年以來現在まで五期に亙り村政に盡力し居る八幡村の長老である。昭和五年縣傷兵會副會長及下越傷兵會會長に推され、傷兵の困窮者、戦死者遺家族の救濟、傷兵

囑目されてゐる。

大川谷村府屋

土木建築請負業 竹内 福次郎



に富み、果斷にして敏腕なる事業家として知名である

氏は西蒲原郡和納村出身にして、明治二十一年生れ、土木事業に着手したるは大正七年以來にして、羽越線開通工事(大正十二年)並に清水トンネル開鑿工事等の大工事を引受け、手腕を振ひたる當地方切つての大事業家にして、下越地方に於て赫々たる名聲を馳せらるる人望家であり、立志傳中の人として専ら信望ある人格者である。氏の信念の人として行く處常によき成果を擧げ、人をして心服せしめ、部下をして信頼せしめ、常に温顔を

以て人に對するなど、練磨されたる心情の主である。

氏の夫人いと氏は山形縣より嫁し來れるものにして、賢夫人であり、事業の爲東奔西走奔、席の温まる暇無き氏のよき内助者として後顧の憂へ無からしめたる貞淑なる夫人として信望厚い。氏の長男武男氏は目下滿洲電氣鐵道株式會社に勤務し居る逸材にして、氏の天稟の才能を承けて益々大陸に發展せんとする進取の氣象に富める、將來性ある青年紳士である。家庭は和氣霽々として、圓滿無比、近隣より羨望さるゝ良家庭である。

村上町長井

小杉漆器店主 小杉 祐次郎

當家は村上地方草分の舊家にして、その家系は三百二十年間連綿と續き、代々酒造業を家業としてゐたが、先代六右衛門氏の時、漆器業を始め現在に至つてゐる。當家の製品は村上地方特産たる堆朱、堆黒にして天下に著名である。堆朱

の濫觴は天明、寛政の頃にして約百四十年前、村



上藩士の餘技より發達したものである。當主

和次郎氏は村上漆器の先覺者にして、斯業の獎勵に努力し、現在の進歩隆盛を見るに至つたものにて、當家は當地方に於ても最古の歴史を有し、最優秀品の製造家として名高く、高尚優美、且つ堅牢、實用に適するを以て、近來頻りに聲價を高め、商工省工業品展覽會、輸出工藝品展覽會、各博覽會、共進會に於て受賞せること枚擧に遑なく、最近一年間の産額約十萬圓に達してゐる。

祐次郎氏は明治十四年六月一日生れにして、曾て工藝會長、農會副會長、郡所得稅調査員として活躍努力し、現在は町會議員として既に五期目、學藝委員、農會會長、郡農會副會長、信用組合理事、消

防組後援會副會長等の職を歴任し、その盡瘁貢獻せるところ甚大にして、町内功勞者として信望を擔つてゐる。氏は民政

黨であつたが、現在は中立として町會に於ける元老として、公私とも尊敬を受くる事篤き人格者である。また多忙なる職務の合間に釣を趣味として、その三昧境を樂しんでゐる。家族は、しん夫人は當年五十四歳、三十八歳になる長男榮次郎氏は郡聯合軍人分會長、村上町軍人分會長として活動、大倉高商卒業の秀才である。現在は添田部隊第五中隊部隊長として出征中、とみ夫人と令孫、祐一、祐二祐三、祐介氏の四男と、フミ子さんの一女にて留守を守り、圓滿和かな一家をなしてゐる。

大川谷村府屋

素封家 富樫 又太郎

富樫家は當村最古の舊家にして、代々名主庄屋を勤め、名字帶刀御免の家柄である。又地主にして農業、山林業を営み

廻船問屋も昔から營んでゐる。家號は又



左衛門と稱す。先代猪次郎氏は組頭區長等、村政に參

與、功勞者であつた。當主は先代の長男にして明治三十三年十一月十九日生れ、活潑、剛復にして親分肌の義侠に富む人柄にして、又知能も衆に優れて居り、氏は陸軍中尉の軍籍にあり、加茂農林卒業の英才、消防組頭、前には郡農會評議員等に就任、組頭在職中はガソリンポンプを設置を計畫し、七臺目標にて現在五臺設置に成功、又現在軍人分會長、聯合分會理事を歴任し、府屋合同運送會社専務として敏腕を振ひ、材木業を大々的に營み、従業員約四十名を使用してゐる。氏は自信あるものでなければ公職を引受けず、一度就任するや、あくまで責任を以て遣り遂げ、氏の努力と手腕は當村切つ

ての名實共に斯界の權威者にして、その功勞枚擧に遑なき有様である。

家族は梅夫人は三十七歳にして山形縣の大地主五十嵐伊左衛門氏の娘、有名な旅館の持主である。長男又治君は十四歳、長女秀子嬢は十五歳、新發田高女在學中である。一家は平和に満ち、圓滿明朗なる家庭をなして居り、村政上に於ける又太郎氏の功勞偉大にして、村民の信望甚大である。

中俣村中繼

舊家 菅原 久右衛門



當家は中繼在に於ては相當の舊家にし

て由緒ある家柄である。當主久右衛門氏は、東海林家より養子となりて菅原家を繼ぎし人にして、實家は東海林家分家の間柄である。

當主は養父寅吉氏の厳格な訓育を受け長するや村上中學に學び、卒業後は熱心に家業に従事し、養父寅吉氏を助けて孝養に勵む。

本村評議員、村會議員、學務委員、中俣、大川谷聯合傳染病委員の諸要職にありて貢獻寄與する所甚大なるものがある。道路開設問題に残せる業績は、一に氏の奔走せし功勞に依るものであり、當村繁榮の基礎をなしたるものである。

昭和三年民政黨に加入してより郡政界に雄飛し、現在郡民政黨支部副支部長として重きをなしてゐる。

資性温厚にして、素朴至純、言語懇懇にして、又禮節を重んじ、人に接するに甚だ鄭重、よく衆民の信望を集めてゐる社會公共事業に對しては熱意を以て當りその手腕は特に村民の認める所である。

下海府村芦谷

素封家 本間 太郎作

當家は寛永以前より、連綿たる由緒の

家系を繼承し來れる當村の舊家である。



先代太
作氏は
多年區
長、村
會議員
(數期)
氏 郎 一 太

を勤めた村治の元老として功績多大なるものゝあつた功勞者である。當主太郎作氏は太作氏の男にして、明治十八年三月一日に生れ、家業たる養蠶に、漁業に、或は土地に、極めて廣汎の事業を繼ぎ、専心之を發展と躍進に勤め、殊に漁業は數隻の船舶を利して業績頗る大なるものがある。先に區長として部落の融和誘掖に盡瘁し、現在は村會議員として、村治の上に公平無私の立場を以て臨み、その圓滿潤達の人格と共に、村民の間に信望厚いものがある。

家庭は村上本町の士族芝田新吉氏の息女たる鏡夫人(五十四歳)との間に三男二女の子福者である。長男太郎氏(二十

八歳)は目下添田部隊に屬して支那戦線

に活動中であり、既にとめ夫人(二十四歳)を迎へてゐる。次男政男氏は芝田新吉氏の養子となり、長女たかし嬢(廿八歳)は他に嫁してゐる。次女のお嬢(廿八歳)三男正君(十八歳)村上中學在學中で一家は圓滿常に和氣満つ。

村上本町飯野

素封家 渡邊 慶太郎



名家、由緒ある家柄にして渡邊三右衛門氏の

分家である。儀右衛門が家名である。當主慶太郎氏な明治元年の生れ。長ずるや上京して、東京帝國大學醫學部に學び拔群の成績を以て卒業するや、直に佐藤外科に勤務す。その卓越せる手腕、博

學明識な才能は世人に轟はれ、招かれて

高田病院外科醫長となる。明治三十二年小千谷病院長、同三十四年鳥取縣米子病院長となり大正八年辭して、愛兒教育のため歸郷する。

村上町に住居を構へて、當醫院を開業す。専門科目は外科に、結核に、眞剣にその病源を研究する。

不撓不屈の精神を以て全力を盡して、生涯を醫術に捧げ、仁慈の念を以て、村民の治療に努力し、爲に村民の信望篤きものあり、氏は又繪畫に秀で、愛桂と號して有名なり。繪畫と醫術を結び、其無念無想の心境を以て之に處し、その面目躍如たるものがある。

養子三郎氏は大阪市西區京町堀にて、結核専門の刀根山病院の院長である。氏は大阪醫大を優秀な成績を以て卒業せし秀才にして、父君の衣鉢を繼いで結核の研究に造詣深く、斯界の權威者である。尙、刀根山病院は、大阪隨一の大病院である。

神納村有明

素封家 工藤 久吉

氏の嚴父常齋氏の實父長右衛門氏は、建築家として著名な人であつた。十六歳の時、京都へ修業に出で、修業を終へて歸郷し、本村桃川神社及び寺院等の建築をした人である。

嚴父常齋氏の養父は八日市にて針醫を業としてゐたのであるが、後當地に土着したのである。

嚴父常齋氏は、平林村の生れである。漢法醫であつたが、のち工藤家の養子となつた。資性風流を好み、俳句に秀で、居た。四十五歳にて病没された。

當主久吉氏は、性明敏の人であつて、十五歳の時、既に小學校訓導として、教壇に立ち、兒童の教育に當つた。

後、明治十六年、新潟醫學校に入學したのであるが、暫くして同校が廢止されたので、轉じて京都醫學專門學校に入學同校に於て醫科一般を勉學、明治二十年

大川谷村府屋

大川谷郵便局長 富 樫 幸 一



舊家にし、代々大地主として其の由緒を繼承してゐる。

又漁業をも太く營んだ。先代彌一郎氏は収入役、郵便局長を多年勤め、村治産業其の他刷新に貢献した偉材であつたが惜しむべくは六十歳にして他界した。

當主幸一氏は彌一郎氏長男として、明治二十四年十月二十五日に呱呱の聲を擧げた。資性素封の家に人と爲り極めて温容圓滿、また眞摯の人格者にして、政治方面には敢へて關與せず、専ら漁業、林業等の産業の開發進展に盡瘁してゐる。漁業は特別及び専用漁業權を有し、その規模大なるものがある。大川谷郵便局長

氏子總代として現任貢獻す處多く、村民の信望又極めて篤いものがある。曩には消防組頭、青年團長等を勤めた。公平無私、村治の興隆を常に思念する重鎮である。



良一氏

して健在、渡邊龜太郎氏の息女たるため夫人との間に五男二女の子福者にして、長男良一氏(二十三歳)は、目下添田部隊に屬し、支那戦線に活躍中である。次男眞君(二十歳)は秋田三菱鑛業社員たり。一家常に春風駘蕩の和樂をなす。宗旨は曹洞宗である。

大川谷 郵便局

當局は明治三十三年の開局にして、大川谷村、中俣村の二村をその區域としてゐる。開局と同時に集配局たり。明治二十三年十二月國內爲替事務を、明治

二十九年七月小包を、明治三十二年外國爲替を開始した。内外電信事務取扱は明治四十一年十二月、電話事務は昭和六年に通話、昨年十二年に交換を開始した。殊に明治十八年十月開始の郵便貯金は、郡内第二位の好成績を擧げてゐる。現局長は三代の殿父彌一郎氏の後を襲つた四代目富樫幸一氏である。例年の如く成績優良を以て表彰されてゐる。局長以下局員の熱誠眞摯は現在の成果を見せたものといふべきであらう。

村上町上片町

酒造家 宮尾 又吉



創業は天保十年にして、村上地方最古の家柄

である。先代榮三郎氏は三十四歳にて早世したが、氏はその長男にして、明治二十四年二月十日に生れた八代目の當主である。メ張鶴、若鶴の二酪酒を醸造し、岩船郡一圓に販賣し、當地方に於ける最優良酒として知られ、全國酒類品評會優等賞その他各博覽會、品評會、郡酒類品評會等にて數十回の表彰を受けて居り、従業員九名を有し盛業を以て知られてゐる。又氏は家業精勵の傍、町政の圓滿なる發展に盡力貢獻すること永年に及び、會て推されて區長となり、三年間勤続し、現在町會議員は二期目である。氏は嚴正中立を以て我道となし、濃厚篤實、町民の篤き信望を擔ひ、稀にみる清廉潔白の士にして、大關屋として名聲高く、自治功勞者として又信望を集めてゐる。家庭には母堂よし刀自が現在七十二歳にして健在、夫人よしさんは四十二歳にして吉川嘉右衛門氏息女である。家業に従事しながら内助の功厚き温雅の人とし

て評判良く、長男隆吉君は二十二歳の前途有望なる青年、現在東京瀧ノ川試験場に勤務してゐる。次男恒吉君は十六歳にして村上中學在學中、長女ナカ子嬢は十七歳、村上高女在學中、次男國彦君は十四歳、次女シゲさんは八歳、三男二女の令息令嬢に恵まれ、皆成績優良にして將來を目されてゐる。又吉氏は町政功勞者としての反面、家庭に於ては實に孝心深き人にして家庭圓滿の基を爲してゐる。

三面村布部 素封家 本間源平



緒深き名門の家柄である。また代々村勢伸展に功勞多

く、先々代伊代吉氏は、村内あらゆる公職を歴任し、後に郡會議員に推舉され、

出馬するや議員間の信望を一身に集めて副議長の要職に就き、献身的努力活躍をつゞけて郡政に多大の寄與をなし、郡民の感謝と尊敬を一身に集めた。天性濃厚篤實の人格者で、衆望の厚き事稀に見る徳望家で、村長としても村民の福利増進に盡す事多大、村史に記録されるべき自治功勞者である。先代吉一氏また其の衣鉢を襲いで、夙に村治産業に進出、村長、村會議員、區長、産業組合長等の要責を歴任、村諸般上に伊代吉氏にも劣らぬ程の效を奏し、村民よりは穩健にして篤實なる人格者であり乍ら、手腕あり、力量ある材幹と稱され、多大の信望を寄せられた。

當主源平氏は明治四十四年八月二十二日の出生にして、資性果斷、俊敏の氣性に富み、また頭腦明敏にして、幼時より學業成績優秀、衆より才童と稱され、村上中學に學を修めた。のち先代吉一氏の懇望に依りて本間家の後を繼ぎ、益々家運の興隆に意を用ひて家業に精勵、村内

青年間に多大の信望あり、模範青年と稱され、その將來は村中樞に活躍すべき人物として多大の期待を寄せられてゐる。家庭は春風洋々として和樂の家として知られてゐる。淑徳の譽高きシズエ夫人は村上女學校出の才媛にして、いま二十七歳である。間に新衛門、熊次、新三郎の三男子がある。因に當家の庭園は、地方稀に見る廣大なる庭園にして、廣く著聞する。

村上町驛前 扇屋分店 平間春吉



旅館である。客室は十五室を有し、清潔を旨とし、明朗なる居心地の良いとこ

ろで、館主平間春吉氏の經營モットーは

親切第一、家族的養應、客自身の氣持になつて應待するといふ懇切を極めて居りその實行振りは近郷近在の好評を受けてゐる。従業員は五人にて、皆春吉氏の意志を重んじ、客の評判よく、主人も従業員も協力一致しての接待法に依り、常館は日々隆盛となつてゐる。春吉氏は資性圓滿潤達、青年時代より、困苦の中を物ともせず一意邁進し、また氏の事業的手腕は、時に應じ機に即して、縦横無盡に展げ、一步一步を積み重ねつゝ、今日の扇屋旅館を築くに至つたのである。然して人に接するに温厚篤實、稀に見る徳望高き人にて、常旅館の評判は即ち、主春吉氏の懸命なる努力に依るものにして、従業員よりも良き主人と敬まはれて居る。斯くの如き氏の努力は、ひとり常旅館のみでなく、ひいては村上町の發展とも關聯深きものである。

瀬波町松山

瀬波温泉臨海ホテル

當ホテルは村上驛より二十町の地にあり、昭和三年の創立にかゝるものにして客室二十四室あり、従業員十八名にして親切第一をモットーとして、日に月に發展しつゝある。當ホテルの温泉は美麗、しかも體質を強健ならしむるの特質を有し、湯治客、引きも切らず、又附近の風光明媚なる爲、遊山觀光の客多く、當ホテル經營の笹川ホテルは客室十二室にして壯麗なる内容外觀を有してゐる。尙電話は村上局貳百八番である。

經營者

加藤良助

氏は同郡下海府村の出身にして、温厚篤實なるも氣骨稜々、しかも圓滿潤達にして、着々事業の發展をみてゐる才腕を有し、ホテル業者内に於ても人望ある人格者である。氏の抱負は、旅にありて家庭に於けるが如きサービスを爲し、安らかなる遊山

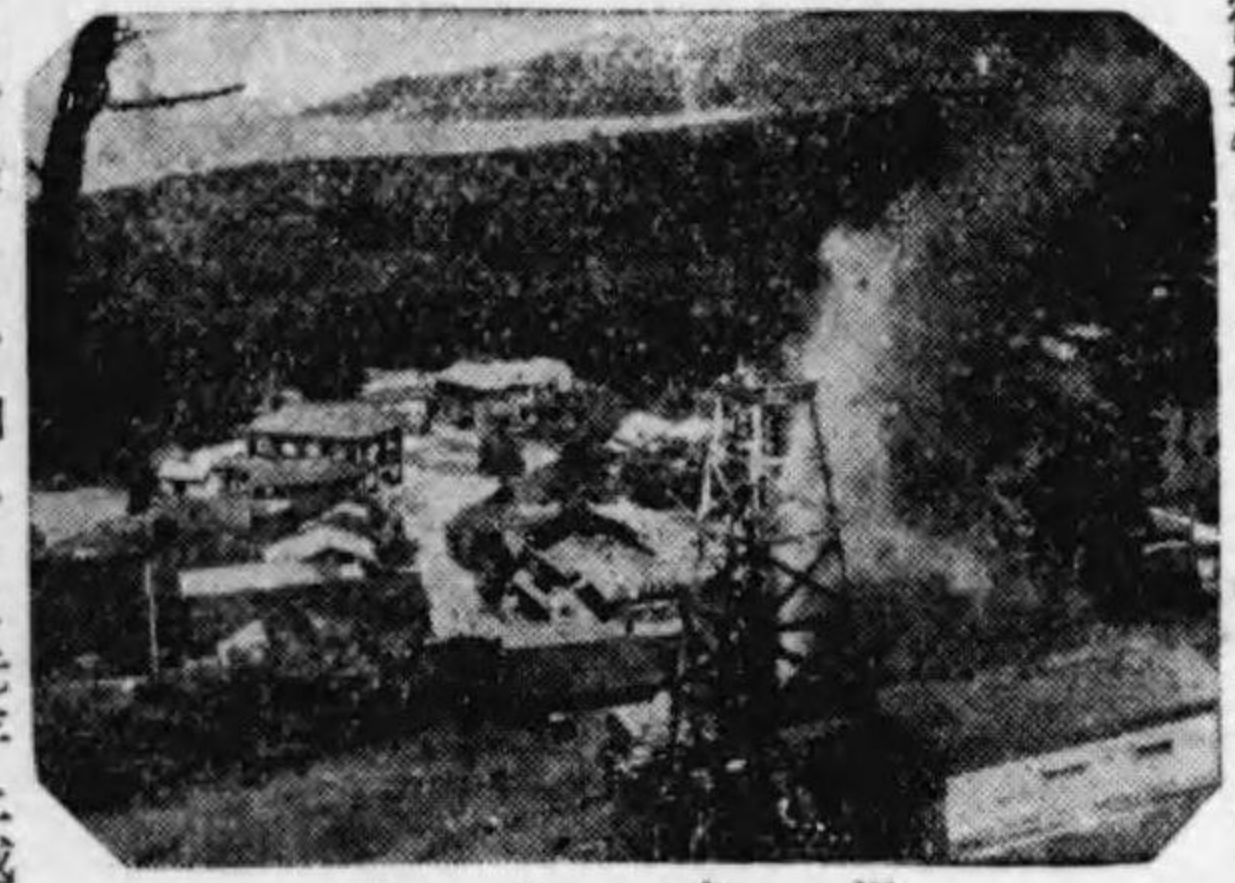


夫人キヨ子さんとの間に子息二名あり夫人は才色兼備にして、しかも良妻賢母氏のおよき内助者として信望厚き令夫人である。

瀬波町松山 瀬波温泉

瀬波温泉は一名松山温泉と稱し、羽越線村上驛より西口二十二丁、交通至便の地である。明治三十七年の春、石油採取の目的にて掘りしに俄然温度百五十度の熱湯噴出し、その後引續き晝夜間斷なく九十尺の高さに噴騰するさま、天を摩するの感がある。かく歴史の新らしき温泉なるも、天恵の地の利と相俟つて、噴湯

後數年ならずして、村上驛の開設、



温泉全景

の發展をみ、加ふるに先年上越線開通以來、運輸關係に一大變革起り、他方人の來遊頻繁となり、現在では莊内の温海、湯野濱等の温泉を遙に凌ぐ全國にも屈指の温泉場と喧傳せられ、夏期海水浴場を兼ね、附近に名勝多く、眞に理想的の療養地である。

當温泉は鹽類泉にして無色透明、何等の異臭なく、リウマチス、皮膚病、背髓

羽越線全通と矢繼早に交通の便益する處となり、爲に長足病、神経痛、殊に胃腸病に特效がある。當温泉は新潟市より一時間半、長岡市より二時間半にして當地に着す。旅館に三島屋、大和屋、萩野屋の鐵道省指定旅館を始とし、吉田屋、養眞亭、臨海ホテル、五泉屋、見晴、丸一屋、松月亭、東屋、増屋、瀬波館等があり、宿泊料金三圓五十錢より一圓五十錢まで、一般團體は割引及び自炊の便がある。

組合長

八子正一



氏は先祖は村上義清の主席家老にして、信州八子原に住し、地名をとり代々大地主として名主、庄屋を勤めし名門にして、氏は十八代目に當る。

氏は瀬波町會議員六期、消防組頭、區長、大日本温泉協會東北支部理事、新潟

縣自動車協會常議員、新潟縣温泉協會常議員、瀬波温泉組合長、瀬波噴湯株式會社代表、村上市街自動車株式會社事務取締役、三島屋旅館及瀬波館經營、岩船郡政友會幹事等、數多の要職にあり。

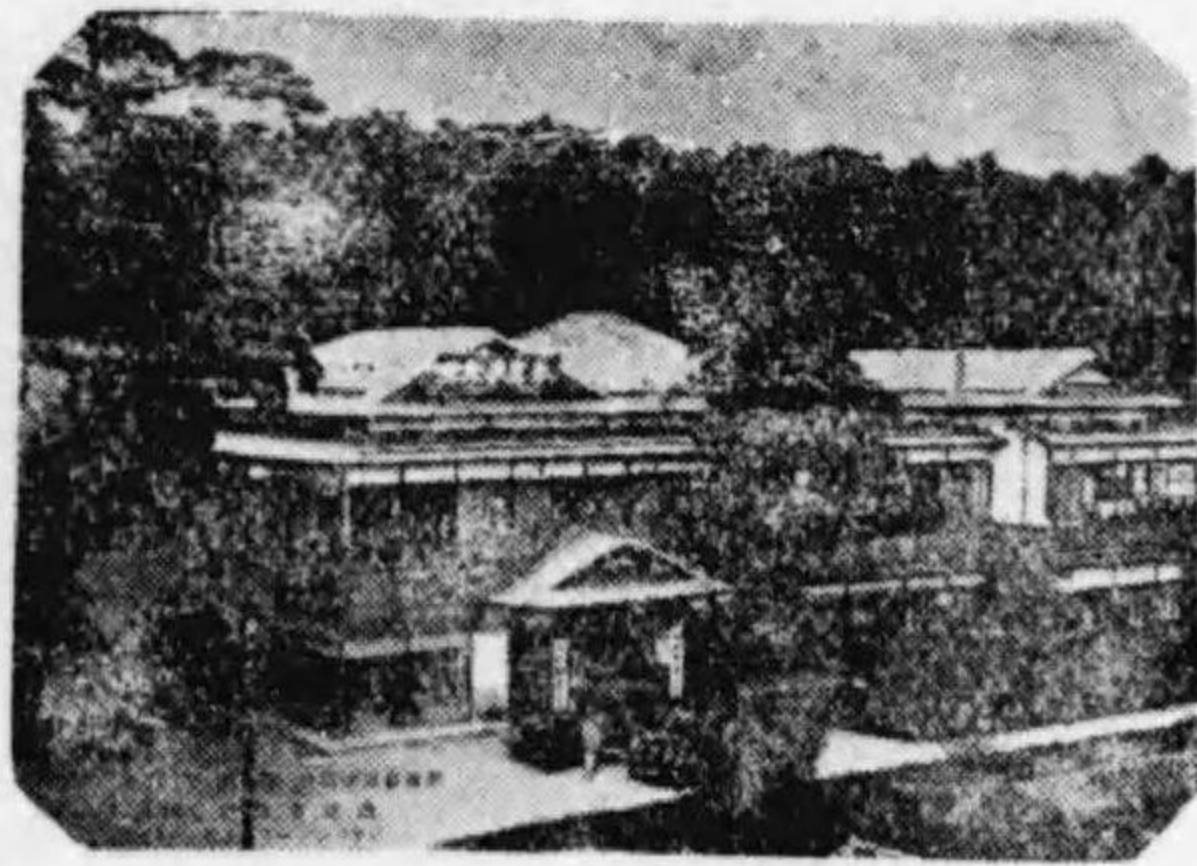
石油採取の目的にて明治三十六年當地に來り、三十七年噴湯を見て温泉開發に轉向し、卅九年三島屋旅館を創業し、爾來卅六年間、當温泉の發展に獻身的盡力を爲してゐる。氏は當初より温泉組合長として私利を減却して奔走、大正十五年には二萬五千圓の費用を以て水道、街灯を施設、組合員の爲、私財を投じて要路に折衝し、その功績多大にして、當温泉開發の大恩人として敬慕されてゐる。氏は温泉の發展を期するには大收容力を有する大ホテル建設を必要なりとし、地方中央に呼びかけ、その實現に邁進しつゝ、ある積極的實行家にして、村上地方政界屈指の有力者である。

昭和三年十一月御大典記念に、瀬戸町温泉開發の功に依り金盃を受け表彰され

た、氏の家族はます夫人、長女みよさん、愛孫みよさん村上高女在學中にして、家庭は頗る圓滿である。

瀬波町松山 眞亭

東方は田疇遠く連り朝日岳の英姿、三面川の流れ、一帯の岳陵には無数の老松



眞亭

の地にある瀬波温泉は、夏は緑蔭深く、日光を鎖し、冬は温泉の暖気が外寒を防

歴し、避暑地として又避寒地として推奨するに足る。當温泉は明治三十七年の石油採取の目的にて掘下げたる、地下百三十九間に達するや、猛裂なる勢を以て温度百五十度の熱湯噴騰し、爾後引續き晝夜間斷なく九十尺の高さに噴出し、飛沫散じて急雨を爲すさまは壯觀を極めてゐる。

當温泉の歴史は新しく、天恵の地の利と相俟つて、噴湯後數年ならずして村上驛の開設となり、他方人の競つて來遊するやうになり、長足の進歩發展を來し、殊に羽越線全通後は益々設備に改善を加へ、全國中屈指の温泉場となつた。當温泉は鹽類泉にして無色透明、異臭なく、儂麻質斯、神經痛、胃腸病等に特效がある。

眞亭旅館は、各室美麗なる内湯の設備あり、客室の設備よく、親切丁寧をモットーとして、しかも宿泊料低廉、何人も我家に在るの思ひを懐かせ、凡てに對して眞情の流露を以てする故、例へ一日

の清遊を試みる人も曾遊の感に堪え、旬餘の滯留者が多い。當旅館の當主波濤健氏は温厚篤實にして、しかも圓滿滑脱、當温泉旅館業者内の逸材として信望厚く當温泉有数の名サービス振りをして、氏の才腕を知るであらう。當館の電話は百七番にて、風光明美の地にあり、松籟の音、オゾンに充てる空氣、春夏秋冬の眺めを恣にする、天與の樂園である。

佐渡郡

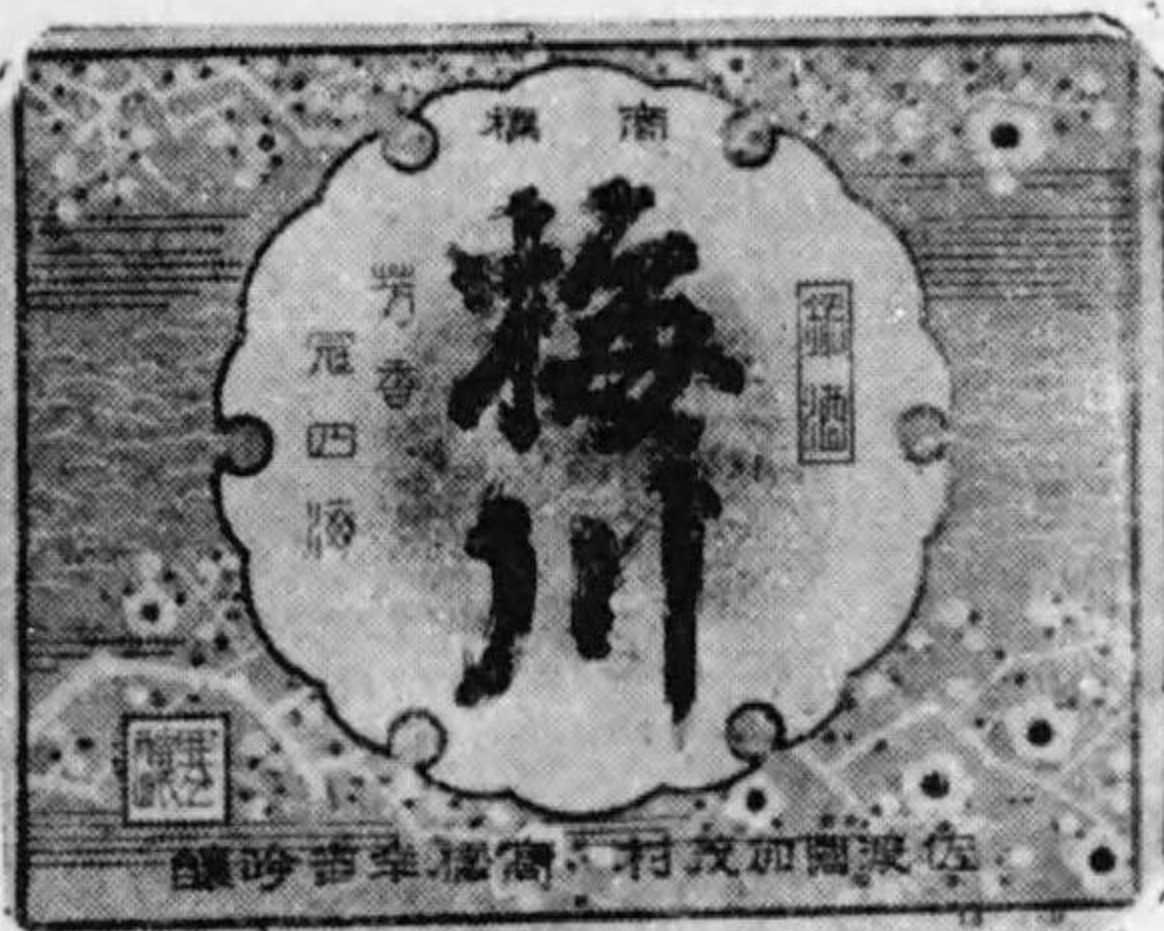
加茂村梅津

縣會議員 高橋 幸吉

當家の始祖は今を遡ること約六百年といふ古き歴史を閲してゐる當村切つての舊家名門の家柄として著聞す。

先代福太郎氏の男として明治三十六年三月二日に呱呱の聲を擧げた氏は、幼にして智慮業に勝れ、頭腦明晰、秀才の譽高かつた。長じて中學、高等學校を経て帝大農學部に學んだ農學士で、氏また公共自治には深く關心を拂ひ、その高邁なる識見、豊富なる技術、卓抜なる手腕は地方自治に、産業に、育英に貢献する處勤からず、氏の力に預る處甚大なるものがある。

衆の氏に對する信望また頗る厚く、現時推されて縣會議員一期目の要職を執掌



意、縣政の刷新に地方自治の向上に盡瘁して名聲赫々たるものがある。氏はその外、郡農會長、村教育會長等の公、名譽職を兼ねてその存在愈々重きを加へ、今後の進出を刮目されてゐる。氏はまた地方民政黨の重鎮として知名

中で、

その堂 堂たる 侃諤の 論陣は 縣會議 員中の 白眉と して、 光芒燦 然たる もの鋭

である。讀書、圍碁等に趣味深く、信仰篤く曹洞宗に深く歸依してゐる。母堂ケイ刀自は、國防婦人會長として銃後の護りに奔走活躍してゐる賢婦人である。

赤泊村徳和

村會議員 元縣會議員 羽豆 太三次



氏は元縣會議員として推舉されるや、縣民の幸福を期して邁進貢献裨益するところ甚大にして一身を挺して公職に盡瘁、又元消防組頭として精勵努力寄與するところ甚大であつた。氏は今日村會議員として三期目なるも、その間長期に亘り減私奉公、夙夜淬勵して村勢の發展と繁榮に寄與し、農村の自力更生に重點を置き、自治に終生を捧ぐべく

熱意を以て盡瘁してゐる。

當家は先代峯吉氏の創家に係り、氏は二代目にて本年五十八歳、家業は酒造業にして銘酒「北雪」「及越渡」は名聲あり、遠く縣外にまで販路擴大しつゝあり清麗なる酒造水に恵まれ、斯界の王者として君臨してゐ、表彰數度にのぼる銘酒は、縣下一として知られてゐる。

氏は父君の業を繼いで家業に精勵し、益々醸造家として發展しつゝあり、氏は資性公平無私にして、清廉潔白手腕卓抜である、縣政界の雄としてその雄辯を謳はれ、村會議員としては村民の期待に副はむことを以て念願とし、内外多事に於て寧日なき日を送つてゐる。

畑野村栗野江

立 佐渡農學校

當校は明治四十三年五月二日當村大野報恩寺を假校舎として開校し、組合立佐渡農學校と稱した。その後四十四年新築落成につき移轉し、四十五年郡立となり

佐渡郡立農學校と稱す。その後發展に發展、躍進を續けて今日に至りたるものにして、職員數三十二名、現在生徒數四十七名にして、内譯男生徒二八一名、女生徒一七六名である。當校の敷地は實習地及グラウンドを入れて九四〇・五六六アール、建物坪數一、〇四八、三九七坪に及び着々と發展の實を擧げてゐる。

氏は開祖以來十八代目に當り、祖先是長野縣出身にして、飯田家出入の武士として、飯田家人事係重役を勤めたる家柄である。



先代猷夫氏は徳島師範學校に奉職し居りたる教育者にして、氏は望まれて養子となりたるものにして、明治二十六年二月二十六日生れ、東京帝國大學農學部附

年三月本校長に就任したもので、人格高潔なる氏の指導方針宜しきを得て實績頗るに擧り、好評噴々たるものである。現在氏はその外に金澤村教育會長、佐渡郡教育會長、縣教育理事としてその重厚なる人格と相俟ち愈々重きを加えてゐる。因に氏は永年育英界に盡瘁してきた功勞により從六位勳七等に叙せられてゐる。

校 長

小木曾政一

氏は開祖以來十八代目に當り、祖先是長野縣出身にして、飯田家出入の武士として、飯田家人事係重役を勤めたる家柄である。

金澤村千種

佐渡高等女學校

本校の創立は明治四十四年八月といふ古き歴史を閲してゐる。最初二ヶ年課程の實科高等女學校を村立金澤高等小學校内に併置認可し、大正二年四月に四ヶ年課程に變更し、同六年四月、金澤村、吉井村、二宮村、河原田町、八幡村組合に變更、同十一年三月本科四ヶ年課程の高等女學校に組織を變へ、續いて生徒定員四百名八學級に編制され、更に昭和三年

四月補習科を設置した。

現在職員の数十八名、生徒數は三六五名である。本校敷地總坪數は三、四三三坪。内屋外運動場一、六一七坪。建物總坪數五一六坪、内體操場七〇坪。教室數一二、内特別教室四で、本校の歴代校長を列擧すれば初代校長永井晋氏、二代風間儀太郎氏、三代神谷庄之助氏、四代藤野三郎氏、五代大久保寛氏、六代渡邊源助氏、現校長伊藤純逸氏を以つて七代目である。

校 長

伊藤 純逸

氏は明治十五年二月十日、先代秀齋氏の男として呱呱の聲を擧げたもので、また當家は代々醫を以つて家業とし、先代秀齋氏まで醫師として村民衛生救済等に盡してまた功績甚大である。資性穩健にして聰明なる氏は長じて新潟師範學校に學び、同校を優秀なる成績で卒業後は、育英界に進出して献身的に淬勵しその功績頗る顯著なものである。その後累次榮進して昭和七

兩津町役場

兩津 町

新興氣分が多分に溢れてゐる兩津町である。小木が佐渡の京都なら兩津はまさしく佐渡の大阪だ。海と加茂湖とをさへぎる帯のやうな街で、これを加茂湖岸の稚崎から眺めると全く帯のやうに細長く海の中につらなつて、天の橋立にもまさつた明朗な景色を點する。殊に夏の夜は「兩津甚句」にうつとりする。

加茂湖の海に通ずるところ、「時雨の松」があり、毎年六月十六日の「夏祭」は極めて盛大、人口七千餘人を算へる。

現町長は勳八等鈴木爲三氏であるが、氏は歴代町長の遺業を遵守し、全町民のため鋭意努力邁進してゐる。

前 町 長

土屋 正利

翁は、本町が生んだ近世佐渡に於ける逸材で、天資質實、謹直、理財に長じ、兼て文才藝才あり、少壯畫を渡邊露山に、俳諧を中川收之に、謡曲を安藤喜彦に、更に山田仁兵に進んで斯道の巨匠本間令桑に師事して夙に一家をなした。しかも翁の趣味は廣汎騎馬を能くし、書を能くし、圍碁、將棋皆な行くところ可ならざるなしである。父君の歿後、家名を襲ふて六右衛門と稱し、父業を繼いで佐渡銀行頭取となり日夜勤勉行務を統べて業績大に擧り、家道ますます興り、幾年ならずして佐渡財界に重きをなし、才名漸く高くなつた。明治四十年郡會議員を振り出しに縣下の政界に進出、同四十四年縣會議員に當選、縣參事會員に選ばれて縣政に參與、大正四年再選、縣會に重きをなした。こ

の間、越佐汽船會社を起して越佐航路の不振を助け、後ちまた佐渡汽船株式會社を設立、以て百貨輻輳、産業に旅客の便に遺憾なきを期し、曩に寂寞の孤島をして一躍天下の觀光地たらしめたが、これ皆な翁の永年努力の賜である。更に水力電氣會社を起して佐渡照明界の先驅をなし、下條町長の満期退職するや町民一致の推舉によつて町長となり、昭和十年三度選ばれて縣會議員に列し、同十二年一月全國町村町長會の東京に開かるゝや翁多年の功勞を録し、記念品を贈られ、その功績を表旌された。同年三月十七日新潟市の客舎に歿したが享年七十歳。翁人と爲り忠信孝悌、敬神崇祖能く恬恃に事へ後進を誘掖し、身を以て範を示し、公事に盡すを以て常となし、終生一貫意に流ることなく、敢て私事を顧みず常に仲尼の遺訓「明德を明らかにするに在り」の一章を座右にかゝげ、以て町政の銘となしてゐた實に近稀れに見る自治功績者の最なり。

新穂村新穂

新穂信用購買販賣利用組合

當組合は新潟縣下第一と稱せらるゝ組合である。出資總額二十七萬五千八百圓餘りにして一口金額二十圓、組合員數一千百七十二人餘りに亘り、貸付總額二十四萬七千餘圓、貯金五十萬圓の大に上り購買價額一ヶ年六十萬圓、販賣價額一ヶ年三十七萬餘圓にして多大なる業績を擧げ、保證責任である。

當組合はその區域遠大にして、有價證券五六萬圓を有し、農業倉庫を新穂村内に二ヶ所設置しあり、電力關係事業を爲し、着々とその實を擧げてゐる。又教育普及會ありて、當地方の教育事業に關與し、實績多大にのぼり、組合長藍原小一郎氏、專務取締役は池田元一郎氏にして當組合の今日あるは歴代組合長の功績多大なれども、藍原小一郎氏、池田元一郎氏の献身的努力に依るもの尠くない。蓋原小一郎氏は、組合長として有望な

り、しかも圓満潤達、博識多才にして、眞摯なる人格者にして、一身を挺して組合事業の爲邁進し居る徳望ある人物である。

專務取締役池田元一郎氏は資性快活恬淡にして業界の新鋭として異彩ある存在であり、公平無利なる敏腕家として名聲あり、組合の將來は氏の將來に有るとなし、一舉手一動に注目されてゐる材幹である。當組合は實に組合長藍原小一郎氏專務池田元一郎氏を得て双壁と謳はれ、一路發展途上にある。

河原田町

佐渡電燈株式會社

當會社の資本金四十六萬二千五百圓、株式數九千二百四十一株にして三千二百四十一株は二十圓の拂込にして、現在株主數は三百三十二名である。當會社第五十一期昭和十二年十月一日より十三年三月三十一日間に於ける總收入金額は八萬二千二百四十六圓廿九錢にして九百七十

三圓六十七錢の增收を示し、支出に於て五萬六千三百五十六圓八十錢にして四千六百七圓五十二錢を減じ、差引二萬五千八百八十九圓四十八錢の利益を得たる好成绩にして着々と營業の實績を擧げつゝあり、一路發展途上に有る大會社として名聲が高い。

當會社の電燈數は定額燈燈數一〇、九二、戸數七、三七五、從量燈燈數八、六五七、戸數七五七にして前期に比し増燈數一、四五七、増戸數八八八に及んでゐる。

當會社の供給販路は、河原田町、新穂村、畑野村、眞野村、澤根村、金澤村、八幡村、二宮村、相川町、金泉村、二見村、西三川村にして、電力需要家は二見村、西三川村を除く全部であり、需用家數五〇、馬力數一三四の大に及ぶ。又當社に於ては昭和十二年十月三十一日第五十期定時株主總會開催終了後、前佐渡水電株式會社と合併契約承認を得、日に月に躍進又躍進、遂に今日の大會社を建設

するに至つた。

金澤村長塚

神主甚久郎

當家は當村有數の舊家にして、且つ當村屈指の名門である。當主は其の第八代目である。



當主甚久郎

郎氏は、當年五十九歳の働き盛りである。氏は温厚篤實の人にして人望頗る厚い長ずるに及び、氏は法律學の研究に志を抱き、日本大學法科に入學、こゝに於て法律學の研究に没頭したのである。法律學を研究し終るや氏は、當村村政に關し幾多改革すべき點あるを認めたる所なるを以て、歸郷して、其の改革の第一歩を踏み出した。

新進氣鋭の法律家を迎へたる當村々民は、先づ氏を推して、村農會長の要職に

就かしめたのである。爾來氏は今日に至る迄、能く、農會の爲め貢獻して來たのであるが、其の努力のあとを顧るとき、吾人は其の實績の偉大なるに驚かされる間も無く村長に推されて就任、尙ほ、佐渡郡養蠶業組合長をも兼ねてゐる。氏は政友系にして、讀書謠曲等高尙なるを其の趣味とし眞言宗を信奉さる。

吉井村吉井本郷

迎町彌曾吉

氏は陸軍歩兵上等兵として日露戰爭に出征したる勇士にして各地に奮戦又奮戦多くの勳功をたて、勳七等に叙せられ、瑞寶章を賜りたる榮譽の主である。

當家は氏の代にて十代目に當る舊家に於て、先代彌五郎氏は村會議員其他の名譽職に在りて村治に盡瘁し、多大の功勞を遺せしものにして資性温厚篤實、村民の聲望普く、氏はその長男として、明治七年十二月五日當地に岳降したるものである。氏も又温厚篤實にして、高潔清廉

しかも博識多才にして現在名村長として
聲望あり、その功績多大にのほり、村會
議員として二期、一身を挺して當村の發
展に盡瘁し居るものである。又元郡會議
員として功勞あり當地方切つての才腕の
主として、東奔西走席の温まる間なく自
治事業に精進し居るものにして、しかも
吉井村電氣事業部の管理者として寧日な
き歲月を送り、事業家として卓抜なる腕
才をもつてゐる。氏の抱負は村自治の圓
滿なる發達を念願とし、専心それに邁進
しゐるものにして、氏は又民政系の當郡
に於ける重鎮として知名であり、終始一
貫己れを捨て、公職に在る人格者として
衆望を瘡つてゐる。

氏の夫人まつ子氏は國防婦人會評議員
として銚後の完全を期して活躍してゐ、
寧日なき氏のみき半身として後顧の憂ひ
無からしめてゐる賢夫人である。氏の家
庭は故に春風香りゐる感あり、圓滿なる
模範的な家庭として信望があり、羨望さ
れてゐる。

羽茂村羽茂本郷

羽茂村長 川口 準吾



氏は俳句をよくし、號を流石と稱する
その道の達人にして、
既に宗匠格
風流を愛し
公職に寧日
なきも少閑
を得て俳道に遊び、忘我の境にありてし
ば、傑作をもつにする風流村長として
名聲がある。氏が俳句に興味を興したる
は舊く、芭蕉の寂を、一茶の厭世的懷逸
さを愛し敬慕して、自らの俳道に熾烈な
る意欲をもち、市井の風流人としての遊
びの境を既に超越してゐる。

當家は舊家にして、連綿たる家系を有
し、素封家として當地方の名望家として
信望あり、先代茂吉氏は資性實直清廉の
士として村治に關與し、多大の實蹟を遺
し、氏はその五男として生を享け、小木

高等小學校卒業後、收入役として勤續し
その後援會長として當村農業の發展に功
顯し、多大の實績をあげ村長に就任する
や、村民生活の向上、農村としての更生
を企劃し、献身的熱意を以て研究し努力
貢獻するところ甚大であり、當村今日あ
るは實に氏に負ふ處多大である。
當家は代々眞言宗を信奉し、氏もま
た敬神崇祖の念に厚く、一家揃つて神社
崇拜、墓參を缺かしたことなく、模範的
な家庭として村民の信望厚く、和氣に溢
ちてゐる。

赤泊村赤泊

赤泊村長 岩間 盛光



氏は、武人氏の三男として、呱呱の第
一聲を放た
る資性明敏
長ずるに及
びて、佐渡
中學校に入
學、終始優

秀なる成績を以て、同校を卒業したので
ある。氏はかねてより、當地方住民が醫
療に恵まれず、爲に幾多の悲惨事の惹起
せらるゝ現状にあるを見、之を默視する
こと能はず、將來醫師となりて、當地方
住民を、病魔と醫療に恵まれざるの悲惨
より救済せんと欲し、同中學校を卒業す
るや、直ちに、熊本醫學專門學校に入學
同校に於て、専心醫學の修業に勵み、業
終へて、故郷に歸り、當地に於て開業、
茲に醫師として、社會奉仕の第一歩を踏
み出したのである。爾來氏は常に、醫は
仁術なりとの信念に下に、金錢問題を全
く超越して、診察に應じ、敢て醫料を請
求するが如きことはない。

村民は氏を敬愛すること慈父の如く、
推して、村長の要職につかしめんとした
氏は、村民の懇望に應へて、村長に就任
爾來、當村發展の爲め、日夜奔走、村民
は氏を長と仰いで一致團結し、氏の村長
就任以來、同村は衰勢を挽回して、漸く
發展の途上にある。

又氏は當村小學校醫として、多年勤續
し、當村兒童の體位向上には、特に異常
の關心を以て、献身的努力なしつゝ、ある
所である。氏は尙ほ村會議員、信用組合
理事の公職を兼任し此の方面にも尠から
ざる、功績がある。

氏は禪宗を信奉せらる。氏は正義の人
として知られ、自ら顧みて、正當なる
きは何者をも恐れない氣概がある。

河崎村城腰

河崎村長 富樫 熊太郎

當家は約五百年前の創家にかゝり、城
腰部落切つての舊家として、名望家とし
て知られてゐ、代々農業に従事して村民
の信望また頗る高い。氏の尊父先代儀藏
氏は資性剛毅磊落にして、永眠する迄、
村民の厚望あり、當村の發達と向上に專
心努力し村治に功顯するところ大であつ
た。

氏は儀藏氏の長男として當地に岳降し
本年六十五歳、資性高德なる圓滿家とし

てしかも八面六臂の材幹として知られて
ゐ、河崎村長として村治に盡瘁し、献身
的努力を以て、夙に公益に盡し、村政の
改善改革に寄與多き名村長である。氏は
又信用組合理事として産業經濟の發達に
努力し、村民の期待に副はんとしてゐる
又當地方に於ける民政黨の重鎮として名
聲あり、家庭は至極圓滿にして、和氣瀟
々としてゐ、代々眞言宗を信仰して、敬
神崇祖の念に厚い良家庭である。
氏の趣味は生花にして風流の道を好み
山野の情趣を室内に再現せんとするてす
さびに在り、又釣を好み、忙中の少閑を
得て糸を垂れるを愉しむの境地をもつて
ゐる。

外海府村小田

外海府村長 池 敬藏

先代森藏氏は本村産業の開發、特に農
業方面の改善に努力して、よく本村今日
の隆盛を見るに至らしめし名村長にして
本村人材中の代表的存在であり、村會議



人に勝ぐれ
ことに及ぶ。
年に及ぶ。
を奉職する
小學校訓導
に歸りて、
郷里に優秀な成績で卒業し、

員たりしこともある。氏はその次男にして明治三十年九月二十日の生れ、舊家の名門に生れて、夙にその才智を講はれ高田師範學校を優秀な成績で卒業し、郷里に歸りて、小學校訓導を奉職すること、二十人に及ぶ。氏は博識を以て、熱心に子弟の教育に當り多數の有爲の士を出しその業績は筆舌につくし難いものあり、村會議員、郡農會代議員、金錢債務調停委員にも歴任し、進取の氣性に富める性格は次々に新しい職務を遂行して秀た敏腕家との評判を拍す。高千、外海府小作調停委員、村長に就任し、その才に任せて、夙夜精勤してゐる。



金泉村
土井伊之吉
金泉村長
勳八等

仰厚く、恭敵の住職をよく補佐して、寺運の隆盛を願つてゐる。長男平左衛門氏は當年十八歳にして佐渡中學校出身者、目下上級學校入學準備に眞剣な勉學をなしてゐる。氏又父君の名を恥かしめず秀才の呼聲高し。

當主伊之吉氏は、先代金三郎氏の長男として、明治十七年二月、呱呱を擧げた氏は嚴父にも増して性温厚にして篤實、村民の人望頗る厚く、幾多當村の公職にありて、當村々政の向上のため貢献する所甚大である。即ち嘗て、當村助役、農會長、收入役の要職を歴任し、産業、交通、教育等各方面に亘りて、瞻目すべき實績をあげ、後、村民の懇望する所に應へて、村長に就任、氏獨自の敏腕を以て幾多複雑なる、諸懸案を迅速に適正に解決すること、快刀の亂麻を斷つが如く、氏は村民の信頼の期待の的である。

氏は、明治三十七八年の日露戰役に於ては、應召して、滿洲の曠野に赴き、各地に轉戦し、赫々たる武勳を立て、國家を今日の安きに置いた老勇士である。氏は釣を趣味とし、無念無想の境地を味ふことを無上の喜びとして居る。氏は、日蓮宗を信奉され、信仰厚く、日蓮の教へを體得して、正義を愛し、自ら顧みて正しき場合には千萬人と云へども敢へて屈せざる氣概がある。

兩津町港
町會議員 柳澤慶太郎

當家は兩津町港にあり、開祖以來三百年間の家系を有する舊家として知られてゐる。當主慶太郎氏は明治十四年生れ、當年とつて五十八歳にして、夙に町政に參與して功勞あり、現在、町會議員に選ばれて、益々町勢發展に盡力してゐる。また氏は漁業組合長を勤め當港に於ける漁業者の利潤増進、又その改良發達に極力努

力し、當町は漁業に依つてその發展の大半を制するところから、漁業組合の擴大擴張は即ち、當町の隆盛を見るものにして、氏の盡力貢献するところ甚大である。尙氏は民政黨に屬し、政治方面での活動も刮目されて居り、資性英敏剛毅果斷の士にして、氏の盡力するところ何處にもその功績、光芒を放ち、町民の厚き信任を得てゐる。

二見村高瀬
村會議員 宇田金平

當家は家系連綿たる舊家にして、代々農業を營み、信望ある家柄である。氏は先代榮吉氏長男として當地に呱呱の聲を擧げ、當五十一歳の今日まで至誠村治に盡瘁して多大の功績をあげた。氏の資性温厚篤實にして徳義を重んじ、しかも仁俠の義氣に富める人格者として、村民の推舉を受け、村會議員として當選したるものにして、氏は衆望を擔ひて、衆望に背せず村民の福祉を計りて、常に獻身的

努力を爲し居るものにして、又公設消防組第三部頭として功績甚大なるものがある。氏の尊父榮吉氏は温厚にして篤實、よく村民の信望を獲ち得たる人格者であつた。當家は代々眞言宗を信仰し、氏の家庭は圓滿にして和氣藹々としてゐる。

二宮村青野
村會議員 萩田徳太郎



童を以つて
諷れその令
名噴々たる
氏は、明治
二十年十月
十日、先代

九平治氏長男として生る、當家は代々名主、庄屋をせる家柄にして當主にして、七代を累ねる。先代九平治氏は區長を數回に亘りて勤續せる人にして、村自治の爲に、枚舉に遑なき功勞を遺し、村會議員二期を務め

て本村農業の改善發達には功績顯著なものである。

當主徳太郎氏は、消防組頭、國勢調査員、農業調査員等を兼任し、その功績燦然たるものありし爲め、現に村會議員に推され、父君の衣鉢を繼いで、匪勉、その重職を果してゐる。才に任せて不羈なるも、識量あり、寛厚にして、恭勤博賢なるを以て、村民の氏に信頼するところ甚大なるものがある。

家族は七人にして、氏は常にその愛兒達に、讀書を進め、忠孝の道に勵むことを説いてゐる。

金澤村泉

村會議員 勳八等 北見仁策

當家は常村有数の舊家にして、而も本村屈指の名門である。代々農を營み、篤農家の聞えが高い。當主は當家の第十六代目に該る。

當主仁策氏は、明治十七年一月二十三日、呱呱を擧げたのであるが、祖父傳來

の業たる農業に従事すること最も熱心、常に農業の改善進歩に留意し嶄新なる知識の吸収に努めてゐる。

氏は又材木商をも營み、當村山林の開發に努めてゐる。

氏は明治三十七八年の日露戦役に参加したる勇士にして、滿洲の曠野に於て或は炎熱焼くが如き酷暑の下に、或は萬物



氷らざるものなき嚴寒の下に、各地に轉戦、赫々たる武功を立て、

凱旋したのである。氏の存在は洵に當村の名譽とすべきである。

氏は温厚にして篤實、村民の人望厚く幾多の公職にありて、當村發展のため、其の功勞、洵に甚大である。即ち嘗て、信用組合理事として、庶民階級の金融に關し、銳意其の圓滑を圖り、大いに其の効果を擧げたのであるが、現に當村々會

吉井村大和

村會議員 勳八等 功七級 谷地田彌五郎

氏は當年五十五歳にして、先代富藏氏の長男として生る。家は代々農業に従事し村内の舊家である。

仙臺野砲兵として日露の戦役に参加し滿洲の各地にその武功を輝かし、勳八等功七級を賜はる。歩兵一等兵である。

凱旋後は家業を繼いで、刻苦して勉勵し、現に村會議員の要職にある。氏は豊富なる經驗を以て、農村興隆に寢食を忘れて努力奔走しつゝあり。村民も氏の盡力には感謝の意を表してゐる。



氏は佐渡名産、無名異焼を自家にして經營し、その優良品を誇つ

てゐる。その販路の擴張には、夙に、努力を拂ひしところにして、よく今日の繁榮を致す所以である。

資性、英邁、寛厚にして、言語甚だ明暢なり。民政黨に屬し、宗旨は眞言宗にして、稀なる信仰家なり。

家庭五人にして、村民に微笑まれる程の圓滿なる家庭である。

新穂村井内

村會議員 末武忠太郎

當家は三百年前の開祖にして、先祖代々庄屋を勤めたる村内部落切つての名門舊家である。當家は代々村民の信望厚く、農業を營み爾來數百を數へる歲月を致々として農業の發達と、村治に盡瘁し來りたる家柄である。

先代甚平氏は篤農家として知られ、温厚篤實にして信望ある人格者であつた。氏はその長男として明治十九年十一月十日當地に呱呱の聲を擧げ、資性温順なれども氣骨稜々として俠氣に富み、現在村會議員として第二期にあるも、私利私慾を排し、無慾恬淡常に村民の安寧幸福を希ひ信念をもつて村治に盡瘁し、衆望を獲ち得てゐる。氏は前信用組合理事、農會副會長として産業經濟に關與しその發達に功顯するところ多大にして、當村の今日あるは實に氏の力が預かつて大をなしたるものである。

氏は日露戦役の際補充兵として召集を受け帝國軍人の一員としてよく軍務に精勵し、責を全ふし、温厚篤實なる人格者

として今日に至つたものである。氏の長男九衛門氏は大正七年生れにして本年二十一歳の青年なるも東京農科大學卒業の秀才にして、將來を囑目されてゐる。頭腦明晰にして才氣煥發、洋々たる前途をもち、實に當村の將來は氏の双肩にあると云つても過言では無い。氏の家庭は眞言宗にして、敬神崇祖の念に篤く、氏は令息九衛門氏を得て益々村治に邁進、献身的村政家として村民の信望を集めてゐる。

畑野村宮浦

村會議員 農會長 中川源藏

至誠、公平、然して温厚篤實の人として衆望を擔つてゐるわが中川源藏氏は慶應二年生れ、當年七十三歳の高齡を以て尙矍鑠たるものあり、壯年時代の旺盛さを偲ばしめるものがある。

現在農會長、村會議員の公職に携はり献身盡力せるその功績はまことに、村政發展上大いなる力となつたのである。

中川家は約三百年前の開祖にして、爾來連綿と續く家系を有し代々庄屋を勤めた名門である。家業は農業にして先代はまた篤農家として聞え、當家は宮浦部落に於ける代表的資産家として有名である。當主また家業に精勵する傍ら村政に關與し功勞多大またそのみならず稀にみる偉大なる人格者として、地方民深く敬慕を寄せ、當部落の元老格として權威ある士である。

日蓮宗を信仰し、篤信家として聞えて居り、家庭圓滿和氣霽々として、羨やむべき一家團樂を呈してゐる。

羽越村大石

村會議員 正八位 仲野源兵衛

曩に當村軍人分會長を勤めて、在郷軍人の健全なる精神涵養、訓練等に銳意努力して好評噴々たる氏は先代源平氏の男として明治二十二年岳降したものである。幼にして頭腦明晰俊敏剛毅の氏は長じて佐渡中學に學び同校を卒業した秀才である。



の重厚にして圓滿、清廉高潔なる人格と相俟つて衆の信望頗る厚く

現時推轡をうけて村政の中樞に參與し、村會議員一期目を執掌中で、一意専心村民の福祉増進に貢獻してその事績赫々たるものがある。

趣味として氏は書畫をたしなむ高尚なる趣味を有してゐる。

家庭は頗る圓滿で、内助の功多き令閨との間琴瑟相和し、春風洋々たるものである。

因に、氏は軍籍後備歩兵少尉にして正八位を賜つており、また當家は村内切つ



氏は實父伊八氏の次男にして分家をなす。明治三十二年十月の生れ、今年四十一歳の將來ある氣節の士である。

嚴父伊八氏は村會議員として、公共の爲め盡力して倦むところを知らず、最善を竭して最大の効果を奏するを以て本領とし鞠躬盡力しその功により、遂に村長の榮譽を擔ふ。

喜代治氏は新潟商業學校を卒業し、父君の教をよく守りて、夙に農村の各方面に研鑽をつむ。

赤泊消防組頭となり、その功績は群を

ての舊家として譽聞である。電話は羽越の十六番。

赤泊村赤泊

村會議員 森川喜代治

抜き、爲に村民は氏を村會議員に推す。

氏の村會議員となるや嚴父の村會議員たりし當時を忍んで、刻苦してその要職に没頭す。その爲せる功績は確固として永久に村史上に異彩を放つことであらう。

氏の讀書は廣範圍に及び、村内屈指の藏書家にして、又寫眞に對する造詣が深く、優れた技術を修得して居り、その寫す所の作品も、又藝術味に富めるものである。

河崎村久知川内

村會議員 本間 強

當村々會議員として卓抜明敏なる頭腦と、論旨整然しかも雄辯なる辯舌とを以て知られてゐる氏は、常に村民の幸福と、農村としての發展を劃し、一意専心村治に盡瘁し、献身的努力を爲し居るものにして、氏は又前農會代議員として農業の改革を叫び、農民の立場に自らを置いて生活の向上、農村の自力更生を叫び、一方の闘士として知られてゐる。

當家は約七百年前の創家にかゝる舊家にして、先租代々農業に従事し、篤農家として知名である。先代の俊平氏は、村會議員として村治に盡瘁し、村民の福祉増進に邁進し、信望厚かりし人格者にして、資性温篤厚實なれども、俠氣に富み信する處を常に把握して譲らず、しかもその信念高潔にして、他の追従を許さぬ確固たる立場にあつて、常に人望を集めて居り、その家は名望家として名門として名聲が高い。

氏は俊平氏の息として明治二十三年十月二十日當地に呱呱の聲を擧げ、資性温厚にして謹直、思慮深き人物として村民の信望頗る厚く、しかも徳義に厚き人格者である。氏の趣味は盆栽にして、忙中の少閑を得て、枝を剪定し、肥料をやり成育を愉しむを常としてゐる。氏の長男卓治氏は昭和十一年滿洲守備隊に入隊せる忠烈なる勇士にして、爾來祖國の爲困苦して大陸の地に奮戦又奮戦、北支戦線の勇士として活躍し、多大の勳功をあ

げつゝあり、その資性剛腹快適、帝國軍人の範たるべき人物であり、將來を矚目され居る皇軍の戦士として、村民の感謝と信賴とを受けてゐる。氏の家庭は代々眞言宗にして氏の信仰頗る篤く、一家揃つて敬神崇祖の念に厚い。

加茂村平澤

村會議員 祝 廣吉



氏は誠漁家として知られてゐる程、家業に督勵せる人物であつた。

當家は相當の舊家にして、當主は六代目である、實父半五郎氏の長男である當主廣吉氏は、明治二十二年四月一日出生現在五十歳になる。

氏は資性温厚着實、また寛大にして勤勉なる努力家にして、家業を勵むと同時

に村政に參與し、元羽吉濱漁業組合理事として、當村の漁業隆盛の基礎をなしてゐる功勞者である、又村農會代議員として農會の發達に寄與せること多く、氏は漁業と農業との發展を以て、當村進歩の大旗となし、そのために一意専心邁進したのである。現在は村會議員として第二期目にして、赫々の功績をあげつゝある氏は民政系にて、活動盛んである。

長男數馬氏は、當年二十三歳、前途有爲の青年にして、電信隊付として出征、目下中支に於て奮戦活躍中である。

長男を戦線に送りたる一家は、協力一致銃後の護りを固めてゐる圓滿なる家庭である。

外海府村

村會議員 山本次郎吉

當家は當村屈指の舊家である。當主次郎吉氏は、當年五十八歳の働き盛りである。性明敏にして、少年時代より良く群を抜いて、頭角を現はした氏は先代に認

められて、養子となり、父祖の業をつぎて、農業に従事し、篤農家としての聞えが高い。



氏は温厚にして篤實村民の人望を一身に集め、村會議員、學務委員として、村自治のため、異常の努力をなしてゐる。

氏は、また兒童教育に、多大の關心を有し、學校施設の充實には、銳意力を注ぎ同方面には多大の功勞がある。

昨年七月、支那事變勃發するや、當村よりも多數出征したのに鑑み、氏は銃後の守りを固くするため、村民を精神的に動員して、益々生産力の擴充に全力を盡してゐる。

氏は政友會に屬し、眞言宗を信奉せられ、信仰頗る篤く、その家庭は圓滿にも和樂を極めてゐる。

高千村小野里

村會議員 齋藤 仁吉

當家は當部落創始者の家柄である。歴代名主、庄屋を勤めて、當村發展に寄與する所甚大である。代々農を營み、篤農家として知られてゐる。

當主仁吉氏は先代瀧藏氏の長男として明治十八年三月二日、呱呱の第一聲を擧げた。

性温厚にして篤實、村民の人望頗る厚く、幾多の公職にありて、産業、交通、教育の各方面に亘つて



多大の功績があつた。即ち、嘗て信用組合長

同理事、家畜組合副會長の公職を歴任し、其の功績洵に没すべからざるものがあつたのであるが、現に村會議員、産業統計委員として、日夜奔走し當村々民の福利増

進に貢獻する所大である。

昨今、日支事變勃發し、當村よりも、多數應召して、北支、中支、南支の各戦線に赴き、目下暴支を膺懲して、東洋永遠の平和確立の爲め奮闘しつゝある所であるが、氏は率先して、出征遺家族の慰問に當り、勞働の奉仕を爲さしめる等、銃後の守りを着々固くしてゐる。

氏は民政黨に屬し、自治に關しても、常に多大の關心を有し、農村の衰勢に對しては、一方其の負擔の軽減を絶叫すると共に、他方他力主義を排し、自力救済を以てすべきことを強調してゐる。

氏は釣を趣味とし、清流に竿さして、無念無想の境地に至るを、無上の喜びとしてゐる。

氏は、又眞言宗を信奉せられ、信仰頗る厚い。

家族は、長男千代松氏が當年二十六歳にして、目下信用組合書記として、勤務中であり、前途有爲の青年として多大の期待をかけられてゐる。

金泉村北狄

村會議員 北見 竹藏



當家は代々農を營みて、篤農家である。當主竹藏氏は先代幸八氏の男として呱呱の聲を擧げ、當年五十七歳

の働き盛りである。氏は父祖傳來の家業をつぎて農業に従事し、傍ら肥料商を開業し、當地方の農家に對する肥料の配給に多大の便益を與へてゐる。

氏は温厚にして篤實、村民の人望厚く、區長、信用組合長等の要職を歴任し、其の功績多大なるものがあつた。特に氏は信用組合の創立に當つては、其の創立委員として奔走し、信用組合今日の基礎を作つた。

又村會議員に當選すること、四回に及びて現在に至り、日夜農村開發に奮闘し

つゝある。

昨年七月、支那事變勃發し、當村よりも多數應召するや、氏は率先して、出征遺家族の慰問、勞働奉仕等に奔走し、銃後の守りを益々強固にして居る。

氏は政友會に屬す、村自治の重鎮として格勵し、都會に對し、農村の負擔過大なるに對し、其の負擔の均衡、軽減を絶叫してゐる。

氏は眞言宗を、信奉され、信仰頗る厚い。家庭には、家族四人、氏は其の中心として之を統制し、家族は氏を長と仰いで敬愛し、其の圓滿振りは、人の羨望する所である。

河原田町

郵便局長 高橋 進

河原田郵便局は、昭和八年の設立にかゝり、現局長高橋進氏は五代目に當る。

氏は、河原田中學校卒業後、先代亦藏氏の後を襲ひ、局長に就任したるものにし

て、亦藏氏の長男として明治四十一年五月七日當地に呱呱の聲を擧げ、資性濃厚にして活達、しかも潑刺たる氣概を有し村民の信望厚き人徳の士である。

先代亦藏氏は徳義に厚く、明晰機敏なる資性を有し、通信事務に關與して多大の實績を擧げ人格者として知名であつた氏はその血を承けて獨創の才氣あり、町の發展は一に交通にあるものとして鋭意努力し居るものにして、氏が趣味として美術を愛し、卓拔なる鑑賞眼を以てゐるは、氏の藝術に對する熾烈なる要求に依るものにして、趣味の豊かな人としても知名である。

氏の家庭は圓滿にして和合を極め模範的良家庭として信望がある。
尙河原田郵便局は、改築工事着手中に於て敷地百坪位であり、着々と完成されつゝあり、日に月に發展途上を辿つてゐる。

當郵便局の將來は一に氏の双肩にあり町と共に發達せんとするものである。

金澤村中興

郵便局長 石塚夫二十

氏は佐渡中學校卒業後、東京早稻田大學工科に學び優秀なる成績を以て卒業したる後、東京市品川區大崎の商工學校教諭として八年間奉職し、教育者として貢獻裨益するところ甚大であつた。その後歸村して中興郵便局長として今日に至つたものである。

先代敬一氏は東北學院卒業後、佐渡中學校英語教師として奉職せしことあり、教育界の功勞者として寄與するところ甚大であり、退職後當郵便局長として三代目に當り、多大の實績を擧げ高潔なる人格者として知名であつた。氏はその長男として明治三十四年十二月一日當地に呱呱の聲を擧げ、明敏達識にして公平無私しかも謙讓の美德を備へたる人格者として信望があつた。

當家は代々通信事務に關與し、村の發展に功顯するところ甚大にして、氏はそ

の四代目に當り本年四十八歳の壯年において益々將來に進展せんとしてゐるものにして、氏の趣味は讀書、有識人として向學の念に厚く、時代と共に進展せんとを期してゐる。氏は未だ専門的方面的の研究を爲してゐる學徒である。

氏の家庭は圓滿にして和合を極め、代曹洞宗を信奉し、敬神の念に厚き人格者として、家庭に於ても又圓滿人である

加茂村和木

郵便局長 小池 一一

先代保次氏は、剛腹快適の材幹にして、當和木郵便局開設の必要を痛感し東奔西走の結果、當局の開設となりたるものにして保次氏は初代局長として貢獻裨益するところ甚大、資性廉直しかも剛毅磊落にして村民の信望頗る厚く當局今日の素因を作つたものである。

一一氏は先代の次男として、明治二十八年三月二十五日當地に呱呱の聲を擧げ加茂高等小學校卒業後、二代目郵便局長

として就任以來、献身的努力を以て、當局の發展に邁進しゐるものにして、資性圓滿潤達、實實敦厚、よく人の言を用ひて衆望ある人格者である。

氏の家庭は圓滿にして和合を極め、氏の人格を反映して模範的良家庭として羨望されてゐる。又當家は代々神徒にして神ながらの道を崇ひ、敬神の念に篤く、氏を始めとして朝夕神前に禮拜し、國家の安體と子孫の繁榮を祈つてゐるなど、模範的良家庭である。

氏の信念として當村の開發は交通より出發するものにして、通信機關に關與するもの常に國家の一細胞として、確固たる信念の下に行動せんとしてゐるものであり、氏は又多趣味にして少閑を得て趣味に遊ぶを常としてゐる。

赤泊村赤泊

赤泊郵便局長

武部 喜藏

當赤泊郵便局は明治九年七月一日開設せられたものである。

先代喜八郎氏は當郵便局の第三代目局長に就任し、常に村民の便益を旨とし、親切丁寧郵便事務に従事し、當村々民に多大の便益を與え、村民の信望厚かつた人である。

當主喜藏氏は先代喜八郎氏の長男として呱呱の聲をあげられた。資性明敏、少年時代より群童をぬきて、頭角を現はし、世人より將來を囑望された。

長じて、佐渡中學校に入學するや、終始優秀なる成績を以て、同校を卒業し、父の業をつぎて、當局第四代目局長に就任し、爾來今日に至る迄、局長として郵便事務に従事し、明晰なる頭腦を以て迅速且適正に之を處理し逐年成績を擧げてゐる。

氏は又赤泊信用組合監事の公職を兼ね庶民金融に關しても、常に熱意を以て之に當り、尙信用組合の健全なる發達に資する所大である。

昨年、支那事變勃發するや、氏は率先して、出征遺家族の慰問、勞働奉仕に従

ひ、戦線將士をして、後顧の慮なからしむるため奔走してゐる。

氏は眞言宗を信奉され、信仰厚く、敬神の念亦深い。

加茂村浦川

浦川郵便局長 酒井 茂市

先代傳次氏は、浦川郵便局の第二代目局長として



通信事務に永年従事して、幾多の功勞ありし人である。

當主は、先代傳次氏の長男として、明治十三年一月二十八日、呱呱の第一聲を擧げた。

父の業をついで、第三代目局長となり専ら郵便事務に従事してゐる。其の親切丁寧なる事務の取扱は、當村々民の間に多大の好評を博してゐる。

氏は性濃厚篤實、推されて、學務委員

となり、常に児童教育の重要性を説き、従来幾多不備の點ある學校施設は、氏の奔走により、大いに充實せらるゝに至つた。昨年支那事變勃發し、當村よりも多數應召して、戦線に赴くや、氏は率先して出征遺家族の慰問労働奉仕等に奔走し、銃後の守りを益々固くしてゐる。

氏は謡曲、盆栽を趣味してゐる。眞言宗を信奉され、信仰頗る厚い。

長男源太郎氏は當年三十一歳にして、佐渡中學出身、局長代理として、精勵中である。

水津村水津

郵便局長 木透 壽福

當家の祖先是五六百年前に創設したと云はれる村内切つての舊家にして、村人は呼んで木屋さんと云ひ、古くより材木を扱ひ、家業としてゐた。祖父の時代より郵便局を創立三代相傳へて創局より現在に至つたものである。先代は壽吉氏と云ひ徳望高き人として村民の信任を得て



仙臺通信講習所にて修業、父君の後をついで當郵便局長

なる。當主壽福氏はその長男にして明治四十一年六月二十一日生れ、本年未だ三十一歳の青年郵便局長にして、天性英邁思慮深き人物にして、佐渡中學卒業の秀才、その後

加茂村白瀬 白瀬郵便局長 中島 孫市



氏は當年五十七歳の働き盛りにして人格頗る圓滿にして、村民より敬愛されてゐる 長男孫次 氏は當年三

十二歳であり、米澤高等工業學校出身の俊才にして、東京市所在の精密機製作所に技師として、就職中の所、昨年支那事變勃發するや、應召し、工兵少尉として戦線に赴き、目下殺人的酷暑の下東洋に永遠の平和確立の爲奮戦中である。氏又、自己の身を顧みず、率先して出征遺家族の慰問労働奉仕に奔走せられてゐる。實に氏の如き人物あつてこそ銃後の健全なる營みはなされるのである。

高千村北田野浦

郵便局長 田邊 五作

當家は當村屈指の舊家である。歴代農を營み、篤農家として聞えが高かつた。然る所、先代孫太郎氏の代に至りて當地に郵便局の開設を見るや、孫太郎氏は當郵便局初代郵便局長に就任し、終生、郵便局長として、郵便事務に従事し、之に従事するに當つては常に當地方住民の便益を旨として親切丁寧、當地方村民に多大の便益を與ふると同時に、當地方開發に資する事大なるものがあつた。

當主五作氏は、先代孫太郎氏の長男として、呱呱を擧げらる。當年四十六歳の働き盛りである。氏は父の業をついで、郵便局長に就任、鋭意郵便事務に従事して最も熱心である。氏は郵便事務に従事するに、眞摯精勵を極め、村民より多大の好感を持たれてゐる。昨年七月、支那事變勃發し、當村よりも多數應召して、戦線に赴き、よく困苦

缺乏に堪えて、各地に轉戦、武勳赫々たるは、洵に吾人の感謝感激する所であるが、氏は戦線將士をして、後顧の憂をなからしむるため、多忙なる郵便事務なるにも不拘出征遺家族の慰問、出征遺家族の爲めの労働奉仕等に、率先して當り、銃後の守を益々強固にしてゐる。氏は眞言宗を信奉せられ、信仰頗る厚い。

二見村大浦 村會議員 出崎龜太郎



當家は數代連綿繼承せる舊家にして由緒ある家柄である。曩に本村軍人分會副分會長として、在郵軍

人の精神涵養、訓練等の指導誘掖に當つて力を盡し好評噴々たる氏は、明治十八年の岳降である。

二宮村上矢馳 村會議員 佐々木保四郎

氏は佐渡中學校卒業後、歩兵上等兵として軍務に精勵したることあり。元助役として村治に盡瘁し功績多く、元收入役

として三期に亘り勤続したることあり、又青年團長として青年の指導教化に當るなど至誠献身的努力を爲し、惜しまれて職を辭するや、村會議員に推され、村民の期待と衆望を擔ひてその期待に副はんと鋭意努力し、信賴と人望を獲ち得たる人格者である。氏の資性廉直潔癖にしてしかも俊敏の氣性に富み、徳義に厚き風格



を有しての趣味を讀書に持てる知識人として向學の念に富み、常に

時代と共に發展、向上せんとしてゐる氣概の持主である。當家は村内切つての舊家にして氏は六代目に當り、先代彌作氏は温厚篤實なる人格者として信望があつた。氏は彌作氏の長男として明治二十七年五月五日當地に呱呱の聲を擧げ、爾來村政に貢献多大の成果を擧げたるものにして、民政系の

重鎮として衆望を擔つてゐる。氏の家庭は氏を中心として和氣に充ち圓滿なる模範的良家庭である。

金澤村平清水

村會議員 北見 菊藏

氏は謡曲に造詣深く古典的な朗々の音調は村民の親しく耳にするところにして既に素人の域を脱してゐるとの評判を得てゐる。

北見家は開祖以來八代目、代々農を以て家業となし、誠農家として聞えてゐる。先代は久藏氏と稱し當主はその長男にして、文久二年生れ、七十七歳の高齡である。氏は夙に村自治に參與、區長たること三回、農會評議員、縣負債整理委員等に就任、氏の活躍振りはまことに目覺ましく當村村政の元老の一人として村民の信任篤く、現在は村會議員、多聞寺檀家總代として盡瘁貢獻してゐる。

氏は天性温厚にして着實、また非常に熱烈なる努力家にして、人を容れる雅量

廣く、衆望を擔ふに足る人格者である。

多聞寺は眞言宗にして、北見家一家は信仰心深く、篤信家として知られてゐる家族は四人にて、一家團樂の圓滿平和にして、氏の人格の及ぼすところ、村政の圓滿なる發展また家庭の平和にある。

吉井村安養寺

村會議員 内野 常藏

氏が區長として村治に盡瘁したるは五回に亘り、村會議員として、耕地整理組合副會長として、長期の間専心努力、その貢獻するところ甚大である。

當家は五百年前創家されたものにして村切つての舊家であり名望家として知名信望厚き家柄である。先代四郎兵衛氏は氣骨稜々、しかも謙恭なる人格者として人望あり、氏はその長男として、生を享けたるものにして、本年七十五歳の高齡に在るも、嬰鑠として壯者を凌ぐ精力の持主であり、資性温厚なれども剛腹快速なるところあり、村の長老として村民の

信望厚き人格者である。氏の長男は長嶋部隊に編入され、出征中の勇士にして、頭腦明晰にして剛毅果斷なる青年として各地に轉戦又轉戦多くの武勳をたて、村民の範たるべき帝國軍人である。

新穂村下新穂

村會議員 影山 新八



當家は開祖以來十六代目に當る舊家にして下新穂村部落に於ての舊家であり名望家として知られてゐる。

先代藤平氏は村會議員として村治に功績あり、資性温厚にしてしかも淵達、信望ある人格者であつた。氏はその長男として明治二十四年十七日當地に呱呱の聲を擧げ、新發田十六聯隊に入隊し現役兵として軍務に精勵よく帝國軍人としての責務を盡し、其の後歸村して村治に盡瘁し

居るものにして資性、明快嚴正、氣骨稜々たれども徳義に篤き人格者として、村會議員に推され、村民の幸福に一身を挺して一意邁進しゐるものにして、又青年團長としては青年の指導教化に當り、戦時下に在る我國の、次の時代を負ひて立つ青年の薫育に大なる抱負を持ち、日本精神の名の下に健實しかも剛毅なる國民を養成せんとして日夜その達成に腐心し信賴を獲ち得てゐるものにして、人格者の名に背かない。

氏は趣味を讀書に有し、新聞、雑誌によく目を通して、時代の趨勢に副はむことを期し、常に時代と共に進歩し、發展することを勵み、青年團長として青年の動向を注意し、その善導に與つて力あるは、實に氏が常に時代を見詰め、時代と共に在りて進展せんとする意欲に依るものである。氏の家庭は圓滿にして日蓮宗を信仰し、氏も又日本佛教の雄たる日蓮より教へを受くること甚大にして、闘争の人日蓮の精神を汲みて、現代の生活に

生かさむことを念願としてゐる。

畑野村目黒町

村會議員 齋藤利右衛門

當家は家系詳かならざれど、相當の舊家と思はれる。先代鎌藏氏は村政に盡力し、村會議員、區會議員の公職を約二十年間勤続せる人にして村治功勞者として聞えてゐる。

當主利右衛門氏は明治二十七年一月二十六日生れにして天性温厚にして篤實、また勤勉なる士である。新發田第十六聯隊に歩兵として入隊、除隊後は村治に盡瘁推されて青年會長となり、青年の指導に献身し、氏の人格と努力により衆望を擔ひ、青年の畏服するところである。

また私設消防組頭として消防組の改良發展に寄與し農會總代として尙功勞赫々現在は村會議員、區會議員、氏子總代等の要職に選ばれ、圓滿なる村政を目指して貢獻努力してゐる。

政友系に屬し、政治方面の活動も著し

く、非常に重要視されて居る。

利左衛門氏夫人アヤノ氏は當年四十歳賢夫人の令名高く、家業に勤しんで居り一家は春風の吹き寄る如く平和に満ちた家庭をなして居り、宗旨は眞言宗にして信仰心厚く、村民の信望を仰いで居り氏は將來村政の發展も、氏の熱烈なる努力に依つて期待せられるものが多いであらうと目されてゐる。

加茂村羽茂本郷

村會議員 海老名武左衛門



氏は及ぶ當家は、當郡内の味噌製造業の元祖にして、氏は先代武十郎氏の長男にして、明治二十九年六月二十九日生れである。

先代武十郎氏は村長の重職にあつて、

その功績顯著なものあり、近村一帯にその令名を誦はれ、郡會議員、縣會議員等を次々に活躍範圍を廣め、奇才縦横、思慮綿密にして、縣政界に重きをなせる人である。

武右衛門氏は佐渡中學校出身にして、陸軍衛生兵上等兵である。

味噌同業組合評議員、味噌工業組合監事として、斯界に於ける氏の存在は、偉大なるものにして、各組合に萬嶽の重みを加へてゐる。氏は又村會議員にして學務委員をも兼ねてゐる。

趣味は圍碁にして、有段者の資格あり村内で氏の右に出でる者がない。宗旨は曹洞宗であり、住職の高潔なる人格を徳として信仰心深きものがある。

河崎村下久知

村會議員 本間稔

當家は當村有数の舊家にして、今より五百年前より、當地に於て代々農を營み、篤農家である、先代俊平氏は特に勤

勉家である。

當主稔氏は、先代俊平氏の男として、呱呱の聲を擧げ、當年三十七歳の働き盛りである。

男性的にして決斷力強く、又至誠公に殉ずる人である。村民の人望厚く、農會理事、實行組合理事、國勢調査員、負債整理員の要職を歴任して、よく其の職責を果した。



氏は現に村會議員として當村村會の重鎮として重きをなして、

なし、次期助役として高評があり、將來は村長として當村の爲め多大の貢献を爲すであらう。

昨年、支那事變勃發し、當村よりも、多數出征するや、氏は銃後の守りを固くする爲め、又出征將士をして後顧の憂なからしむる爲め、萬遺憾なきを期してゐる。即ち村民を督勵して、出征遺家族の

爲め、勞働奉仕を爲し、又奢侈をいまして勤儉貯蓄の風の養成に務めてゐるのである。

加茂村玉崎

村會議員 後藤助



當家は當村屈指の舊家にして、歴代農を營み、篤農家である先代圓次郎氏は着實の人にして

信望厚く、村議其の他の名譽職を勤めて、當村發展のため貢献する所尠からざるものがあつた人である。氏は高齡であるが今尙ほ健在である。

當主助氏は性温厚篤實の人にして、嚴父にも増して村民の人望厚く、幾多公職にありて、當村發展の爲め、貢献するところ大である。

即ち、氏は村會議員に當選すること二

回にして現在に及び、又内浦漁業協同組合理事、加茂村蓄産改良組合副會長をも兼任してゐる。

氏は寡言實行の人である。その就任以來、當村々會の重鎮として、村會に於ける指導的地位にあり、産業に、交通に、或は教育に、着々具體策を提唱して、概ね多數の共鳴者を得、着々之を實行し、今や當村は從來に比して、面目を一新したる觀がある。即ち、名農家に於て農業は多角形的に經營され、道路は四通八達し、學校施設亦良く充實されてゐる。

氏は明治二十年二月十五日、先代丹次郎氏の長男として、呱呱をあげられた。長じて歩兵として入營、よく軍務に精勵せられ、歩兵上等兵に進級さる。

昨年支那事變勃發するや、率先して、出征遺家族を慰問し、又は出征遺家族の爲め勞働奉仕をなして、戦線將士をして後顧の憂なからしめ、又生産力を擴充して銃後の守りを固くしてゐる。

家庭は至極圓滿である。

外海府村小田

村會議員 中村岩吉



氏が衆望を擔ひて村會議員となり、爾來村民の幸福を期して邁進多大の實績を擧げてゐ、又高斗信用組合

監事として村の産業經濟に貢献する處甚大である。

當家は古く連綿たる家系を有し、先代爲藏氏は十六代目に當り、温厚篤實謹直なる人格者として村民の信望厚く、氏はその長男として明治三十四年一月三日當地に呱呱の聲を擧げ、資性穩健着實にして公平私無、公職に在りて村勢の發展と繁榮に寄與して來た。氏は政黨關係政友系にして當地方の重鎮として名聲あり、氏の家庭は至極圓滿にして和樂に充ち、代々眞言宗を信奉して、敬神崇祖の念に

厚い。

金泉村戸中

村會議員 加藤 丈臣

氏は篤實謹愼、幼にして俊才であつた神識透明にして理を折つこと精密でありよくその時務を識り、富貴に致々せず幾多の公共事業にも、眞摯なる格闘をなす。その研究已むなき熱意と博見強志の人格は村民の間に比肩なき人望あり。村會議員として、村内の開発に盡す所大にして、又國勢調査委員をも歴任した。現に村會議員を勤続し、組合評定委員として、現下農村の生命線たらざるべからざる組合の、機能の發揮、内容の強化、組合事務の擴張、事業成績揚達のために、刻苦して盡力し、その手腕は村内に嶄然として頭角を現はしてゐる。

當家は代々名主、庄家を勤めた當地方きつての名門にして、農業に従事せる家柄にして、先代寛藏氏も村會議員等の要職に巨大な足跡と功績を致し、剛健勇決

にして、侃々、兼ねて仁慈に富み、その高潔なる人格と共に氣節ある眞に傑士としての普き瞻仰を受けた人である。

當主丈臣氏は現在四十八歳にして、性行淑均であり、その喜怒哀を色に形はさず閑端にして、言語少なく、榮利を慕はず書を読むことを好みし、篤學の人である門徒宗の信者として、敬神の念、深きものあり、庶民の範となるべきものである。家族は六人にして、家庭頗る賑かにして、圓滿なるものがある。その父子二代に亘りて、殘す業蹟は永く村内に輝くものがあらう。

二見村大浦

村會議員 西野 長藏

當家は當村有数の舊家にして、且つ、當村屈指の名門である。歴代農を営みて篤農家である。先代久内氏迄は歴代尾平神社の神官を勤めた家柄である。

氏は當年六十一歳の働き盛りである。性温厚にして篤實、稀に見る人格者にして

で、村氏の人望最も厚い。

氏は嘗て元耕地整理組合長の要職にありて、複雑困難なる耕地整理に關する諸種の事務を迅速にして、且適正に處理し耕地整理を完了して、當村の産業發展に資するところ大なるものがあつた。

間もなく、氏は村民多數の支持により村會議員に出馬して當選し、爾來今日に至る迄、日夜當村發展の爲め奔走する。氏は農村衰勢の挽回策については、從來一般に行はれたる他力主義を排し、自力救済を絶叫し、村民を物的心的兩面に動員し各農家をして、村當局協力の下に更生策を立てしめ、着實に之を實行せしめ、爲めに當村は近年漸く更生の途につきつゝある。昨年、支那事變勃發するや、氏は村民に對して時局の重大性を説き、村民一致の下に、出征遺家族慰問に、勞働奉仕に或は生産力の擴充に、一村を擧げて全力を傾注せしめ、當村は非常時局の國家に對し、積極的協力を爲しつゝあるところである。

二宮村眞光寺

村會議員 藤井 治熊郎



篤農家としての氏は常に農村の發展を劃し、土に在りて農村の前途を開くより他に農村の自力更生は期し

難いと思惟するや爾來一意専心農民の生活向上の爲に努力して來たものにして、當家は代々農を營み、如實にその體験を経たる結果、當村の發展を期して、農業の改革に邁進し居るもにして、氏は當家の五代目に當る。先代の倉藏氏は資性温厚にして質實謹直なる人格者であり、氏もその血を承けて、資性温厚温情に富みてもしかも謹直なる性情を有し強く正しく、大地に立脚して農村の發展を劃してゐる人格者として人望がある。氏は明治三十年一月二日當地に呱呱の聲を擧げ、倉藏

氏七男として、爾來農業に精勵し來りたるものである。

氏は村會議員に推されるや、誠心誠意に村民の幸福を念願として努力、貢獻するところ多く、又信用組合理事として當村の産業經濟の發展に邁進し、多くの實績を擧げてゐる。氏の長男好之氏は大正五年生れにして、本年二十三歳の青年、佐渡中津出身の秀才である。現在在家業に従事してゐるも、氏の後繼者として絶對の希望をかけ得るにふさわしき、將來性ある聰明にして理智的なる青年である。

金澤村中興

村會議員 本間 榮太郎

氏は明治二十八年二月五日生れ本年とつて四十四歳、村會議員に推され、既に二期目である。村農會代議員、在郷軍人分會副會長に推され、貢獻盡瘁せる功勞甚だ多く、又本間家は天理教の信者にして、氏は天理教河原宣教所信者總代を勤めて居る。信徒間の信頼篤く徳望高き人

である。

當家先代定次氏は村會議員として村政に貢獻せる人にして、榮太郎氏は、の養子にて四代目の當主である。資性温厚、篤實、勤勉、然して信仰心篤く、人格者として尊敬を得てゐる



氏は、民政黨に屬し、政治上に於ける氏の努力も多大である。

兵役は歩兵上等兵にして、有力なる士として前途に多大の希望をかけられて居り村政發達の上にまた宗教上に氏の努力は光茫を放つであらうと目されてゐる。一家は常に春風の吹くが如く和やかな氣分に満ち圓滿平和なる家庭である。

吉井村海端

村會議員 池野 清

前に蠶業組合實行組合長として、産業

組合の改善發達に努力し、現在は推舉されて村會議員の要職にあり、村政上に赫赫として、氏の前途を輝やかしてゐる。

氏は明治三十三年生れの本年とつて三十九歳の未だ壯々たる人物にして、早くより村の要職に推され、村民の信任も篤く尊敬を得てゐる。氏は農事講習所出身にして家業である農業の改良發展に留意し養蠶の奨励増進をなし、又村民の福祉を劃して、盡瘁貢献したのである。資性溫和、着實にしてその熱烈なる努力は、村政の進展と共に氏の將來も赫々たるものがある。

民政黨に屬して居り、その活躍を期待されてゐる。氏は稀に見る好學の士にて讀書を好んでゐる。

當家は代々區長を勤めた家柄にして、先代幾松氏は、村會議員として一期勤め、農會長として盡力、また助役等の要職に功績甚大なる人材であつた。

當主は氏の長男である、宗旨は法華宗にして、熱心なる篤信家である。家族は

九人、一家團樂をかもししてゐる。

新穂村長 畝

村會議員 村田 喜作

當家の閉祖は今より七百年前に溯る。



新穂村長畝部落の舊家で名門の家である。代農業を以て家業となしてゐる。

喜作氏は明治二十一年十一月二十三日に生れ、先代は富藏氏と云はれる。

稟性、剛健勇快、識見高き士にして、農會代議員として久しく辣腕を揮つては村民の熟知する所にして、その功績の偉大さは今も喋々を要しない。村民一致の推舉によりて村會議員となるや、種々献策するところあり、農村改革には全力を傾注して盡瘁せり。

又氏の熱烈不羈の精神は政治運動にも

多大の關心を拂ひ、民政黨を支持して、奔走す。

趣味豊かな人にして、特に生花には造詣が深く、池坊生花にして、秀水庵の號あり、村内の女子に池坊生花を教授し、見事な腕前を示して感嘆させてゐる。

眞言宗に歸依して頗る信仰が篤い。住職も奇特の士として、好き相談相手としてゐる。

畑野村後山

村會議員 小野 亥三吉

元祿時代より連綿として代を重ね、代



代庄屋を勤めて、村内に重きをなし、農業を營み來たりし當家の先代豊吉氏は、二十年間に亘りて區會議員を勤めた人にして、その功績は、在職年限の長きことより想見すべく、今更喋々

を要しないであらう。其後區長にも推舉されしことあり。日清の役に出征して武功を輝かし、従軍徽章を持つてゐる。

氏は明治八年十月十日の生れ、新發田歩兵第十六聯隊に入隊す。長く軍務に刻苦勉勵し、上官の覚えめでたく、陸軍歩兵伍長となる。

氏は、天資英邁にして、智勇人に秀れ明敏にして、該博なる知識の持主である言語少なく、私利に淡泊にして、質實剛健の人、區會議員、信用組合幹事として村公共事業に鞠躬盡力す。その達識にして、秀れし冠腕は、村民のよく推舉する所となり、助役、村長の要職にも歴任しその産業自治に裨益するところ少なからず、後輩に途をゆづつて、惜まれつゝ村長の職を退く。

現在は村會議員三回を勤めつゝあり、又學務委員を兼任して、子弟の教育に、老體に鞭うつて努力してゐる。又三年前より有隣生命代理店を經營してゐる。政界に活躍して、令名を擧げしも、今は後

方にあつて、人物の養成に務めてゐる。縣下政友會の長老である。

宗旨は眞言宗にして、その趣味頗る廣く、大抵のことには一通りの知識を持つてゐる。

羽茂村上山田

村會議員 石塚 松太郎

石塚家は代々農を以て家業となし、篤農家として聞え高い家柄である。當主松太郎氏は明治十八年生れ、本年五十三歳である。家業である農業に精勵する傍ら村政に參與し、村民の信頼厚く推されて信用組合理事となり、又農會代議員として農會の進展に努力し、現在は村會議員として献身的盡力をなして居る。

氏は資性着實にして溫良、然して勤勉努力の士にして、政友會に屬し、その方面に於ける活動も活潑である。

家庭は平和に満ち、明朗なる一家をなし、氏はまだ壯年の澁淵さを以て、出でては村治に活躍、入りては家業に勤めて

ゐる士である。

河崎村下久知

村會議員 粕谷 薫

當主薫氏は明治四十年十二月一日生れ



本年とつて三十二歳になる。資性濃厚篤實、若けれど圓満なる人格者にして、佐渡農業學校卒業の俊才である。夙に氏は農業改革、その改良發展に献身的努力せる理想家にして、村政に參與しては村會議員として活躍盡瘁し、また消防小頭として、消防部の發達に努力して居る。氏は未だ壯々たる青年にして元氣剌前途を大いに期待されてゐる人物である。

當家はその家系は詳かならざれどもかなりの舊家として知られ、先代は芳太郎氏と稱し、家業に精勵せる人であつた。

家宗は眞言宗にして、一家圓滿和氣篤々としてゐる。

加茂村椿

村會議員 長田 靱太



當家は當村隨一の舊家にして、今を去る六百餘年前より、當地に於て歴代農を營みたる篤農家である。

先代仁作氏は濃厚篤實の人にして、村民の厚望を集め、村會議員、産業組合監事等の公職を永年勤続し、幾多の功績を残して、八年前他界された人である。

當主靱太氏も性濃厚篤實にして、其の厚望厚きことに於て、嚴父に劣らず、幾多公職に推されて、當村發展のため貢献する所尠くない。

氏は嘗て、加茂信用組合監事、産業統計調査委員、加茂村大字椿消防頭として

盡力したることあるのみならず、現に村會議員、農會代議員、佐渡郡家畜保險組合理事の公職にありて、日夜奔走しつゝある。

昨年七月、支那事變勃發し、當村よりも多數應召して、戦線に赴き、目下殺人的酷暑の下、よく困苦缺乏に堪へ、東洋永遠の平和確立のため、赫々たる武功を立てつゝあるは、村民等しく感謝感激し居る所であるが、氏は戦線將士をして後顧の憂なからしむるため、率先して、出征遺家族の慰問に當り、又軍人分會、青年團と協力の下に、村民を班に分ちて、出征遺家族のための勞働奉仕に萬遺憾なきを期し、又非常時經濟に協力するため出産力の擴充に努め、特に軍需農産物、例へば乾燥野菜、甘藷等の生産には、可及的に増産を圖り、以て銃後の守りを益益固くしてゐる次第である。

氏は曹洞宗を信奉され、信仰頗る厚く、その家族も、氏の人格を反映して、敬神の念が深い。

金泉村戸地

村會議員 三浦 慶藏



當家は當部落の開拓者にして、代々名主、庄屋を勤め、當村第一の名門である。

氏は、村會議員を四期に亘つて勤続し、農事の改良には熱誠を極めた人格者なる先代國藏氏の長男として生れ、現在五十五歳である。

氏は日露の役には、盡忠報國の精神を以て、滿洲の曠野にその身をさらし、よく奮戦、各地の激戦にも拔群の武功を立てた人で、歸村後は精米業を營み、著々その販路を擴張し、品質の優秀なるを心掛けた結果、近傍の評判を博した。

國勢調査委員三回、農業調査員、信用組合監事を兼任し、村内の有力者と共同して、十二分の職責をつくす。信用組合

理事として、組合の事業の充實に努力しつゝあり、尙學務委員、村會議員は共に四期目に勤続しつゝある。氏の村民間に於ける信望の如何なるものであるかを力説して餘りある。

眞言宗を奉じ、園藝に造詣深く、田畑の一部をさいて、その研究に勵んでゐる。家族は二人である。

二宮村窪田

村會議員 最上 喜藏



先代彌五郎氏は剛直慷慨にして、氣節あり、手儀貴重にして頗る威望あり、區長に推選される。氏は事に

に蒞んで果斷にして、時態に遂練して、よくその職責を果す。その功績は村民の深く多とするところにして、後々實行組合長、酒販賣統制組合長として、その

公共事業につくすところ頗る多きものあり、博學篤行よく夙夜精勤する。村民の氏の功績を賞すること盛んなものがある

當主喜藏氏は、明治十六年六月二十五日生れにして、彌五郎氏の長男である。日露の役には、逸早く應召され、滿洲の荒野を駆け廻つて各地に奮戦、その功績はよく上官の聞くとところとなり、勳八等を賜はる。

凱旋して郷里に歸るや、父君の家業を繼いで、刻苦盡力す。次いで役場の書記を務め、二十年間に及び國勢調査員、蠶絲調査員として、村政の爲に牙腕を揮ひしこともある。

現在は村會議員、學務委員を兼ねて、農村の繁榮、村民の理知向上等に誠信を以て當る。幼時より書を読むことを好みし氏は、學務委員として、目覚ましい活躍をなし、村民の信望を集む。氏は多角形農業の提唱者にして、努力の分配に留意し、熱意を以てよく村民を説得す。現在は荒物商を營み、民政屬に屬して

その達見博識を誦はれてゐる。釣、園藝等に趣味あり、家族は五人にして、頗る圓滿である。

金澤村貝塚

村會議員 大藏 忠作

當家は六百年前の古い歴史を持つ舊家であり、山緒ある家柄である。

氏は先代貞藏氏の長男として、明治十四年十月十一日に生る。

氏は滅私奉公の自治の眞髓を體して、夙に自治公共の事に參與して、淬勵の誠を致し、自治共同の實を擧げつゝある。氏の助役たりし時は、當村の一番よく滄りし時にして、村民に推舉され、現に三期目の村會議員として村治に精進しつゝあると共に、村農會總代、信川組合總代等をも兼ねて盡力、よくその功績を擧げつゝあるは、村民のあげて感謝してゐる處である。

政友系に屬して縣政界の雄であり、各方面の人士と關係を保ちて、活躍してゐる。

る。温厚篤實にして、又非常な樂天家たる一面を持つてゐる。宗旨は東本願寺派にして、厚き信仰心を抱いてゐる。

吉井村水渡田

村會議員 渡部 角一



氏は明治二十三年二月二十五日生れにして、他家より養子として入籍し渡邊姓を名乗る。

佐渡中學校第九回の卒業生にして、養父久壽氏の下に、父君の薰陶を受けて、農業に従事する。

稟性聰慧にして異才、刻苦勉勵、孜孜として志を研ぎ、眞摯敬虔なる人格者にして、剛健博覽、村民の氏の出馬を羨望すること切なるものがあり、推舉されて農會代議員を務め、その通達せる識見を

以て殘せし顯著なる功勞の故に、村會議員にも就任す。よく時務を識りて才腕を揮ひ、村内の伸展、福祉増進に意を用ひて、一身の榮利を顧はずして努力せる氏の熱意は、よく村民の認めるところである。尙私設消防組頭を勤めて努力せしこともある。

現在は村會議員、信用組合理事としてその重責を双肩に擔ひて組合の擴張、強化にも頭角を表はす。

民政黨に入黨して、縣政界にその人ありとして知られ、讀書に趣味を持ち、非常なる博覽家である。

眞言宗を奉ずる氏は、住職との親交厚く、共に寺運の興隆をはかつてゐる。家族は五人で稀なる回滿振りを見せてゐる。

新穂村 北方

村會議員 相田 新三郎

氏は明治三十一年三月十六日此の世に生を享け、當年四十一歳の壯年、夙に村

政に參與、私設消防組頭として消防組の改良發達に盡力し、現在は村會議員、農會總代並に評議員として、村政に農會にその發展に極力貢獻し、功勞噴々、而して前途洋々として將來を非常に嚆望されてゐる。

當家は開祖以來十五代目位にして代々庄屋を勤めたる名門の家柄である。家業は農業にして篤農家の名高く、先代新七氏は農業に精勵せる傍、村會に參與、村會議員に推されて努力盡瘁した徳望家である。又氏子總代として村民から信頼を受けてゐる。

また民政黨に屬し、政治方面に於ける氏の活躍も活潑にして重要視されてゐる氏の資性温雅にして着實、穩健なる人物である。

畑野村 寺田

村會議員 小田 甚平

氏は新發田歩兵第十六聯隊に入隊し、軍務に精勵よくその責を果して除隊後、



軍人分會副會長として盡瘁し、又青年分團副會長として青年の指導に當り、又青年分團々長として活躍し、消防組小頭を二十五、六年の長期に亘り勤

續し献身的努力を以て一意専心活躍貢獻し來り多大の實績を挙げ、現在村會議員として、二期に亘り夙に村治に進出し一身を挺して之に盡瘁し居り、恩務委員として教育に多大の關心をもち德育に重きを於きて功績甚だ多く、衆望を集めてゐる。

當家は代々篤農家にして木材業を兼ね着々事業の發展をみてゐる信望厚き家柄であり、先代金藏氏は區會議員、區長として村治に關與し多大の實績を挙げた。氏は金藏氏長男として明治二十一年四月七日當地に呱呱の聲を挙げ、金藏氏の後繼者として家業に公職に精勵してゐ、資

性快活恬淡にしてしかも柔和圓滿なる人格者であり、至誠、公平無私を以て信望を集めてゐる。

氏の政黨關係は政友會にして當地方の重鎮であり、氏の家庭は眞言宗を信奉して敬神崇祖の念に篤く、圓滿なる良家庭として知られてゐる。

羽茂村 羽茂本郷

村會議員 井 柘 與 四 造



篤實なるも快活恬淡にして、村會議員として夙に村治に進出し今日

に至るまで孜孜として村治に盡瘁し來りたるものにして、尙も當村の將來に卓抜なる見解をもち、前途への見透しを確固たる立場に在りて、努力止まざる精進をなし、多大の實績を挙げ居るものに

して、村の將來は氏の双肩に有ると云つても過言ではない。氏は又羽茂味喰合資會社出資者にして、當會社は現在發展途上にあり着々と實績を挙げてゐる。

當家は氏の代にて七代を數へる舊家に於て、名望の家柄であり古くより村治に盡瘁して信望あり、先代秋太郎氏は資性温厚にして篤實、人望あり惜しまれて永眠した。氏はその長男として明治二十六年六月一日當地に呱呱の聲を挙げ、徳義に篤き人格者として衆望を集めてゐる。氏の家庭は至誠圓滿にして和合を極め、氏が多くの公職に在りて寧日なき日を送るに、後顧の憂ひ無からしむる賢夫人ありて、模範的良家庭として羨望されてゐる。

河崎村 河崎

村會議員 正治次三郎

當家は當部落第一の舊家にして、歴代農業に従事し、篤農家にして、又代々庄屋を勤めて、當村々民の福利増進のため

貢献して来た家柄である。



先代秀藏氏は、性温厚にして篤實、村民の厚く、永年村

會議員として、村會に於ける指導的地位にありて、當村自治のため、甚大なる功勞ありし人である。

當主次三郎氏は先代秀藏氏の男として明治二十五年二月十五日颯聲を擧げた。長じて、東京第二聯隊に入營、爾來良く軍務に精勵、歩兵上等兵に進級して、晴れの除隊を爲した。

やもすれば、遊惰に陥らんとする青年の氣風を矯正して、之を實實剛健に向はしめ、奢侈を戒めて、勤儉貯蓄の風を奨励する等、幾多の具體案を着々實行して大いに其の効果を擧げ、今や當村は漸次發展向上の氣勢に向ひつゝある。

氏は又耕地整理組合長の要職にあつて耕地整理に關しても幾多没すべからざる功績がある。

加茂村

村會議員 梅本之雄



當家は當村屈指の舊家である。今より三百餘年前より、當地に於て歴代農業に従事した。

先代玉藏

當主之雄氏は、先代玉藏氏の長男として、明治三十四年八月二日、颯々の聲を擧げられた。資性着實にして、村民の信望厚く、農業に精勵し、其の改善進歩に努むる傍ら、幾多當村の公職にありて、發展に寄與しつゝある。即ち、氏は現在村會議員、産業統計調査員、新潟縣方面委員、等の公職を兼任してゐる。

昨年支那事變勃發するや、氏は政府の國民精神總動員運動に呼應して奮起し、村民に對し、時局の重大性を絶叫し、其の自覺を促し、或は出征遺家族の慰問に、或は之がための勞働奉仕に、或は生産力の擴充に、或は消費節約に、物心兩方面に亘りて、國民精神總動員の實を擧げてゐる。當村こそは、非常時に於ける模範村と云ふべきであるが、之も全く氏の奔走に負ふ所である。

二宮村下長木

村會議員 渡邊保



當家は當村有数の舊家にして、且つ當村屈指の名門である。

歴代農業に従事し、篤農家の間えが高い。

當主保氏は子之吉氏の長男として、颯聲を擧げらる。當年四十九歳の働き盛りである。祖父傳來の家業をつぎて、農業に従事し、黙々として耕す力行の人である。而も常に細心の注意を以て、農業の改善進歩に努め、農産物の質に於て、又量に於て抜群の能率をあげてゐる。

氏は温厚にして篤實の人である。村民の信望頗る厚く、推されて村會議員に出馬し、村民多數の支持を得て、當選し、爾來今日に至る迄、當村發展の爲め日夜奔走をせらる。

特に昨年七月、支那事變勃發するや、氏は率先して、出征遺家族の慰問に、或は出征遺家族の爲めの勞働奉仕に當り、以て目下殺人的酷暑の下、よく困苦缺乏に堪へ、各地に轉戦しつゝある戦線將士をして後顧の憂なからしめ、又村民を督勵して生産力の擴充に努め、或は消費を節して貯蓄を奨励する等、銃後の守りを固むるに萬遺憾なきを期してゐる。

氏は政友系に屬し、國政に對しても、常に重大なる關心を有し、特に、都會に比し農村の負擔過重なのに對し、農村の負擔を軽減するべしとは、氏が年來力説する所である。

金澤村泉

村會議員 隅田三郎

氏は明治二十七年十月二十日に生れ、先代泰藏氏の長男である。

當家は代々呉服業を營み、當村に於ける屈指の舊家である。

氏は金澤高等小學校を卒業するや、先自己修養の一具としてゐる。

吉井村旭

村會議員 源田 將雄



當家は、當村屈指の名門である。二百五十年前より當地に土着して、歴代區長等の公職を勤める。尚ほ自治の爲めに多大の貢献をなして來た家柄である。

先代美吉氏は温厚篤實の人にして、人望厚く、村會議員、農會長、耕地整理組合長等、幾多の公職に就きて、當村自治の爲め多大の貢献のあつた人である。

當主將雄氏は、先代善吉氏の長男として、明治三十六年呱呱の聲を擧げた。嚴父に似て温厚篤實、村民の人望亦厚い。性明敏にして、長じて東京の豊山中學校に入學するや、常に優秀なる成績を保持して居たのであるが、同校を卒業するや

當村自治の爲め、貢献せんとする志を抱きて、歸郷し、最初推されて、農會長となり、農會の爲め、幾多功績を残して後更に消防小頭に就任。消防組員の訓練指導に當り、其の効果顯著なるものがあつた。間もなく村會議員として出馬、村民多數の支持を得て當選。爾來村治の爲め東奔西走、席の暖まるを知らず、其の功勞洵に多大である。尚ほ氏は、信用組合監事を兼任す。

家族六人、眞言宗を信奉さる。

新穂村青木

村會議員 川上慶次郎

材木商として製材方面其他に才腕を揮ひ、手腕家として知られてゐる氏は、明敏達識にして謙讓の美德に富める逸材として名聲が高い。

當家は代々農業及材木商をなし、先代芳藏氏は圓満潤達にして質實敦厚なる人格者として信望厚かりし人物であつた。氏は芳藏氏の代、望まれて養子となりた

るものにして、明治三十六年五月二十七日生れ、敏腕の事業家として東奔西走、席の温まる間無きも、村會議員に推され村治に盡瘁し多大の功績をあげたるは、一に献身的努力に依る賜である。氏の政黨關係は民政黨にして、家庭圓滿、氏は家庭人としても良き圓滿人であり代々眞言宗を信奉してゐる。

畑野村畷田

村會議員 眞言宗

榎 久吉



當家は、今より三百年前より、當地に於て代々農を營み、篤農の家と云えた。

先代多藏氏は、温厚にして篤實、早くより、小學校教員として、兒童の訓育にあたり、教育界に多大の功勞ありたる人である。後學校教員の職を退きて、當時村役場の收入役として

忠實に其の職責を果した。

當主久吉氏は、先代多藏氏の男として明治十六年五月五日、呱呱の聲をあげらる。嚴父に似て温厚篤實、又明晰なる頭腦と該博なる知識を有する人である。村民の信望頗る厚い。

氏は村民に推されて幾多の公職にあり當村發展の爲め貢献する所、洵に甚大である。氏は其の功に依り、自治五十周年記念に當り、自治五十周年記念状を授與せられた。即ち氏は村會議員として、村會の重鎮と稱され、一度氏が口を開くや論理整然、其の適正なる卓見は、人をして心服せしめる所である。

氏は此の外、産業統計調査員、農業調査員、國勢調査員として、複雑なる事務に従ひ、よく其の職責を果した。氏は曹洞宗を信奉せられ、信仰厚く、稀に見る人格高潔の人である。氏は謡曲、園藝等の高尚なるを其の趣味としてゐる。長男市太郎氏は、當年三十六歳の働き

盛り、佐渡農學校を卒業するや、父祖傳來の家業たる農に従事して最も熱心、近い將來に、村會議員として出馬、當村自治の爲め貢献さるゝ人である。

氏は曹洞宗を信奉され、信仰頗る厚い。

羽茂村羽茂本郷

村會議員 藤村 忠吉



治三十四年三月十五日呱呱を擧げらる。性明敏である。長するに及びて、齒科醫として、社會に奉仕せんと志を抱き、中等學校を経て、齒科醫學校に進み、同校に於て、齒科醫學に關する蘊奥を極め、業終へて、同校を卒業、同村に來住して、齒科醫師として、社會奉仕の第一歩を踏み出したのである。

氏は、明朗淡泊、醫は仁術なりとの信

念の下に、金錢問題を超越して、診療に従事し、敢て、醫料を請求する様なことが無い。氏の如きは、當世稀に見る人格者と云ふべきである。

氏は機會ある毎に、齒の人體に於ける地位の如何に重要なかを説き、口腔の衛生に關する思想の普及徹底を計り、而も診療を乞ふ者に對しては、殆んど無料を以て之に従ひ、爲めに村民の之を敬愛すること慈父の如きものがある。

氏は特に學童の齒に對して異常の關心を有し、齒に關する病氣を、小學校時代に於て撲滅するに鋭意盡力しつゝある。尚ほ氏は、當村々會議員、消防後援會會長の要職にありて、當村發展のため資すること洵に甚大なるものがある。

氏は政友系に屬し、釣、園藝等を趣味とし、多忙中、僅かの閑日月を楽しむ境地を愛する。また、眞言宗を信奉され、信仰頗る厚い。家族四人、家庭頗る圓滿にして、近隣

の羨望する所である。

河崎村羽二生

村議員 親松彦次郎

當家は當村有数の舊家にして、約二百餘年前より、當地に土着し、代々農を営む。又屢々當村の公職につき、當村自治の爲め多大の貢献をして來たのである。

當主彦次郎氏は、實父淺次郎氏の長男として、明治十九年五月十五日、呱呱の聲を擧げた。性温厚篤實にして、中正穩健なる實行家である。村民の人望厚く、若くして、當部落青年團長に推さるゝや氏は最近農村青年の間に蔓延の微ある遊惰の風を打破し、之を農村より驅逐し、質實剛健なる氣風の涵養に務めたのである。氏は、農村青年こそ國家の原動力なりとの信念の下に、常に毅然たる態度を持ち、團員にも其の自覺を喚起する爲め機會ある毎に所信を披瀝し、之を團員の頭に注入することに努めてゐる。また續いて私設消防組頭に就任し、消防施設の

充實、消防組員の訓練に従事した。氏は部落青年團並に私設消防組の爲め多大の功績を残して、青年團長並に消防組頭の公職を辭したる後、推されて村會議員となり、又農會代議員となり、目下村自治の爲め熱意と誠意とを以て、日夜奔走しつゝあるのである。

氏は眞言宗を信奉し敬信の念亦厚い。家族四人、氏は其の家長として、一家を統制し、家庭頗る圓滿である。

金澤村千種

村議員 井上桂太郎

謹厚篤實にして、閑靖、私利に淡泊にして公共の精神に富める氏は先代榮藏氏の長男として生れ現在五十七歳である。

讀書を好み、幼時より大志を抱きて、その志向は頗る遠大なるものあり、頭腦明敏にして、饒通せざることなく、當村不世出の傑物である。

村民は氏の才腕に多大の期待をかけて村農會總代に推舉した、當時の氏は一意

専心、農業の改善作振を主張して、甚だ熱心なるものがあつた。新保川水害豫防組合會議員として、水害に困苦する村民の爲に一身を挺して奔走せしことは特筆に價するものである。

區長、村會議員として、部落の繁榮に寄與貢獻し、村民生活の改善、その福祉に獨特の抱負を以て盡力してゐる。

政友會員として、明朗なる政治の出現を念願とし、地方政界に君臨してゐる。宗旨は眞言宗である。

新穂村大野

村議員 池野幸助

當家は當村屈指の舊家である。當主は其の五代目である。



當主幸助氏は、稀に見る人格者にして温厚篤實、敏腕を以て其の聞え高く、政治家

肌の人である。又氏の雄辯は人も知る所にして、氏が一度口を開けば、理路整然水を流すが如き概がある。氏は村會の重鎮として、村政の爲め、多大の貢献をなしてゐる。

氏は早くより、性明敏にして、群を抜いて頭角をあらはし、先代養父國吉氏に認められ、迎へられて、當家の養子となつたのである。

氏は幾多の公職に推されて、當村自治向上の爲め貢献すること洵に大なるものがある。即ち、木炭同業組合代議員として八ヶ年の永きに亘りて勤続し、よく其の職責を果したる後、推されて村會議員に當選すること二回にして、現在に及び當村民の福利増進の爲めに、日夜奔走してゐる。氏は特に、兒童教育の重大性を認め、同方面には多大の關心を有し、學校施設の充實には多くの功勞がある。氏は、讀書、音楽等に趣味を有し、政友系にして、國政にも多大の關心を拂つてゐて、眞言宗を信奉さる。

長男傳十郎氏は、在郷軍人として、當村在郷軍人分會の爲め、貢献し居りたる所、偶々、支那軍變勃發、勇躍して北支に赴き、各方面の戦線に轉戦し居りたる所、不幸にして名譽の負傷を爲し、目下陸軍病院に於て、療養中にして、再び戦線に活躍し得る日の一日も早からんことを祈念してゐる次第である。

畑野村猿八

村議員 吉川五右衛門

當家は猿八部落で最古と云はる舊家に於て代々農業を營んでゐる。先代長藏氏は家業に督勵せる傍、區長に選ばれ、村自治に貢献した人である。當主はその長男にして、明治拾四年生れ、當年五十八歳にして、村政の要職に携はり、推されて村會議員、學務委員、農會評議員等に就任、現在盛んに活動中である。氏の努力は、村會に、教育方面に、農會に及び、その功勞は枚擧に遑なく、また温厚篤實なる氏の人格と相俟つて、村民の篤き信

任を得てゐる。

氏は骨董に趣味を有し、古物蒐集品中には珍しきものが種々ある。

家族長男は佐渡農學校出身、二男も同じく同校を卒業して居り、前途を囑望されてゐる有爲の青年である。また一家は日蓮宗の信者で、篤信家として聞えてゐる。

河崎村古川

村議員 林太作



教育、産業の諸施設の普及徹底を計りその機能を充分ならしめ、以て文化の向上と産業の發展を計り、理想の村建設の爲邁進するを以て、その抱負となし、前には青年團支部長として、村青年の指導に献身努力し、現在は推されて村會議員となりて、村治に盡瘁貢獻

し又農會總代、戸數制資力調査員、無限責任大川負債整理組合長等の職に就任種々の功勞をあげつゝ、村民の信賴を擔ひ、敬慕を寄せられてゐる氏の前途は、村政發展史上に赫々の光芒を放つであらうと目されてゐる。

當家はその家系詳かならざれども、代代農を以て家業となし、先代勝藏氏は篤農家として聞え高く、當主はその長男にして、明治三十三年三月十八日此の世に生を享け、現在三十九歳になる。氏は若くより、その識見衆に拔んで、村治上に於ける氏の功績の上に輝き、その天性、英邁にして頭腦明晰、高き理想を以て村政に臨み極力實踐を以て努力してゐる。家族は七人にて、圓滿平和をかもしてゐる。

加茂村歌見

村會議員 竹内 音吉

氏は剛毅果斷にして、しかも俊敏の氣性に富み、徳義に厚き人格者として信望



頗る厚い。氏は明治十年一月十二日生れにして、本年六十二歳の高齡なるも壯者を凌ぐ旺なる元氣の持主である。

當家は氏が初代に當り、本家は舊家名門の家柄にして、氏は分家せるものにして、雜貨商を営み居り、又煙草小賣人組合地方委員として同組合の存続と發展に盡瘁、功績多大にのぼり、又村會議員として第一期目なるも氏は一身を挺して村治に盡力し自他を超越して村の發展と改革に一意専心邁進し、着々とその實績を擧げつゝあるものにして、村民の衆望頗る厚い。

當家の宗旨は眞言宗にして、家庭は氏を始めとして敬神崇祖の念に厚く、模範的良家庭として附近羨望の的となつてゐる。氏の家業たる雜貨商は、着々と營業



の實績を擧げつゝあり、日に月に一路發展途上に在る店として氏の實業家的才腕を窺ひ知る事が出来る。

金澤村千種
村會議員 本間 龜藏
明治二年九月十九日の生れである。生家は村内有数の舊家に於て、代々その徳望を以て知られた家柄にして、先代五藏氏の長男として、由緒ある名門の家にその生を受けた。稟性、寛裕溫恕にして、天資英邁、不羣にして識見人に過ぐるものあり、洽聞強識にして通ぜざるところなし。村民よく氏を村會議員に推擧す。氏は節に臨んで事を處理するや侃侃正言す。故に村民その誠意に感じ、充分に氏をしてその才腕を揮はしめた。鞠躬盡力し村政を更張し、その功績

頗る顯著なるものがあり、現在は、二期目を務めつゝある。

氏は讀書を非常に好み、公事繁忙なりと雖も未だ一度も廢懈したことがない。氏は忠實にして、母に事へてよく孝養を至す。政友會に屬して、地方政界に活躍して頗る威望あり、元老としての存在は自他共に齊しく認めるところである。政黨に對する識見には蓋し傾聴すべきものがある。

新穂村長畝

村會議員 土屋 後藤



村會議員、農會代議員として村民の衆望を擔ひ、家業に淬勵の傍ら自治の公共の事に竭し螢雪の功空しからず、常に村民の幸福を期して邁進、銳意努力せる氏は、資性濃厚篤實なれども、俠氣

に富み、しかも頭腦明晰にして、廉直潔癖、高潔なる人格の持主として村民の信望高き人物である。

當家は代々農業に従事し、篤農家として知られてゐ、又名望家として村民の厚望あり、先代豐氏は現在七十一歳の高齡にして悠々自適の境涯に在るも、柔和なる圓滿家として、質實敦厚なる篤農家として人望あり、その長男として明治二十四年三月二日當地に呱呱の聲を擧げたる氏は、現在村會議員として村治に關與し村民の幸福を念頭に置き常に誠意ある論説をなし、村會の雄として活躍し、又推されて農會代議員となり、農民の福祉増進と幸福を念頭に置き、行動派の實際家として知られてゐる。氏は又第一補充兵として軍籍あり、趣味は俳句にして、動の極地より出發する靜の境地を愛し、芭蕉に醉し、一茶を愛して、忙中閑日月、餘裕綽々として俳味その生活に横逸せる日常を送り居り、既に氏の俳句は素人の境を脱してゐるといふ。氏の家庭は

畑野村

村會議員 余湖忠左衛門



當家は村有数の舊家にして、元祿時代より、當地に在りて代々農を營み、篤農家である。

先代林造氏は、區長並に區會議員として、當區福祉増進の爲め、多大の貢獻を爲して來た人である。

當主忠左衛門氏は、先代林造氏の男として、明治二十年十一月十五日、呱呱の聲を擧げた。

氏は濃厚にして篤實、村民の人望厚く

區會議員として、長年勤績して功勞多大なるものありたるも後、推されて、村會議員として出馬、村民多數の支持を得て當選し、爾來今日に至る迄、村政刷新の爲め日夜奔走し席の暖まることがない。氏は尙ほ岩根澤實行組合長として盡力してゐる。

また、兒童教育には特に關心を有し、學校施設の充實には多大の功勞がある。氏は眞言宗を信奉せられ、信仰頗る厚い。

昨年七月支那事變勃發し、當村よりも多數國家の干城が應召して、戦線に活躍中であるが、氏は村民に率先して、益々銃後の守りを固くして居る。

河崎村原黒

村會議員 渡邊 保作

當家は家系詳やかならざれども相當の舊家として知られ、先代金五郎氏は區長を勤め、又誠農家として知名の人材である。當主保作氏は金五郎氏の子息にして

明治二十一年十月十八日生れ、本年五十



一歳である
氏もまた家
業に督勵し
農業の改良
發展に意を
注ぎ、出で

ては農事實行組合理事に就任、極力盡瘁し、また村會議員として村政に寄與努力貢獻してゐる。

その他信用組合評議員に選ばれ、依つて氏の村民より受ける信任の如何に篤いかが察知し得られるのである。

政治方面に於ける氏の活躍も盛んで、政友系に屬してゐる。

氏は資性快活淡明、俊敏の氣象に富み又圓満なる人格者にしてよく職を果し、尙前途は蓋し赫々として輝くであらうと期待されてゐる。

家庭は平和に満ちて笑聲の堂に溢れる一家を形成してゐ、村民の信望厚い良家である。

加茂村白瀬

村會議員 市橋 美治

先代文平氏は信念の人であり、強い意志と穩健な思想の持主である。公益を重んじ、村會議員として献身的な努力を重ね、村自治の圓満なる運行、産業の發達の爲に至せる功績は村民の遍く認めるところである。白瀬水力電氣株式會社專務取締役の重職にありて、牙えた手腕を揮ひ今日の隆盛の基礎を至せし人である。

當主は本年四十八歳、幾多春秋ある事業家にして、文平氏の長男として生る。

海軍一等水兵として軍務に精勵し、除隊後は父君の元で、熱心に事業を研究し、父君の後を繼いで、白瀬水力電氣株式會社取締役就任す。博見強志にして、聰慧なる氏は、粉骨碎身、父君の遺業の發展を企圖し、業界の雄と仰がれてゐる。

内浦組合長、村會議員の要職にあつて村自治の歴史に異彩を放つてゐる。誠に氏の前途には洋々たるものがある。

金澤村中興

村會議員 植田 孝次

先代五之八氏は稟性、峻峭、剛健勇快にして、若干にして自治體に進出し、選ばれて縣會議員に當選し、縣政に寄與貢獻するところ顯著なるものあり、村民は勿論、縣一般から崇敬さる。異才にして博學なる氏は村民一致の推薦により村長に就任、村内の弊風を改めて、刷新へと努力を重ね、郡農會副會長を兼任し、信用組合を創設し、組合の運営にあたり、事績大いにみるべきものがある。當村第一の功勞者にして元老である。

當主は明治二十三年四月二十五日の生れにして、先代五之八氏の養子となりて植田家を繼ぎしものである。佐渡中學校卒業者にして、新潟師範二部に學び、好成績で卒業するや、郷里に歸つて、金澤小學校訓導となる。その十五年間に於ける子弟の教育には、よく子弟の才能をのばし、村民の信望は爲に頗る厚い。

推輓されて村會議員となるや、氏の眞價は光彩陸離たるものがあり、時流を抜く識見と頭腦の冴えとは、堆積せる事務の整理を處理し、信用組合理事として公共事業にも日夜寢食を忘れて活躍してゐる。

資性柔和にして意志鞏固、精神力の旺盛なること、他に類例を見ない。

新穂村北方

元村長 河原 作一

氏は新穂村に於ける五代目村長として名聲を馳せた人にて、氏の村長時代に於ける功績は、當村發展上與つて力あり、現在は公職を退いたが、尙新穂村名譽顧問として、村政上種々の相談に與り、村民は厚き信望を寄せてゐる。

河原家は當部落切つての舊家にして、代々庄屋を勤めたる名門の家柄である。先代作次氏は新穂村初代の村長にして、村政開拓の基礎をなした人としてその徳望を誦はれてゐる。

その子息たる作一氏は明治五年生れにて當年六十七歳、資性温厚篤實、亦誠意深き人にて、村政に盡瘁貢獻せる氏の功勞は甚だ多く、當村切つての最高權威者として敬慕されてゐる。

氏は民政黨に屬し、政治方面に於ても中々の有力者であり趣味は讀書である。

赤泊村赤泊

縣方面委員 伊賀 金藏

氏は夙に村政に參與、村治進展に盡瘁した功勞者である。選ばれて村會議員となり、村民の福祉増進のために、凡ゆる方面の改善、開拓をなし、現在は縣方面委員として又當村方面委員として、地方民衆の生活向上に就いての相談役としての犠牲的献身を爲し、又負債整理委員、佐渡郡常務委員等の要職に推されて、己れを捨てて村民の爲に力し、實に利潤に淡々たる徳望高き人格者である。當村にとつて氏は權威ある元老にして、村民みな敬慕し信任を寄せてゐる。

氏は明治十一年此の世に生を享け、當年六十一歳の赫々たる名士にして、當家は代々名門として知られ、農業を營み、亦篤農家として聞える家である。

河崎村 吾鴻

村會議員 土屋 仁喜藏

仁喜藏氏は嚴父猪吉氏の男として、明治十一年九月二十七日に生る。當家は吾鴻部落に於ける舊家にして、代々農業に従事す。仁喜藏氏は嚴父の訓育よろしきを得、又生來の蕙まれた才能により、勉勵、よく今日の礎を築き、現在は村會議員の要職にある。

資性快活敏捷にして、頭腦明晰、當村の自治、産業、教化等その功績はあらゆる方面に亘り、令名噴々として遠近に高く、本村發展の恩人であり、村會に於ても長老格として重きをなし、村民の信望を一身に集めてゐる。

氏は民政黨に好意を有し、その骸博なる知識を以て、その政治運動に熱意を捧

げて援助してゐる。淨土眞宗を奉じてその信仰心の厚きこと、衆の範たるものがある。

先代猪吉氏は篤農家として定評あり、自治の爲めに身を賭して盡力したる高潔なる人格者である。名聲赫々として四隣に洽く、七十歳の尚論で他界されるや村民、氏の生前の徳を慕ひて普く弔意を表はした。

金澤村 泉

村會議員 川上 操一

氏は泉小學校訓導として、村童の指導に名訓導として謳はれ、榮利に淡泊にして、非常な讀書家であり、その博見無志の人として令名轟かりし、先代庫吉氏の長男にして、明治二十一年十一月十日生れである。

氏は幼にして大志あり、研究心深く、長ずるや、金澤醫科大學の前身にあたる専門學校に學び、内科、小兒科を専攻して、不撓不屈、よく志を遂げ、その在學

時代に示せる卓拔な手腕は深く教師を感嘆せしめた。

非常な成績を土産として歸郷するや、村民は逸早く氏を動かして泉小學校の校醫に就任せしめた。氏はよく村童の衛生に腐心し、精勵恪勤、絶大なる信任を寄せらる。その功績四隣に聞え、其後佐渡高等女學校々醫を兼任し、益々その博識を傾けて努力してゐる。

現在は村會議員の要職にあり、村勢發展、經濟産業更生の念を以て職務に邁進してゐる。氏は資性優美典雅にして、謹懿、事物に拘泥せず、自由無碍、盧山八面である。曹洞宗を信仰して、信仰心厚く妙好人の一人である。

河原田 町

在郷軍人分會 佐渡郡聯合會 從七位 山田 清一

當家は當町屈指の舊家である。氏は少年時代より、性明敏にして剛毅であつた。群を抜き其の頭角を現はし、

世人より將來を囑望された。長じて佐渡中學校に入學、成績頗る優秀、全校生徒の指導者として、校風の匡正に努めた。

氏は當時同校上級生間に蔓延しつゝあつた嗜弱の風を憎み、敢然立つて、同志を糾合し、全校生徒を一堂に集つめて、同校の光輝ある歴史に汚點を残すことあるべからざる旨を絶叫し、遂に一部軟派をして、影をひそめしめたのである。

同校を卒業するや、間もなく歩兵として入營、剛毅明敏なる氏は、良く軍務に精勵し、成績拔群漸次累進し、遂に中尉に任官、除隊したのである。

氏は除隊するや、在郷軍人分會佐渡郡聯合分會長に推されて、其の要職に就任し會員の指導教化に當つて居る。氏は特に戦線將士をして、後顧の憂ひをなからしむるため會員と共に一致團結、見事な統制の下に、銃後國民として萬全の對策を講じてゐる。

氏は河原田信用組合主事として、信用組合發展のためにも貢献する處が大きい

八幡村 八幡

在郷軍人分會 八幡村分會長 加藤 喜代治



當家は、當村有數の舊家にして、代々農を營み、篤農家である。當主喜代治氏は其の第七代目に該る。

氏は、明治三十四年十二月二十六日、實父省吾氏の長男として、呱呱の第一聲を放つた。性剛毅にして、而も篤實、祖父傳來の業を繼ぎて、農業に従事し、常に細心の注意を以て、農業の改善に努め、特に農業の多角的經營方法は、早くより氏の提唱する所にして、之により氏は良く其の効果を収めて、農家の収入を大いに増加してゐる。

間もなく、氏は當村在郷軍人分會長に推されて就任し、會員の指導訓練に意を注ぎ、特に昨年七月、支那事變勃發し、

當村よりも、多數の村民が國家の干城として、勇躍、北支、中支、或は南支の戦線に赴き、目下殺人的酷暑の下に、各地に轉戦、赫々たる武勳を立てつゝある處であるが、氏は銃後の守りを固くするたため會員を總動員して、或は出征遺家族の爲めの勞働奉仕に、萬全を期しつゝある所である。

當村在郷軍人分會は、一致協力、見事なる統制の下に、活躍しつゝあり、村民の信頼と期待頗る大なるものがあるのであるが、之も全く、氏の濃厚篤實にして而も高潔なる人格の然らしむる所であると云ふべきである。

氏は曹洞宗を信奉せられ、信仰頗る厚い。

二宮村 二宮

軍人分會長 正八位 山本 岩雄

當家は舊家名門の家柄にして、當主に於て十四代目である。代々名主、庄屋をなす。

當主岩雄氏は三十四歳の若干にして、



先代庫八氏の次男である。氏は、佐渡中學校出身にして、

長く軍務に恪勵せし陸軍砲兵少尉である軍人分會長の繁務にあつて日夜努力し、在郷軍人として、非常時下、銃後國民の第一線に立つて活躍されつゝある。又信用組合教育委員として、村教育界にも功績を立て、をり、家にあつては、家業を繼いで精勵邁進、温厚謹順にして、多大の將來性に期待をかけられてゐる。質實剛健、よく軍人精神を體して努力してゐる様は飽たるものである。氏は書を讀むを好み、該博な知識の持主でもある。日蓮宗の信者として、その熱心さは信者間に有名であり、家族は七人あり、一家は團圓を極めて居り、その圓滿振りに、附近でも羨望の念を以て迎へてゐる。

吉井村長 江

農會長 伊藤 甚一



日獨戰爭に海軍一等機關兵として警戒勤務した氏は、剛毅活潑、また沈着温厚にして村政に參與しては村

會議員に推され、既に三期間勤続した功勞者にして、現在は村農會長に選拔されて、農會の發展に献身盡力して居り、村民の篤き信望を擔つてゐる。當家は家系詳やかならざれど、相當の舊家にして、農業を營み以て家業としてゐる。先代甚平氏は家業精勵せる傍ら村自治に關與、推されて助役となり、又村會議員を勤続、數々の功績を残した人材として徳望を得てゐる。當主はその長男として、明治二十三年三月七日生れ、本年四十九歳の壯年にして、既に農會長の

要職に推されたる人物にして、今後の活動を期待されてゐる。

氏は民政黨に屬し、その方面に於ける氏の努力も甚大にして、有力視されてゐる。尙氏は勳八等瑞寶章を賜りたる殊勳者である。

新穂村新穂

軍人分會長 後藤 衛門

當後藤家は新穂部落中の名望ある舊家にして、先々代より醫師を業とし現在に至つたものである。先代與作氏も醫術を以て村民の信望を擔つてゐた。當主は、高德圓滿、清廉潔白、また人を容れる雅量の人格者にして、新穂村部落に於て同業醫師多々あるも、其内最も患者多く近在を通じて、名醫としての定評あり、また氏の懇切ある診察と、同情心深き資性に依るものにして、一身に信望を集めてゐる。氏は明治三十八年八月一日生れの當年三十四歳の若さにして既に徳望赫々、

東京醫專卒業の俊才にして、卒業後、現醫院を開業、内科が専門科目である。氏は一年志願兵にして陸軍々醫豫備少尉、正八位を賜はりたる干城である。

現在、在郷軍人分會長としての要職にあり、現在までの功績既に枚擧に遑なき状態である氏の前途は、まことに洋々として廣大、將來を祝福されて居り、日を追ふて當院の隆盛は何人も期信して居る當部落にとつて有力なる人物として目されてゐる人である。

氏は讀書に興味を持ち、また研究に没頭する性格を持ち、博學博識、當地方の知識階級の代表者とされてゐる。また氏は登山を好み、少々の餘暇を得ては登山を敢行、自然の風物、崇巖なる山氣に接するを何よりの喜びとしてゐる。

赤泊村徳和

信用組合長 石塚 一作

先代故稻次郎氏は生前村長、郡會議員等を歴任し、郡政村治に遺せし氏の功績

は偉大なるものである。惜しい哉明治四十二年逝去された當村の功勞者である。當主はその男で明治三十一年の生れである。幼にして頭腦明晰の氏は長じて加茂農林學校を卒業した。兵役關係は、後備歩兵軍曹である。

氏また父祖の血を繼承して夙に村治に進出し、育英に、産業に貢獻裨益する處甚大で氏の高邁なる識見と豊富圓熟せる體験と相俟ち村民の信望澎湃として氏の一身に集り、遂に推されて村會議員として村政に參與するや、氏は一身を挺して村勢の發展に率勵し好評噴々たるものがあつた。尙氏は軍人分會長として郷軍人の精神涵養にも盡せし功勞者である。

現在氏は當村保證責任信用購買販賣利信用組合長の重職にあり、氏の卓拔なる手腕は、適材適所を得、氏を迎へてより組合は隆々たる發展振りである。また前に氏は佐渡水電株式會社取締役として實業界にも、互大なる足跡を遺してゐる。曹洞宗に深く歸依してゐる。家庭は頗

河崎村吾鴻

信用組合長 本間 壽一

昭和四年以來、氏が信用組合長として村の産業經濟の發展に努力盡瘁したる功績多大に上る。

氏は舊姓北見と稱し、望まれて本間家の養子となり家督相續をせしものにして北見嘉一氏の息として明治二十一年十月二十四日呱呱の聲を擧げ、佐渡中學校卒業後一年志願兵として高田聯隊に入隊し帝國軍人として軍務に精勵し正八位陸軍砲兵豫備少尉として除隊、歸村して村治に盡瘁したもので、功績多大なるものがある。氏の政黨關係は民政黨にして當地方の重鎮として知られてゐる。ハルミ夫人(四十二)歳は氏の忠實なる内助者として賢夫人の聞え高く貞淑なる夫人として温き家庭の主である。氏の家庭は夫人

の他長女キヨ子さんあり才媛として令名がある。

氏が信用組合長として實績多大に上り村民の信望厚きは、實に氏が高潔なる人格者として、徳義に厚く、しかも公正無私よく他の言を用ひて、自らの信念を確固として把握し、衆望を擔ふに依るものである。尙當家は連綿たる家系を有する舊家にして名望家として知られ、代々健實なる家訓を守つて、よくその責を果し今日の地位を築くに至りたるものである。

外海府村小田

農會長 梶井五郎左衛門

當家は大舊家にして、當村第一の資産家である、代々五郎左衛門を襲名してゐる。先代五郎左衛門氏は、村政功勞者にして村長、郵便局長等の要職に就き村民の信望を擔つた徳望家であつた。

當主はその次男にして、明治十六年十一月一日出生、當年五十六歳にて、頭腦明晰、幼少より英俊にして業に優れてゐ

た。長ずるに及んで益々天性の英敏を發揮し、佐渡中學校卒業後は、早稻田大學に學び、村政に參與しては、村會議員として活躍、既に三期間勤め、また現在は農會長に就任し、村政發展史上に、氏の功勞は赫々と光芒を放つであらうと云はれてゐる。

氏は當地方の智識階級の一人として、有力視され、また氏の溫和にして篤實、然して熱烈なる努力と相俟つて、衆望悉く氏の上に集り、信賴されてゐる。政治方面に於ける氏の活躍も目覺しく政友系に屬してゐる。

家宗は眞言宗にして、家族は一家團樂和氣霽々として家業にいそしんで居り、羨やむべき景を呈してゐる。

金原村 姫津

石見長五郎

當家は當村屈指の舊家である。歴代漁業に従事し、海と共に生きて來た家である。當主は其の第十代目に當る。

先代北次郎氏は當村助役其の他の公職



にありて、公共團體のため其の功勞甚大なるものがあつた人である

當主長五郎氏は當年五十九歳の思慮深き人である。氏は明治三十七八年の日露戦役には、應召して、滿洲の曠野に赴き各地に轉戦し、奮戦大いに努めつゝありたる所、不幸敵彈の爲め、名譽の負傷を負つた老勇士である。

氏は温厚にして篤實、人格高潔の人である。人望厚く、早くより推されて區長に就任、永年村向上の爲め、寢食を忘れて、日夜奔走、當區區民の福利増進の爲め功勞洵に大である。依つて、區民は氏に、感謝狀を贈呈して、其の功に報いたのである。氏は尙ほ、農會議員、氏子總代等の公職を兼任してゐる。氏が義侠心に富むは人の知る所である。

氏は人命を救助すること七回、十七名の多きに及び、明治四十四年、大正十年、同十四年の三回に亘り、人命救助の廉を以て、縣より表彰せらるゝの光榮に浴したのである。

氏は眞宗の信奉者にして、信仰頗る厚い。家族七人にして、其の家庭の圓滿なるは人の羨望する所である。

金澤村 泉

村會議員 北條 康一

當家は八代を累ねる當村の舊家にして當地方に開えた家柄である。

當主康一氏は明治十八年四月生れ、八十八氏のもとに養子となる。

先代八十八氏は、區長、村會議員を歴任し、本村産業の開發、特に農業方面の改善に盡す努力は非常なるものであり、よく今日の隆盛を見るに至らしめた、村内屈指の偉大なる功勞者と稱せらる。眞に本村人材中の代表的存在である。性行篤實謹厚、聰明にして、謙讓家なり。

康一氏は佐渡中學校を卒業後は東京に遊學し、農業大學に入りて、研鑽を重ね

金澤高等女學校に奉職し、子女の教育に腐心する。この間に於ける氏の努力は刮目に價ひし、生徒間の信望は絶大なものありしも、昭和六年、氏は教職を退きて歸村し、區長、村會議員、方面委員に就任す。氏は一意専心、町治の圓滑なる發展につとめ、そのあざやかな手腕は、郷民の遍く驚嘆するところとなつた。其他社會事業方面にも功績を累ねてゐる。村教育評議員として、村兒の教育にはよくその博覽振りを現はし、尙又信用組合理事も兼任してゐる。

政友系に屬す氏は、縣下政界の麒麟兒として鶴名を高めてゐる。信仰は眞言宗にして、長男恒夫君は當年二十三であり家業に従事し、父君を助けて家業にいそしんでゐる。父君の志を繼いで早くも將來を期待されてゐる。

一家常に春風胎蕩として圓滿を極め、他の羨望する處である。

二宮村下長木

縣方面委員 伊藤 清一



長男清氏は當年二十八、宇都宮高等農林學校卒業の秀才にして現在、新潟縣農林課に奉職中で前途を囑望

されてゐる青年である。當主清一氏は明治十年五月一日生れの六十二歳にして、村政に於ける功勞者である。信用組合監事として、又國勢調査委員を既に二回務め、現在は、第二期目の方面委員として、村民生活向上に盡す貢獻し、且耕地整理組合評議員として、耕地整理遂行に努力、氏の敏腕、然して熱誠なる献身的行爲は、村民みなひとしく、氏に敬慕を寄せ、甚だ信望篤き人である。

當家は相當の舊家にして、五代陣總と

續いた家柄である。先代清八氏は村會議



員として活躍せる人に、當主はその長男、家代々村政功勞者である。

氏は資性、穩健篤實なる努力家にして、一意専心村民の福祉増進に務め、未だ元氣矍鑠として、長男清氏の將來を期してゐる。

吉井村大和

教育功勞者 從七位勳八等 藤井廣吉

氏は新潟師範學校を明治四十二年卒業



の秀才にして、小學校教育に意を注ぎ、教鞭をとること長年に亘り訓導として又校長として三十年間、氏は

生涯をその爲に捧げたる人である。本年三月才腕を惜しまれつゝ退職し、現在は家業である農業に勤め、悠々自適、靜穩の日子を送つてゐる。

氏は先代清之助氏の長男にして、明治十九年生れ、本年五十三歳にして、長男正太郎氏は父君の志を次いで訓導として奉職中であり、次男は鐘紡に勤務中であつたが、支那事變に應召、出征、奮戦中である。また三男は現在山形高等學校に在學中にして、斯くの如く三男共皆、有爲の青年にして、氏の努力もさることながら、今こそ氏は將來の子弟の成功を樂しみにしてその前途を期待して居られるのである。

氏は長年教育界への功勞に依り、從七位勳八等を賜はつてゐる。

新穂村長 畝

學務委員 荷上 與六

子息貞一郎氏は明治四十年生れにして本年三十二歳、資性穩健また快活なる人

物にして、讀書に趣味を有し、向學心に富み、當時稀に見る博學の青年として、前途を囑望されてゐる。

當主與六氏は明治十五年出生、本年五十七歳にして教育方面への努力深く、斯界の發展に献身してゐる功勞者である。氏は謹嚴、また眞摯誠實の人にして圓滿なる人格者として稱へられて居り、書道に趣味を有し、また造詣深く、村民みな敬慕を寄せ、篤き徳望を仰いでゐる。氏は政黨に偏せず、嚴正中立を標榜してゐる。

荷上家は約五百年の開祖にして代々農業に従事し、篤農家の譽れ高く、村内の名門として知られてゐる。先代次六氏は家業に精勵せる人にして、その熱心なる努力を謂はれてゐる。

與六氏は現在學務委員の要職にあり、子息貞一郎氏を伴ひ教育方面へ意を注ぎ居り、一家は平和に溢れた光景を呈してゐる。

宗教は眞言宗にして、篤信家である。

羽茂村羽茂本郷

消防組頭 本間 瀨平



佐渡味噌會社は氏の嚴父馬藏氏の創設にかゝるものである。先代馬藏氏は資性剛毅にして圓滿滑達、英俊

不羣にして、人に秀ぐれし識見を持ち、質素儉約を率先勵行した人格者にして、又頗る事業家肌の人である。佐渡味噌會社を起して、今日隆盛のもとを礎きしは幾多の誤算にも屈することなく、言語に絶する苦難をよく乗切つて盡力せる氏の努力のおかげでなくてはならぬであらう。

氏はその長男として明治十年十月二十三日生れ、當家十五代目の當主である。氏は嚴父の苦業時代の辛酸をつぶさに眺め、幼時より天才振りを發揮して、父

の後を襲ひて佐藤味噌會社合資會社の社長に就任し、機を見るに敏にして、ますますその業績を擧げて、事業を擴張し、斯界に確固たる存在を築く。

氏は村長、村會議員、家屋調査員、農會長の諸要職を歴任す。その種々の献策はよく村民の採用する所となり、爲に大いにその功勞を賞さる。縣會議員となるに及び、政友會の背景をもつて縦横に活躍し、その縣政に及ぼせる功績は頗る大である。現在は消防組頭を勤めて六年に於ける。眞言宗を信報す。

家族は六人にして、長男保治氏は當年三十歳にして、青島商業會議所勤務中である。父君の血統を繼いで英才を以て聞え、未來ある青年である。

赤泊村 徳和

農會長 野澤 安太郎

加茂農林學校卒業の秀才である當主安太郎氏は、村自治に關與、村會議員に選出され、貢獻盡力するところ多大にして



村民よりの信望を擔つて居り、現在は更に農會長、教育會長等の要職に就任、農會の發展、教育方面の進歩

に氏の努力は功績を生み當村にとつては最必要人物として、現時盛んに活躍中である。

野澤家は當村切つての大舊家にして、家系は詳らかでないが、開祖以來、連綿と榮えてきた名門として知られてゐる。實父卯市氏は、夙に村自治開拓に參與し、民政黨新潟支部長の要職に推され、活動貢獻せる功勞者として知られて居る、氏の功績未だ赫々たるものがある。

安太郎氏はその長男にて、明治廿八年本出生年四十四歳の壯々たる人物にて勤勉誠實にして温厚圓滿なる資性を有し、村政に於ける氏の手腕は衆に優れその圓滿なる人格と共に、村民より厚い信任を

受けてゐる。
氏は、魚つり、野球等に趣味を有し、釣竿垂れて無我の境に入る氏の姿を往々に見かけるのである。

河崎村河崎

在郷軍人 分會長 **平 金次郎**

當家は、當村有数の舊家にして、今より三百年位前より、當地に於て、代々農を營じた精農家である。

當主金太郎氏は、先代伊作氏の男として、明治三十八年八月廿五日、呱呱の聲を擧げたのである。性剛毅にして而も篤實、村民の厚望が高い。

長じて、横須賀海兵團に入團し、良く軍務に精勵したのである。氏は横須賀鎮守府所屬中、アメリカ、ヨーロッパ、其の他、世界各方面に航行した。氏は海軍三等機關兵として、除隊して歸郷するや村民は氏を迎へ、且つ推して、當地在郷軍人會會長の要職につかしたのである。爾來氏は、銳意全員の指導教化に當り、

今日迄、大いに其の實績を擧げて來たのである。

昨年七月、支那事變勃發し、暴支膺懲の聖戰進むや、當地からも、國家の干城として、多數青年應召し、勇躍戦線に赴き、目下活躍中であるが、氏は銃後の守りを固くするため、一層會員の訓練に努め、又戦線將士をして、後顧の憂ひなからしむために率先して、出征遺家族の慰問に當り、又出征遺家族の勞動力不足に對しては、會員を班に分ちて、之が補充に當らしめてゐる。

氏は又、スポーツを良くし、横須賀海兵團當時はボートレースの選手として活躍したことがある。

蓋し、氏の如きは、在郷軍人分會長としての最適任者であらう。

加茂村白瀬

學務委員 **濱野勇太郎**

當家が教育界につくせる功績は、絶大なものにして、代々學務委員を歴任せる

家柄である。

氏は明治九年一月、益太郎氏の長男として生る。學務委員たりし先代益太郎氏は自己の衣鉢を繼がせんものと、熱心な訓育を施す。

性行謹順、淑均にして、幼時より學問に勵み、聰明にして、早くも馳名を顯はす。清廉潔白、兼ねて仁慈に富み、正に傑士と謂ふべき人物である。

その加茂村信用組合理事として、事業の擴張に揮ひし手腕は村民によく喧傳され、加茂村字白瀬新田組合長に感謝す。その間よくその要職を果し、貢獻せるところ尠からず、到底筆舌に盡すべくもない。學務委員としての氏の活動は先代より定評のあるところにして、尊父に劣らぬ功績を擧げつゝあり。

尙特筆すべきは、教育界に於て有名な濱野虎吉先生の生家にして、勇太郎氏の叔父に當る。虎吉氏は現在安田村保養商業學校の校長である。虎吉先生の存在は、よく勇太郎氏の教育界に於ける思

惟を増す。宗旨は曹洞宗である。

金澤村中興

村會議員 **小田 孫市**

當家は、常村屈指の舊家である。當主は其の八代目である。



代々農を營み、篤農家である。

當主孫市氏は、先代孫左衛門氏の長男として、明治十二年五月一日、呱呱の聲をあげた人である。性温厚にして篤實である。村民の人望厚いものがある。

氏は、村會議員に推さるゝこと二回にして、現在に及び幾多の功績を残してゐる。即ち、氏は特に 兒童教育の重大性に鑑み、學校施設の充實に、鋭く奔走自ら私財を提供し、又多數同志の支持を得て、其の實績を擧げつゝある。又氏は、水利組合員として、水利に關し屢々起る紛争を、公平無利の見地より、適正且妥

當に解決して、好評を博しつゝある。民政系にして眞言宗の信仰家。

氏の長男は佐渡中學校を優秀なる成績を以て卒業したる才幹にして、當年二十八歳、前途有爲の青年として、將來に多大の期待をかけられてゐる。

金澤村貝塚

村會議員 **野方佐七郎**

先代佐七郎氏は生前村會議員を多年歴任した村自治の功勞者で、その功績頗る顯著なるものがある。惜しい哉昭和九年逝去された。

當主はその男で明治二十五年十一月十日の誕生、氏を以つて六代目である。幼にして所學明敏、長じて佐渡中學校に學んだ。資性温厚にして謹直高潔の氏は、夙に村治に進出して村政發展に貢獻裨益する處甚大、現時村會議員一期目を執掌してゐる外、村教育會議員、佐渡郡酒造組合評議員、信川組合代議員等を兼ね、その存在愈々重きを加へてゐる。

氏はまた政友系を支持し、旅行を趣味としてゐる。信仰は門徒宗で、家庭は頗る圓滿、春風胎蕩たる和樂に富んで至幸至福を極めてゐる。

因に當家は、銘酒勇駒醸造を家業とし氏の經營宜しきを得て逐年盛大にむかつてゐる。

二宮村窪田

消防組頭 **平松 治作**



當家は開祖以來十四五代は續いてゐる舊家にして、家業は代々農業にして篤農家として知られてゐる。先代

房藏氏は家業に精勵すると同時に、村會に寄與し、區長、村會議員等の公職に選ばれ、村自治發展の爲に大いなる功勞を致した有力者として知られてゐる。當主治作氏はその長男にして、明治二十二年

生れ、當年五十歳である。氏は天性温良にして謹嚴なる人格者として徳望を集めて居り、信用組合理事として第二期間勤績、助役第一期、軍人分會副會長、青年團長、種々なる要職に選出され、極力盡瘁し、また現在は推されて二宮村消防組頭、佐渡郡聯合海軍部部長の公職に就任活躍中にて、その功勞、日々に實績をあげてゐる。

氏は海軍主計兵曹長として日獨役に參加した勇士にて、その功により勳七等を叙せられた。

家族は九人にて一家圓滿、和氣霽々として美望されてゐる。

氏の偉大なる功勞は枚舉に暇なく、村政の圓滿なる發展も氏の努力の賜にて、蓋し前途を期待され、然して氏の清廉な人格とその徳望も村民みな敬慕の念を寄せる所以である。

國家非常時の秋青年子女の訓育に將た銃後の合理的施設遂に行大いに盡力貢獻してゐる。

吉井村大和

元助役 加藤與三郎

氏は高田師範第二回の卒業生として爾來各地小學校に勤務し、教育界に貢獻せるところ甚大なるものがあり、日本精神に立脚して徳育に意を以て、縣下有數の名教育家として鳴らしたるも、其の後退職し、爾來村治に關與し來たるものにして、元助役として一期獻身的努力をなし又村會議員として一期、村民の幸福の爲一身を挺して盡瘁し、産業組合理事として村の産業經濟の發達に英意盡力した。

氏の資性廉直潔癖にして、質實敦厚、謙恭の人として村民の信望を獲ち得たるものにして本年五十九歳の齡を數ふのも壯者を凌ぐ元氣さである。

尙氏は現在帝國生命代理店を爲し活躍し居り、家族は八人にして、常に和氣霽々たり。模範的家庭として美望されてゐる、眞言宗を信奉して、極めて崇祖の念に厚い。

新穂村新穂

學務委員 金物商 菊池九十郎



幾變轉、現在凡そ五六代目に當る。先代進吾氏は金物商として敏腕を振ひ、高岡方面より取引をなし、陶器商として九谷方面及新潟市より取引をなし事業は發展又發展、販路擴張してゐる。先代の資性圓滿潤達にして、しかも明晰機敏、清廉なれ共商才あり内外に信望ありたる人格者にして、その後繼者たる氏は明治十五年十月二十九日當地に呱呱の聲を擧げ、爾來家業に精勵し居るものである。

氏は前村會議員として村治に盡瘁し、その功績甚大にして、檀家總代として信仰篤く、現在は日吉神社氏子總代として

敬神の念厚き人格者とし村民の信望を得てゐる。氏の資性温厚篤實にして、しかも清廉潔白、よく他の言を用ひ、重鎮として人望があり、氏の政黨關係は嚴正中

立である。氏の夫人トヨ子氏は本年五十二歳にして賢夫人の聞え高く東奔西走暇なき氏の内助者として盡力し、近隣の評判頗るよい。

氏は又現在學務委員として教育に關心をもち、徳育に意を用ひて功績多く、區會代議員として村治に關與し、誠心誠意の獻身的努力によつて、多大の實績を擧げてゐる。

家庭に養子龍太郎氏三十四歳、長女マサ子氏三十五歳あり、龍太郎氏は温厚篤實にして眞摯なる人格者として氏の後繼者たるに相應しく、將來を期待されてゐる逸才であり、その夫人まさ子氏は貞淑なる賢夫人として内助の功が多く、氏の家は日蓮宗を信奉して圓滿、和氣ある家庭を營み、全く他をして羨望の的たらしめてゐる。

河崎村河崎

農事實行 組合長 古家 政治

當家は部落中代表的なる舊家にして、代々庄屋を勤め、村自治の爲め多大の貢獻をなして來た家柄である。

當主は實父猪吉氏の男として、明治廿六年十月五日、呱呱の聲をあげた人である。手腕家として聞えが高い。

氏は夙に法律事務に興味を有し、長じて、司法代書人となりて、目下司法代書事務に従事して居る。

氏は温厚篤實の人であり、村民の人望厚く、村民に推されて、村會議員に出馬村民多數の支持を得て、最高點を以て當選、目下村會の重鎮として、指導的地位にあり、次期村長、助役として評判が高い。氏は村會議員中第一の理論家にして氏一度口を開けば、其の論理整然として忽ち人をして心服せしめるものである。氏は當村施設は幾多不備の點あるを認め、其の充實に盡力し、殊に學校施設に

ついでには、兒童教育の重大性の見地から自ら私財を提供し、又當村有志にも寄附を求めて鋭意之が充實に奔走した。氏の此の方面に致したる努力は洵に甚大なるものがある。

氏は尙農事實行組合長其の他の公職に在りて、村自治の爲め盡力してゐる。

加茂村歌代

學務委員

榎 傳十郎



然も勤勉なる努力家にして、夙に教育方面に

關し、種々盡力するところが多かつた。現在學務委員の公職にありて、多大の貢獻をなしてゐる。榎家先代米藏氏は村會議員に推されて村自治に極力盡瘁し、又家業である農業

に對しても篤農家の名が高い着實なる人望家であつた。氏は米藏氏の長男である。家族は六人にて、長男は蓮氏、兩津にて醫師を開業中であつたが、日支事變勃發と同時に召集されて、陸軍少尉として出征、奮闘中である。又蓮氏は新潟醫科大學卒業の俊才にして當年三十八歳前途を囑望されてゐる青年醫師である。一家圓滿、協力して蓮氏出征の銜後の護りを固めてゐる。

家宗は禪宗にて、學務委員としての氏の功績は、村政發展上に與つて力あり、村民の信望をうけてゐる。

二宮村上矢馳

村農會長 土屋 長作

當家は資産家にして舊家名望の家柄なるも氏は自ら田畑に出で、農業に従事し農事研究を爲しつゝ、あり將來農村の發展は農事改革にあると叫んで自ら土に親しみ、土に生きて、農村の發展を劃しつゝある氏は、資性圓滿潤達、實教厚なる



人格者にして、村民の信望頗る厚く、郷の愛郷心を保持する篤農家として意義ある存在を爲してゐる。氏は元

區長、元村會議員として村自治に關與し體験より得たる理論を以て一方の重鎮であつた。現在も尙村農會長、郡農會評議員、信用組合監事、佐渡郡畜産組合代議員として産業經濟に盡瘁し、その實績多大にのぼる。

當家は舊家にして氏は十二代目に當り連綿として續きゐるものにして、氏は先代長四郎氏長男として當地に呱呱の聲を擧げ、本年六十一歳の高齡に在るも尙嬰鑠として壯者を凌ぐ旺盛にあり、民政系の重鎮として一方の雄たり、尙氏に脈々たる抱負を持って村の産業經濟の向上發展に寄與せんとしてゐる。氏の家庭は常に圓滿にして氏の人格を反映して明朗な



河原田町 北見角太郎

青年團農會長 北見耳鼻咽喉醫院

氏は明治三十八年九月七日生れにして當年三十四歳の壯々たる青年院長にして、氏は天性英邁

にして衆に優れ、幼時より明晰なる頭腦にて將來を期待されてゐた。新潟醫科大學出身の秀才にして、昭和九年十一月現在の地に北見醫院を開業した、専門科目は耳鼻咽喉にして、氏の手腕名高く、近郷近在より診察を乞ひ來るもの數を知らぬ状態である。

又氏は青年團長として昭和十二年五月就任、地方青年の指導に盡力して居り、河原田銑後會評議員として、出征兵士、遺家族のため盡瘁活躍してゐる。醫師と

してのみでなく、村治の上に於ても氏の努力は甚大にして、村民の信任篤く、刮目して前途を囑望されてゐる。

氏は音楽に趣味を有し、地方としては稀に見る、豊かな情操の持主である。多忙なる職業の合間には、音楽に陶醉するを唯一の楽しみにしてゐる。

尙氏は先代宇吉氏の長男である。

吉井村大和

青年團支部長 北見 正一



氏は佐渡農學校卒業の秀才にして、青年團大和支部長を勤めてゐる實直にして濃厚誠實なる青年である。

氏は龍太郎氏長男として明治四十一年當地に呱呱の聲を擧げ、資性明快嚴正にして村氏の信望厚く、本年三十一歳、洋々たる將來を持つ人格者である。

新穂村大野

學務委員 清水 幸八

學務委員として三ヶ年間、教育に多大の關心をもち、徳育の必要を痛感して以來日本精神に根本的思想をもち、同村教育界に盡瘁し來りたる氏は、前村會議員として村治に關與し、村民の生活向上と農村としての自力更生に力點を置きて、功勞甚大なるものがある。

當家は約二百五十年前の創家にかゝり舊家名門として村民の信望厚かりし家柄である。先代磯右衛門氏は當村役場に勤務せられ、また司法書士として献身的努力をなし、七十七歳の高齡にして永眠せる迄、故々として村治に盡瘁し來りたる功勞者であり、穩健着實なる人格者であつた。氏は磯右衛門氏の長男として、明治二十一年十一月二十一日當地に呱呱の聲を擧げ、濃厚至誠の人にして公明正大私利私慾を排して高潔なる人格者として村民の信望あり、舞鶴海兵團に水兵とし

て入隊し居りたることあり、よく軍務に精勵し、歸村して爾來村治に關與したるものにして、政黨關係は民政系にして趣味を旅行にもち、東西を旅して見聞を廣め、旅情を愛して、その足跡至る處に亘るといふ。

氏の夫人なつ子氏は愛國婦人會員にして時局下にある我國の銃後の完全を期し一細胞として盡瘁しゐるものにして、氏のみよき半身として後顧の憂ひ無からしめてゐる賢夫人である。家庭は日蓮宗を信仰して、佛敎界の偉人日蓮の高徳を俱び日蓮の闘争的精神を崇ひ、家庭は常に和合を極めてゐる。

加茂村加茂歌代

産業組合長 後藤 惣作

當後藤家九代目の當主である氏は、明治十七年十二月二十八日に呱呱の聲を擧げた。資性剛毅にして俊敏、明朗にして瀟灑、然も謙讓の美德を備へし氏は、夙に公共自治に進出し、産業に、育英に、

一身を挺して盡瘁し、その功績頗る顯著である。

氏の高潔なる識見と豊富なる技術手腕は現時衆望を擔つて村會議員として村政の中樞に參與し一意専心地方自治の發展に貢献してゐる外、また加茂信用購買販賣組合長の重職を兼ね、産業組合の助長發達に終始その全力を傾注し、村氏の福祉増進に一身を挺して精勵してゐる當村自治の功勞者であり、産業組合の圓滑なる發達また氏の力に預る處甚大である。氏の堅實にして、時局に即應した指導誘掖は衆の好評噴々たるもので、その重厚圓滿なる人格は村氏の信望頗る厚く、當村屈指の有力者としてその存在愈々重きを加えてゐる。

氏はまた政友系を支持し、旅行に趣味深い。信仰心深く曹洞宗に深く歸依してゐる。

家庭は春風洋々たるもので、常に和樂に富み、至幸至福を極めてゐるといふ羨むべきものである。

外海府村

青年團長 和田 義次



氏は當年四十一歳、明治三十二年十二月十五日生れ、先代金藏氏の長男である。

氏は高千小學校出身者にして早くより家業を繼いで農業に従事す。貧賤に戚戚とすることなく、富貴をも眼中に置かず、讀書に勵み、大志を抱きて孜孜として刻苦し、よく諸事に働通し、嶄然として頭角を現はす。

大倉消防組頭、學務委員、青年團長の要職をかちえ、燃える如き誠心を以て職務を果しつゝあり、部落の發展と融合とに貢献す。子弟の教育、青年の訓練にはその蘊蓄を傾け、侃々として正言し、その献策は村民の驚嘆を以つて迎へられるところである。

眞言宗を尊奉す。

吉井村上横山

學務委員 伊藤 藤間



當家は當村屈指の舊家である。今を去る五百餘年前より、當地にありて歴代農を営み、篤農家である。

當主藤間氏は資性明敏、少年時代より群童を抜きて頭角を現はし、先代玉藏氏に認められ、懇望せられ、入りて伊藤家の養子となる。

爾來父祖の業をつぎて、農に従事し、常に細心の注意を以て、之が改良進歩に當つて居る。

氏は温厚篤實の人である。村民の人望厚く、嘗て、信用組合理事、電氣委員の公職にありて、よく其の職責を果してより益々衆望を集め、氏が兼ねてより、兒

童教育の重大性を主唱せしところより、推されて、學務委員、村教育會評議員に就任し、爾來今日に至る迄、兒童教育には、異常の熱意を以て當り、其の實績見るべきものがある。

昨年日支事變勃發し、兎の需要頗る大なるを見、氏は學校當局と協力の下に、兒童をして、夫々一匹の兎を飼養せしめ一方之により兒童の實地訓練に資すると共に、之を通じて兒童をして時局の重大性を認識せしむると共に、他方之を國家に供給して、國家の非常時經濟に積極的に協力しつゝあるのである。

氏は政友系にして、眞言宗を信奉せらる。(寫眞は大正九年の撮影)

八幡村 八幡

八幡信用組合長 本間 龍藏

氏の實兄雄二郎氏は、當村に於ける有力者にして、性温厚篤實にして、村民の人望最も厚く、村長郡參事會員として永年村自治の爲め奔走し、當村發展の爲め

多大の功勞ありし人である。



當主龍藏氏は、雄二郎氏の令弟にして分家して一家を創立したのである。

氏は、實兄雄二郎氏に似て、性温厚篤實、早くより、村民の人望を集めた人である。

氏は明治二十年七月十日、呱呱の聲を擧げたのであるが、性明敏にして、幼少より群童を擢んじて神童の名あり、長じて、佐渡中學校に入學するや、成績常に優秀、全校生徒の指導者として、同校スピットの發揚に努め、爲めに同校の士氣大いに揚り、スポーツに學業に、同校歴史上傑として永久に消ゆべからざる黄金時代を現出したのである。

同校卒業後は、村民に推されて、當村助役の要職にあり、村長の良き補助者と

して、産業に、交通に、將又教育に、劃期的刷新を試み、大いに其の實績を挙げたのである。

後助役の要職を退いたが、現に八幡信用組合長、佐渡荒物同業組合代議員として、同方面に日夜奔走、席の暖まることなき有様である。

氏は民政系にして、眞言宗を信奉せらる。

二宮村眞光寺

産業組合長 稻葉 儀藏

當家はこの地方屈指の舊家且素封家として、連綿絶ゆることなき由緒ある家系を傳ふる。岳父鶴藏氏は若き頃より、其の温容なる風格と眞摯清廉の資性を以て多數此地人士の推轡を受けた。推されて多年村長、村會議員其の他の公名譽職に執掌閑座して、村政の刷新に、産業の伸達に夙夜寧日献身の盡瘁をなす。其の興望の厚かりしことは、實に他に比肩なき徳望の人であつた。その功績は今當村

の人々の口に噂炙されてゐる。

當主儀藏氏は鶴藏氏の次男として呱呱の聲を挙げ、嚴父の血と志を繼いで人と爲り、若き時代より、専ら齋家と修身の徑程に勉めた。當年五十八歳の年齢は村諸般の上に最も圓熟せる境地ともいふべく圓滿郭厚の人格と剛健質實の意圖を以て村治に産業に格勵してゐる。既に村會議員たること四期、又現在併せ二宮信用購買販賣利用組合の組合長として、其の聲譽は村民の間に澎湃たるものがある。殊に産業組合長としては、村産業經濟の中樞として、その基礎の純化確立と圓滑なる機能の發揮並びに業務の向上に役員組合員と共に一致協力精勵をなし、近時當組合の業績の上向顯著なるものがある。實に當組合の業績を見るに氏の事業運営上の經綸と高邁なる達識は顯然たるものがあり、名組合長としての名に愧じない。氏は民政黨に屬し、村治上に於いても一方の重鎮として重きをなし、今後の活動は多大の期待を以て俟たれてゐる。

金澤村新保

新保區長 高橋 駒藏

當家は當村有数の舊家である。當主は第十三代目に當る。代々農を營み、篤農家として知られて居たのであるが、後家の中心を米穀仲買業に移した。

當主駒藏氏は、性明敏にして、商才にたけ、養父三太郎氏に認められ、迎へられて、當家の養子となり、當年六十九歳である。爾來家業に従事し、銳意其の發展に務め、遂に今日の隆盛を見るに至つたのである。

氏は又温厚篤實の士にして、區民の人望厚く、推されて、當區々長の要職に就き、銳意當區福利の増進に務めて居る。氏は道路を改修して、交通の不便を除き又區の施設を充實して、區民の利用に供する等、着々其の實績を擧げてゐる。

又昨年七月、日支事變勃發し、當區よりも、多數の青壯年の應召して、勇躍出

征するや、氏は出征將士をして、後顧の憂なからしむるため、率先して出征遺家族の慰問に當り、又出征遺家族の勞働力不足に對しては、區民を一致團結し、夫々分擔を定めて之が補充に萬遺憾なきを期して居る。

氏は眞言宗を信奉し、信仰が厚い。

家族六人にして、氏を家長と仰いで、家庭は頗る圓滿である。長男三四郎氏は嚴父の良き補助者として、家業に従事してゐる。

吉井村長江

元信用組合長

井上英一

當家は當村屈指の舊家にして、又當村有数の名門である。



氏は若くより、資性明敏、群童を抜きて、

頭角をあらはす。長ずるに及びて、將來

教育者として身を立てんと志を抱き。

新潟師範學校に入學、終始優秀なる成績を以て、同校を卒業、爾來、教壇に立つこと、數十年の長きに亘り、其の間、氏は常に熱意と慈愛とを以て、生徒を指導訓育し生徒は氏を慈父と仰いで敬愛した。氏は河原田女學校教諭を最後に教育界を退いたのであるが、氏が其の高潔なる人格を以て教育界に盡した功績は洵に没すべからざるものがある。氏は後ち當村の信用組合長等を勤めた事があつたが、現在に至るまで公職を退きて、悠々自適してゐる、當村の重鎮である。

夫人キクさんは、當年四十七歳にして東京女子専門學校の出身、渡邊裁縫女學校出身の才媛にして、村内婦人と相伴ひ相誘擁し眞摯常に時局の重大性を思念す。推されて、當村國防婦人會長の要職にあり、昨年、日支事變勃發して、當村よりも多數四家の干城が應召して戦線に赴き、目下殺人的酷暑の下、良く困苦缺乏と戦ひて、東洋永遠の平和確立の



爲め、北支其他に於て奮闘を重ねつゝあるが女史は會

員を督勵し、國防婦人會の全機能を擧げて出征遺家族の遺問に、又出征遺家族の爲めの勞働奉仕に、日夜奔走して、婦人として爲すべき銃後の勤めに萬遺憾なきを期してゐる。氏の如きは、正に婦人の先覺者である。氏は當村婦人會の長として、敬愛され、信望最も厚い。

新穂村大野

大野區長

本間 伊勢次

區長として村治に盡瘁し、貢獻的熱意を以て専心努力してゐる氏は、先代伊作氏長男として明治二十一年八月六日當地に呱呱の聲を擧げ、資性温厚篤實にして圓滿、眞摯敬虔なる人格者として村民の信望ある人物である。

當家は二百五十年前の創家にかゝる舊家にして代々農業に従事し、篤農家として名望ある舊家である、先代伊作氏は村會議員、として村治に關與し、貢顯するところ甚大にして、徳義に篤く、廉直なる村政家として信望があり、又檀家總代氏子總代として敬神崇祖の念篤く、謹直なる人格者であつた、その血を承けて氏も又敬神崇祖の念篤く、政黨關係は嚴正中立の徳望家、夫人たまさんは本年四十二歳にして愛國婦人會員として、銃後婦人の完全を期して活躍、至誠國家を思ひ、内に在りては氏の内助者として貞淑の聽え高き賢夫人である。

氏の長男稔氏は大正十一年生れ本年十七歳の青年にして畑野農學校在學中なるも頭腦明晰にして篤學その前途を囑目されてゐる實直勤勉なる青年である、家庭は眞言宗を信奉し、氏を中心として和氣霽々たる模範的良家庭であり、他家の美望の的となつてゐるが、これ皆一つに敬神崇祖の家憲の發顯である。

畑野村

區長 佐藤 三次

當家は代々農にいそしみ、それを以て家業となし誠農家として知られてゐる。先代三藏氏は家業に督勵する傍ら、村政に盡力推されて區長になり、信任厚き人であつた。

その子息三次氏は、明治二十五年二月二十八日生れの當年とつて四十七歳、元氣旺盛、潑刺たる壯年にして、早くより區長の役にあり、種々村政の發展に盡瘁貢獻し、將來とも村治に努力せる人として期待囑望されてゐる。

資性濃厚健實、また勤勉なる人にして人に對して懇切、よく人を容れる寛大さを有してゐる。

家宗は淨土宗、一家圓滿和氣に溢れてゐる。

加茂村駒坂

在郷軍人分會長
陸軍歩兵少尉
正八位勳六等

高野 一以

當家は其の祖を遠く數百年以前に發する由緒正しき家門である。氏は明治三十八年三月三日に呱呱の聲を擧げた。若き頃より英俊を以て知られ、剛毅質實の資性は克く衆與を擔ふに足り擧げられて加茂村先郷軍人分會長、佐渡郡警校分團副長、聯合分會理事、加茂青年學校指導員等の要職に歴任して、現下吾が家非常時の銃後に於いて防空に銃後の施設に精勵寧日なき努力を続け、殊に村青年團の指導に當つては、その精神力の鍛鍊、日本精神の正鵠なる確把に碎身誘掖指導に當つてゐる。實に氏の當村青年層への影響は甚大と云ふべく、著々其成果を見つゝあるは村民の深き瞻仰となつてゐる。

尙氏の今後は郷軍本然の機能發揮に努力するのみならず、村治政上に於いても



當家は其の祖を遠く數百年以前に發する由緒正しき家門である。氏は明治三十八年三月三日に呱呱の聲を

多大の期待を寄せられてゐる巨材である清廉高士の風格を持せる紳士である。

金泉村小川

區顧問 小杉 九平治

村會議員を數回に亘つて勤続し、その間、各方面に幾多の功績を残した、吉藏氏の長男として生れた氏は今年六十三歳にして先代の家業を繼いで農業に従事してゐる。

村會議員、信用組合組織實行委員、監査役二期、區議を歴任し、現在は檀家總代、區顧問を務む。

資性清廉にして剛毅且矜愍の情に富み圓滿なる人格は、よく多數人士の尊敬と興望を擔ひ、早くより村治事務に當り、眞摯渾勵、村民の活きた模範にして、自治功勞の木鐸たるべき人である。その歴任せし時代に於ける功績は一々枚舉に遑なき程である。現在は當村の元老として後輩の蒙を拓くに努力を重ねてゐる。純潔の士にして、中立の立場に依り、

村治の上にも重きをなす。

宗旨は眞言宗にして信仰甚だ鞏固なるものあり。家庭は五人にして、その圓滿さは村内の羨望的である。

金澤村

金澤小學校
校長

渡邊 信一郎

氏は明治二十九年六月生れ、當年四十七歳にして、新潟師範學校卒業の英才である。氏は深く兒童教育に意を注ぎ、生涯の理想として一生を小學校教育に捧げんとす。師範卒業後は直ちに教鞭をとる、第二の國民としての小學生の善導に氏は寢食を忘れ、只管斯道に邁進してきてたのである。

現金澤尋常高等小學校は、生徒總數八百五六十名、教員は男子十五名、女子六名奉職して居り、同所に金澤青年學校並置され、氏は小學校長と共に青年學校長をも兼任し、兩校の關係職員は三十四名に達してゐる。氏は當小學校の創立以來四代目の校長にして、氏のモットーとす

る、至誠、公平の精神は校風を淳化し、全校生徒氏の意志に副はんとしてゐる。

また當校は約五六年前より、毎月二回教員會を催し、教育方針の作製、また實踐後の批判等をなし、一層の向上に努力してゐる。

尙氏は青年學校長として、地方青年の教育に盡力し、氏の高邁なる人格と熱烈なる努力は、青年のひとしく敬慕し、信服するところである。又學務委員の要職をも兼ね、廣く斯界に貢獻してゐる。

氏は達磨蒐集の趣味あり、全國よりの珍らしき達磨を無數に所藏してゐる。

二宮村石田

郡神職會長 本間 操



當家は神職五代を累ねる、當村の舊家にし、由緒ある名門であ

り、家柄である。

氏は長ずるや新潟師範學校に學び、優秀なる成績を以て卒業せる非常な秀才にして、資性透明にして、篤學謹厚、博學の士にして、二見小學校長たりしことあり、氏はその間、實に教育事業に献身的努力を拂ひ、幾多の業績を残して、村民の信望赫々たるものあり、退職後は村會議員に推されて、その學識人格共に村内に重きをなし、現在二期目にして、村政の刷新に盡力してゐる。

尙氏は神職會長、全國神職會評議員、縣神職會佐渡郡第二支部長兼評議員、及村社諏訪神社の社掌を兼任しつゝあり、先代の後を繼いで、誠心誠意、神明に奉仕してゐる。

吉井村 旭

旭區長 甲斐 秀治

當家は當村有數の舊家である。當家は初め代々農を營み、誠農家の聞えが高かつたのであるが、後諸物品小賣

店に家業の中心を移し、盛榮を致しつゝ、現在に至つてゐる。

氏は先代權十郎氏六男として、明治二十四年三月十五日、呱呱の聲を擧げたのである。温厚篤實にして村民の人望厚く早くより區長に推されて、永年區政向上の爲め盡力して居る。

氏は當區の施設の不備なるを歎き、自ら私財を提供し、又區民有志の寄附を求めて、施設の充實を圖つた。

又氏は、當村出征兵士をして、後顧の憂なからしめるため、或は出征遺家族の慰問に、或は出征遺家族の勞働力不足補充に、區民を一致團結して之に當り、其の對策に萬遺憾なきを期して居る。

氏は盆栽を鑑賞して、閑日月を楽しむを趣味としてゐる。

又眞言宗を信奉し、信仰が厚い。敬神の念も亦厚く、神社の参拜に、毎朝缺かしたことがない。

家族四人、氏を長と仰いで、之を敬愛し、其の圓滿振りは、人の羨望する所である。

畑野村 目黒町

區長 長島 育藏

氏は明治二十四年五月四日先代仁作氏の男として生る、氏にて七代を累ねる舊家で農業に従事する。長じて新發田十六聯隊に入營し、熱意を以て軍務に精勵し歸郷後、在郷軍人會班長となる。現在は區長の要職にあり。

氏は次の如き意見を洩らせり。

「私は政治方面には淺學にして、何の考へも持たないが、只、農村の繁榮發展を期するのみであり、そのためには萬全の努力を至す覺悟である。」而して氏は豊富な識見と卓越せる手腕とを揮つて、村治の運営に邁進しつゝあり、爲に村民の氏に期待する所絶大なるものがある。

五ヶ年前より果樹園を經營し、事業の擴大に意を注ぎ、次第にその成功を收めつゝあり。初め氏は趣味にして初めたる

も、現在の如き好成绩を擧げてからは、將來之を農村の發展の具に供さんと熱望してゐる。

氏は生來進取の氣性に富み、熟慮果斷にして、徳義心頗る厚きものあり、乘馬に興味を有し、仲々の名手である。敬神崇祖の念あつく日蓮宗を信仰してゐる。政黨に加擔するを好まず、嚴正中立の立場にたつて、その誠心を以て盛に活躍しつゝある。

金泉村 小川

小川區長 山本 峰藏

氏は資性温厚にし、情義に厚く、眞摯敬虔なる人格者として村民の信望あり、役場吏員、村會議員の職に在りて一意専心村治に盡瘁し、實績多大にのぼる功勞者である。氏は現在區長として二期に亘り、私を捨て、村民の幸福を計る献身的熱意に燃え、衆望を集めぬる高潔清廉の士である。

當家は舊家にして連綿たる家系を有し

代々名譽職に在りて名望家として知られてゐ、先代岩吉氏は明晰機敏なる實行家にして卓抜なる手腕をもち、當村の偉材として知名であつた。氏は重吉氏の長男として當地に岳降せるものにして本年五十四歳の働き盛りにあり、村政家として増々圓滿練達を加へ名望がある。氏は又かつて軍隊にありて軍務に精勵したることあり工兵伍長として除隊後も、皇軍の後衛として貢献多大にのぼつてゐる。

金澤村 新保

方面委員 渡邊 好策



氏は本年四十二歳の働き盛りにして、相田榮藏氏の男として生れしも、養子として渡邊家に入籍したものである。

當家は七代を累ねる舊家にして、養父

六藏氏は穎悟にして、事理明暢、温容の士にして、村會議員を勤め、その才器學識を謳はれてゐる。

實父相田榮藏氏は、村長、信用組合長として、深く村民の福祉増進に智能をしぼつてゐる。又郡會議員、縣會議員の要職にありて、縣政界に重きをなし、功勞顯著なるものあり、縣内有數の材幹とも稱されてゐる。當主好策氏は佐藤中學の出身にして、よく軍務に格勵し、陸軍歩兵伍長である。

當家は代々農業に従事し、今は日本生命代理店を經營してゐる。軍人分會副會長として、郷軍としての重責を果し、國勢調査委員の要職にあること三回に及び土地賃賃價格調査委員として、村内に盡せし功勞は甚大なものがある。現在は農會代議員として銃後農村の振興と堅實なる發展とに意を用ひ、研鑽辛苦してその成績頗る良好である。又信用組合理事として、本村組合の内容充實に夙夜淬勵の誠を致してゐる。方面委員をも兼ねたし

の多方面に及ぶその閱歴を見れば、氏の才器學識の該博なるを想見することが出来るであらう。

政友會に屬し、眞言宗を信じて信仰心深きものあり。家族は三人である。

吉井村大和

大和區長 佐々木甚一

當家は當村有数の舊家にして、前より十四代前より代々農を營み、篤農家として有名である。

當主は其の第十五代に氏り、先代彌作氏の長男として、呱呱の聲を擧げ、本年四十八歳の働き盛りである。

氏は濃厚篤實にして、父祖の業をつぎてよく之に精勵して篤農家の聞え高く、村民の信望篤く推されて區長に就任し爾來銳意區政向上の爲め奔走して居る。

氏は交通不便こそ區政向上の一大障害なりとの見解の下に、農閑期を利用し、率先して、道路を開設或は改修して、交通の不便を除去するに銳意努力したるた

め、今や當區は村道四通八達し、農産物の搬出等に多大の便益になつて居る。

昨年七月、日支事變勃發するや、當區よりも多數應召し、目下戦線に活躍、赫赫たる武功を立てつゝある所であるが、氏は率先して、出征遺家族を慰問し、以て區民に範を示し、又區民を數班に區分し、夫々分擔を定めて、出征遺家族の勞働力の不足其の他出征遺家族が蒙ることあるとき困苦に對し、之が救済に萬遺憾なきを期して居る。

氏は眞言宗を信奉し、信仰が高い。家族八名、家庭圓滿である。

新穂村新穂

方面委員 青木清吉



前には馬頭高等小學校長として名聲を馳せた氏は、濃厚篤實にし

て清廉潔白の人格者である。若年より小學校教育に意を用ひ、獨學にて小學校教員檢定試験に合格したる秀才にして、爾後、教鞭をとりたること氏の生涯を賭し

後には村長として、徳望を擔ひ、衆みな敬慕を寄せ、その信服するもの數を知らぬ有様である。先頃氏は教育界を名譽退職し、現在は方面委員として村民生活向上に盡力貢献してゐる。尙氏は電氣治療マツサージ事業に關與してゐる。

氏は男にして實父鼻藏氏の明治十七年一月五日生れ、本年五十五歳である。

氏は讀書を深く愛し、また文學の造詣篤く、博學博識、又豊富なる情操を兼備したる人物にして、當地方智識の代表的人物である。一家は圓滿、氏の人格は衆を感化し、教育界功勞者として、村政有力者として信望を握つてゐるのである。

羽茂村羽茂本郷

校 醫 三科 惣吉

電話羽茂三七番

氏は、埼玉縣に於ける名門の出身である。明治十



七年四月二日、呱呱の聲を擧げたのであるが性明敏、長

じて醫師として、社會のため、奉仕せんとする志を抱き、日本醫學專門學校に入學、同校に於て、醫學の蘊奥を極め、同校を卒業するや、同村に來りて、醫師を開業したのである。

醫は仁術なり、とは氏の常に信奉するところにして、金鈔問題を超越して、醫業に従事、當村々民の福利増進に盡力する所、洵に大なるものがあり、村民は氏を慈父と仰いで、敬愛してゐる。

氏は特に、將來國家の中堅として活動すべき兒童の健康には、異常の關心を有し、永年校醫として勤続し、當村學童の體位向上に資すること甚大である。

氏は又小木警察囑託醫並に健康保險醫

を兼ねて居る。

氏は又嘗て村民に推されて、村會議員に當選すること二回、當村々會の重鎮として、當村自治の圓滑なる運轉、教育の徹底的普及に資すること甚大なるものがあつた。

昨年七月、支那事變勃發し、當村よりも、多數應召して、戦線に活躍中であるが、氏は戦線將士をして、後顧の憂なからしむるため、出征遺家族に對しては、無料を以て診療を施してゐる。

氏は園藝を趣味として、多忙中、僅かの閑日月を楽しむ境地を愛してゐる。

八幡村八幡

國防婦人會長 後藤ハル



八幡村國防婦人會長として銃後婦人の果敢なる活躍をなし、時局

下に在る國民の責務を全うせんことを期し専心献身的努力を以て盡瘁してゐるものにして、氏は本年四十五歳、河原田小學校卒業後、家庭に在りて家業にたづさはり賢夫人として聲望高かりし人である

氏は又愛國婦人會八幡支部長として東西走席の温まる間無く公務に邁進し、戦場の將士をして後顧の憂へなからしめんと、全村の婦人一致團結し國家非常時の後衛たらんとしてゐる。氏の家庭は曹洞宗にして敬神崇祖の念に篤く、氏が銃後婦人團體の指導者として、戦勝祈願の神社參拜に率先して行き、以て衆の範とされてゐる。その資性柔和圓滿にして慈悲の心深く、貞淑にしてしかも公人としては澹澹たる氣概を有し、徳望ある名夫人として令名高き人格者である。

二宮村山田

國防婦人會長 本間ヤス

當家は十三代を累ねる村内屈指の舊家であり、亡夫千歳氏は博識多才の士にし



て、生來才能に恵まれ、氣節あり、佐渡農學校に教職をとる。在職中

に於ける氏は豊富なる蘊蓄を傾けて、熱心に子弟の指導に當り、有能の士を多く出して、村民の徳望赫々たるものがあつた。後那會議員の公職について、盡力を捧げ、その功、枚擧に遑なく、郡政界の重鎮と謳はれた人である。その未來に多大の期待をかけられしも、病魔の襲ふ所となり逝去す、村民深くその早世せるを悼む。氏はまた陸軍歩兵少尉にして、正七位を賜はつてゐる。

ヤス女史は現在五十一歳にして、女子師範講習科出身の才媛である。小學校の訓導たること二十年間にして、生徒の間に實母の如く仰慕せらる。國防婦人會長、二宮村愛國婦人會副會長として、現下支那事變の非常時に當り



高千村入川 山崎かほる

銚後國民として、その重責の全きを期して努力されてゐる。眞に女丈夫の名にそむかず、方面委員、信用組合婦人聯盟理事等の要職を兼任し、村政に、亡夫に代つて、幾多の功績を現はし、他方一家の仕事一切を切り盛りしてゐる様は眞に賢夫人の名にふさはしい。又女史は寸暇をみつけては好んで讀書にいそしんでゐる。長男正藏氏は女學校教諭であり、次女は小學校訓導にして、三女は京東白の日本女子大學に在學中である。女史の血を受けてその才媛を謳はれてゐる。

氏は東京成城高等女學校出身の才媛である。性明敏にして、夙に日本婦人としての全き婦道の實踐に思念

する處篤く齊家を補佐して幸一氏の良き内助義であり、外に對しては諸種婦人會等に盡瘁多大である。夫君幸一氏は、靜岡縣の出身にして、氏の家は代々醸造業を營み、該地方の名門である。氏は、東京帝國大學工科卒業の秀才にして、現在三菱鑛山の採鑛係に勤務してゐる。

かほる氏は、夫君と共に當地に来るや推されて、當村國防婦人會々長に就任したのである。國防婦人會々長に就任するや、氏は兼ての抱負を實現せんが爲め、機會ある毎に、日本婦人の使命を説き、其の自覺を促すに之努めてゐる。會員はこの新進氣鋭の若き婦人を會長と仰いで、氏を敬愛し、一致協力して、銚後婦人として、その指導統制下によることで、或は出征遺家族慰問に、或は出征遺家族の爲めの労働奉仕に、其の本分を發揮してゐる。氏は、花道の達人にして、流儀は池の坊に屬する。

二宮村青野

青年團長

茨城 正巳



先代鷹吉氏は村會議員として村治に關與し、實績多大にのぼる功勞者にして、正巳氏はその二男として明

治三十九年二月十八日當地に岳降したるものにして、本年三十三歳の壯年期にあり、將來に多大なる望を囑されてゐる人材である。氏は佐渡農學校卒業の秀才にして、爾來青年團長の職にあり青年の指導教育に多大の抱負を持つてをり、着々と成果を収めてゐ、衆望ある人格者であり、尙又消防組頭として村治に關與し多大の功績あり、資性果斷にして快活恬淡しかも任侠に富める人物として青年に信望がある。氏の家庭は圓滿にして、家族は七名な

るも各々その分を守り勤勉なる家風のもとに、模範的家庭を營む。當家は代々農に従ひ、素封家として著名であり、信望ある家柄である。氏は又日本共立生命保險代理店として活躍、成績を挙げつゝある手腕家である。

金澤村中興

中興區長 勳八等

飯田 忠藏



當家は當區屈指の舊家である。歴代農業に従事して、篤農家の聞えが高い。氏は先代龍藏の長男

として、呱呱の聲を擧げた。性温厚篤實村民の厚望が厚い。當年六十歳の分別盛りである。氏はまた區の區長として永年勤績し當區福利の増進努力奔走して、その功勞甚大なるものがある。即ち農業の多角形的

經營を奨励して産業を發展せしめ、道路を改修して、交通を便にし、教育施設を充實して、兒童教育の向上を圖つたのである。昨年日支事變勃發して當區より、多數應召して目下、困苦缺乏を堪へて、盡忠不惜身命各地に轉戦、赫々たる武勳を立てつゝある所であるが、氏は戦線將士をして、後顧の憂無からしむるため、區民を督勵して、出征遺家族の慰問に、又出征遺家族に對する労働奉仕に、萬遺憾なきを期して居る。

氏は明治三十七八年の日露戰役には、勇躍應召して、滿洲の曠野に赴き、各地に轉戦して、赫々たる武勳を立て、義勇報效國家今日の隆盛に至らしめたる忠誠の勇士である。氏は嘗て、農會評議員、村土木係として永年勤績し、よく其の職責を果して大功がある。氏は民政黨に屬して黨務に熱心であり、盆裁を趣味としてゐる。眞言宗を信奉せられ信仰最も篤い。

新穂村 湯上 菊池 勝

湯上區長



當家は約三百年前の開祖にして先祖代
代村内より
の信望厚く
農業を以て
家業となし
篤農家とし
て知られて
ゐる。先代東作氏は區長として功勞ある
徳望家であつた。

當主は明治二十八年生れ、現在四十四
歳にて潑刺たる氣概を有し、剛毅、俊敏
を以て聞え、村政に參與しては國勢調査
員として活躍し、現在は推されて區長と
なり、次期村會議員候補者として支持を
受けてゐる。また氏は漁業方面に關與し
氏の努力は斯道發展の爲に大に力あり、
その功勞を稱讃されて居り、村民の信望
を擔つてゐる。
氏は錚々たる區長として前途を囑望さ

れ、又剛毅なる半面に温厚圓滿なる人格
者として、敬慕をうけてゐる。

二宮村 窪田

地主

相田 幾次郎



從六位

當家は當村有數の舊家にして、且つ當
村屈指の名
門である。
代々農を營
み、素封家
である。又
歴代庄屋

年番役の公職につきて、當村自治の爲め
多大の貢獻をなして來た家柄である。
先代榮藏氏は、温厚にして篤實、村民
の人望厚く、また敏腕家の聞えが高く、
縣會議員、郡會議員、信用組合長、村長
村會議員、土地貸賃價格評定委員等、凡
そ要職には總てに就任して、その敏腕を
以て、自治に關する諸事務を、迅速且つ
適正に處理して、萬人をして一驚せしめ
た人である。又佐渡産業株式會社を興し

當村は勿論、佐渡一帯に亘りて、産業を
振興し、大いに其の福利増進に寄與なし
たのである。

當主は先代榮藏氏の長男として明治二
十六年四月九日、呱呱の聲をあげたので
ある。性明敏にして、長ずるに及びて、
北海道帝國大學農學部に入學し、終始、
優秀なる成績を以て、大正六年七月、同
學を卒業したる農學士である。同學を卒
業するや、歸郷して農業に従事、大學に
於て獲得したる農業に關する蘊蓄を傾け
て、銳意其の實地活用と、その改善進歩
に努めた。着々として好成績をあげてゐ
る。

間もなく氏は、推されて、佐渡産業株
式會社監査役に就任、當會社發展の爲め
盡力しつゝ、現在に至つてゐる。
氏は又嘗て、農學校教諭として、高等
官六等の待遇を賜はつた事がある。又信
用組合幹事として、永年勤続、其の功勞
が多かつた。氏は眞言宗を信奉し、家族
は五人である。

金澤村 千種

方面委員

橘

昌平



祖父 善吉 氏

父 善吉 氏
村自治
に寄與
戸長、
縣會議
員、佐

當家は代々の舊家にして、祖父善吉氏
は夙に
村自治
に寄與
戸長、
縣會議
員、佐
渡町學務委員等の要職に就きて長年盡瘁
したる功勞者であつた。村政の開拓發展
上まことに善吉氏の名を忘れることので
きない人にして、その功績は枚擧するに
遑なく、村内の功勞者として衆望を一身
に集まれる徳望家であつた。

先代は善平氏と稱し、當主昌平氏はそ
の長男にして明治二十年二月二十四日に
出生、現在五十二歳、資性英邁にして敏
活、然も謹嚴眞摯の人物として將來を注
目されてゐた。佐渡中學卒業後は高田師
範學校二部出身の俊才にして、卒業後は

直ちに小學校に奉職、小學校教育に大い
なる理想を
以て臨み、
その烈々と
して己れを
省みず献身
的努力をな



し、二十二年の長年に亘り、生涯を斯界
に盡瘁せし人にして、平泉小學校長を最
後として教職を退き、現在は村政に關與
貢獻してゐる。新潟縣方面委員、農區長
信用組合幹事、村教育會評議員等の要職
に推され、小學校教育に盡瘁せる熱意を
今度は村政發展の上に捧げ、その高潔清
廉の人格は、まことに村民みな尊敬おく
能はず、徳望普く村内に及んでゐる。
氏の如き人材を有するは、當村にとつ
て幸とすべきである。

新穂村 皆川

前區長

渡邊 彦治

當家は皆川部落屈指の舊家にして、代

代農を營み、篤農家として知られてゐる
歴代區長等の公職につきて、區政向上の爲
め多大の貢獻を爲して來た。

當主彦次氏は先代勘作氏の男として、
明治廿七年五月五日、呱呱の聲を擧げた
のである。營々として耕し、性温厚篤實
にして寡言實行の人である。
氏は嘗て、區長として永年勤続し、區
政刷新、區の施設の充實の爲め、盡力す
る所多かつた。又隣保扶助の精神を涵養
するため、機會ある毎に區民の融合を圖
つた。又農會代議員に推されて、農會の
爲め貢獻する所甚大なものがある。特に
氏は農會施設の充實を圖り、之を村民に
利用せしめ、當村福利の増進に努めた。
斯の如く氏は區長、並に農會代議員とし
て、永年在職し、一身を忘れて自治公共
の爲め日夜奔走し大いに其の實績をあげ
たのである。

氏は浄土眞宗を信奉し、信仰頗る厚く
敬仰の念亦深い。現下支那事變に際して
氏は戦線の將士をして、後顧の憂なから

しむるため、區長と一致協力して、其の對策に萬遺憾なきを期して居る。

新穂村長畝

長畝區長 土屋 五佐次



氏は資性温厚篤實にして、清廉潔白なる人格者である。明治三十八年六月一日仙臺歩兵第二聯隊に入隊し軍務に精勵よくその責務を果して、除隊歸村して以來村の發展に盡瘁し來りたるものにして、區長として村治に關與、多大の功績を擧げてゐる。

當家は舊家にして名望あり、氏は明治十七年九月十日當地に呱呱の聲を擧げ、先代土屋金右衛門氏の代に望まれて明治四十一年に入家したものである。

先代金右衛門氏は郡會議員、村會議員及助役として村治に盡瘁すること長期にある。

互り、功績多大に上り、村今日の富安を成したるは實に氏の功與つて大なるものがある。金右衛門氏は資性果斷、氣骨稜稜しかも俠氣ある人格者であつた。

氏の家庭は、キノ夫人四十二歳、長男金二君十八歳、ミサ嬢二十歳、ハルエさん十三歳にして、キノ夫人は賢夫人の聞え高く、氏の忠實なる内助者として後顧の憂なからしめてゐる、長男金二君は畑農學校出身にして、潑刺たる氣概を有し、將來を矚目されてゐる青年である。氏は政黨關係は民政系にして、家庭は圓滿和合を極め、眞言宗を信奉して敬神崇祖の念に厚く、良家庭として村民の信望を受けてゐる。

新穂村長畝

勳七等功七級 山田 金藏

陸軍騎兵軍曹として勳七等功七級の榮譽を擔つてゐる氏は、前村會議員として當村の福祉増進に寄與し、村民の幸福を期して、夙夜淬勵し功績多大にのほり、



其他の公職に有つて誠心誠意盡瘁し居りたるものにして氏の資性清

廉潔白にして快活恬淡、しかも俠氣に富める人格者として村民の信望が厚い。當家は舊家にして名望があり、金藏氏は吉井村より山田家に入籍せられたるものにして、明治十三年八月十日生れにして、代々農業に従事し篤農家として知られてゐる。氏は又家業たる農業に關し卓拔なる識見の所有者にして常に農業の改革と、農民の生活向上を目ざして研究的態度を以て臨み、多大の成果を擧げてゐる。氏は又釣に趣味を有し、悠々自適の境に遊び、閑日を愉しむを常とし、釣道に於ては女人はだしの技量を持つてゐる氏の家は和合の家として常に圓滿和樂に充ち、氏を中心として敬神崇祖の念に篤く、淨土眞宗を信奉して、模範的良家

庭として村民の信望が大である。

氏は本年五十九歳の壯齡でして、多くの抱負を有し、篤農家として村民全般に亘る農業の發展を企畫してゐるは、實に氏の向上心に依るものにして、土より出で土に生くる農村の雄として愧ぢざるものがある。

畑野村寺田

方面委員 計良 松太郎



代々庄家を勤め、連綿として三百五十年を閱せる當家は、村内屈指の資産家にして先代觀丸氏は神職にして、白山神社の社掌として永く奉職し、資性英邁にして、博覽強志、その令名四隣に洽きものがある。幼時、嚴格なる訓育を師より受け、教を守りて刻苦研究し附近に知られし漢學者である。その書道

に對する造詣は、趣味としてよりも一家をなすものである。

松太郎氏は明治六年四月三日の生れ、郷社加茂神社、並に寺田神社の各社掌を奉職してゐる。就中、加茂神社は古來、衆庶の崇敬厚く、その例祭には遠近の人群衆して盛大を極める。

尙氏は當地の繁榮にも意を用ひ、耕地整理組合副組合長を勤めしことあり、現在方面委員の要職にあつてその熱誠振りを發揮してゐる。

壯年時代より思想善導に努力し、各地團體、學校等に於て盛んに講演し、その説く所、熱あり力ありてよく聽者をして傾聽奮奮せしめてゐる。

政黨には絶對中立である。氏の資性、は温厚篤實にして至誠公平であり、仁慈の心に富み、庶民の衆望を集めて令名が甚だ高い。

畑野村

勳八等功七級 加藤 五作

當家は當村屈指の舊家である。代々農を營み、篤農家として知られて居る。氏は先代三平氏の長男として明治十二年呱呱の聲をあげたのである。長じて、村松歩兵第三十聯隊に入營、よく軍務に精勵し居りたる所、偶々、日露の大戦勃發するや、應召して、奥大將麾下の第一軍に馳せ參じ、奉天、沙河、遼陽、九連城の各所に轉戦し、赫赫たる武功を立て、爲めに勳八等功七級を賜るの光榮に浴し、堂々晴れの凱旋をしたのである。氏の存在當村はの名譽である。氏は凱旋後、推されて、區長、區會議員に就任、茲來二十年餘、當區の福利増進の爲め貢獻する所多大である。昭和十二年七月、支那事變突發し、當區よりも多數國家の干城が應召さるや、氏は率先して、出征遺家族慰問に當り、又區民を團結して、出征遺家族の勞働力不足の補充に當り、銃後國民として萬遺憾なきを期して居る。氏は眞言宗を信奉し、信仰が厚い。

氏は温厚篤實にして、稀に見る人格者である。

長男正夫氏は、高田聯隊に入隊、目下中支戦線に活躍中である。當年三十三歳

畑野村

區長 豊谷 卯市

氏は明治四十五年七月二十七日の生れにして、養父與吉氏、五十七年前に、區長として村内に幾多の功績を残して、村民に惜まれて逝去するや、當家の養子となつて入籍したものである。當家の開祖は、長谷寺の豊谷並門にして、當村内に於ける屈指の名門である。

先代與吉氏の、その多年に亘りて奔走貢獻せし功勞は町自治の上に燦然と輝いてゐる。

當主は幼にして恭儉博學なり、刻苦して業を勵み、また廣く公共の事に奔走し貧賤を排斥せず、夙にその芳名を謳はれた。

氏は、養父の衣鉢を承けて、町自治に

關與し、區長に推舉されてより歷任すること長く、區長中の年少者なるも、その言語少くして熱意あり、その手腕は當村中の白眉として稱讃を浴び、氏の將來は當村を双肩に擔ふ人物として囑目されつあり、愈々村民の福祉増進のために活躍つゝある。かくて、よく當村民の信望を拍せる俊秀の士である。

宗旨は眞言宗にして、よくその教旨を研究し、その説く所を身に體し、仁慈に富める人物である。

畑野村

區長 羽二生 虎藏

當家は、年代不明なれども、代々農業を營み、當村内の舊家である。

當主は明治十三年十一月の生れにして先代泰藏氏の長男である。

資性、謹直にして高邁、人に勝ぐるの氣節あり眞に大丈夫の士である。大志あり、言語少く、よく先代の嚴格な訓育を受けて成長し、夙にその恭儉博覽なるを

謳はれた。

郷土校を卒業後は家業に精勵し、その圓滿なる人格と情誼に厚き氏は、曩に推されて區長の公職に就き、村民の澎湃たる信望は翕然として一身に集つた。

かくて氏は村會議員に出馬して、見事當選の榮譽を獲得し村内の刷新、及び全力を傾けて明朗化に盡瘁して着々としてその實績をあげてゐる。

富貴に汲々とせず、榮利を慕ふことなく、眞に清廉潔白の士にして、眞言宗を奉じ、慶宮寺の檀家總代として、その信仰深きことは、早くより村民の評判となりたるものである。

尙羽二生家は、開祖當時よりの慶宮寺檀家總代にして、當主の信仰心厚きことも亦さこそと頷かれる。

長男喜一氏は佐渡農學校出身者にして父君の名を取づかしめざる秀才であり、現在は父君を助けて家業に精勵して居るのである。なほ次男泰三君は高等小學校三年に通學中である。

金澤村平清水

方面委員 小林 治之策

先代淺次郎氏は高潔なる人格者にして村會議員として三回に亘り村治に盡瘁し献身的努力を以つて村民の安寧と幸福を計り、又佐渡荒物同業組合審査員として二十五年に亘り、實に氏が永眠する迄盡瘁して實績多大に上り、又氏子總代として敬神の念に厚く、よく村民の信望を擔ひたる人格者であつた。氏は淺次郎氏長男として當地に呱呱の聲を擧げ、本年五十四歳に至るまで村會議員として村治に盡瘁し、農村の改善改良に寄與多く、國勢調査員として二回に亘り奉仕し、私設消防組創立當時は組頭として勤務し、當地消防組の爲盡瘁し、氏子總代として敬神の念に厚き人物として信望を集めてゐる。氏の資性温厚にして眞摯敬虔、篤實練達之士として村の發展と繁榮に寄與してゐる。

當家は代々農業を營み、篤農家として

名聲高き徳望家である。

氏の政黨關係は政友會にして當地方の重鎮である。家庭は圓滿、氏の人格を反影して清廉、しかも敬神崇祖の念に篤く家庭は七人なるも明朗なる家庭として笑聲絶ゆることなき、模範的良家庭として信望がある。氏は又現在方面委員として活躍してゐるが、村内貧困者の眞實の同情者として敬慕され、氏も又一時的救済で無く、慈心溢るゝ心情より發して、職無き者に職を與へ、病める者に醫藥を供し、更生の途に導くやう献身的努力をなしてゐる人格者である。

新穂村新穂

長島 醫院



當醫院は
内科、小兒科、産婦人科、其他全般に亘る治療科目を有

畑野村 田
區長 中川 光治
曩に農區耕作部長として名聲を博せし

一家は和氣霽々として圓滿なる家庭を作つてゐる。

する醫院である。院長長島隆次氏は明治十年生れ、現在六十二歳にして醫科大學卒業の英才にして醫學士である。

當家は新穂部落中の舊家として數へられて居り、氏は德行高き人格者として、名醫として好評噴々たるものがある。醫院設備もよく整ひ、藥劑師、看護婦二名を置き、治療を乞ひ來れるもの遠隔の地に及び、氏の親切にして同情心深き天性は、患者みな敬慕を寄せ、信望篤き人である。また氏は現在推されて村會議員となり、村政に參與、その功績並々ならぬものがある。故に村會議員中の有力者として、博學多識を以て知られる學者肌の人格者である。

氏は、三宮部落中川家よりの當家に入籍し家督を相続せられたものである。

明治三十四年一月十三日の出生、濃厚にして謙讓の美德を備へし氏はまた精農家として近隣に聞えてゐる。現在推されて氏は、區長、區會議員等の公職に在りて、夙夜献身的に區政の向上發展に盡瘁し、村民より深く感謝の念を寄せられ、好評噴々たるものあり。政黨は嚴正中立を持し、趣味は圍碁謡曲に深い。

信仰心厚い氏は、また眞言宗に深く歸依してゐる。内助の功多き令聞との間頗る圓滿で、常に笑聲門に溢れ、附近の羨望の的となつてゐる。

加茂村梅津

梅津區長 白井 貞次

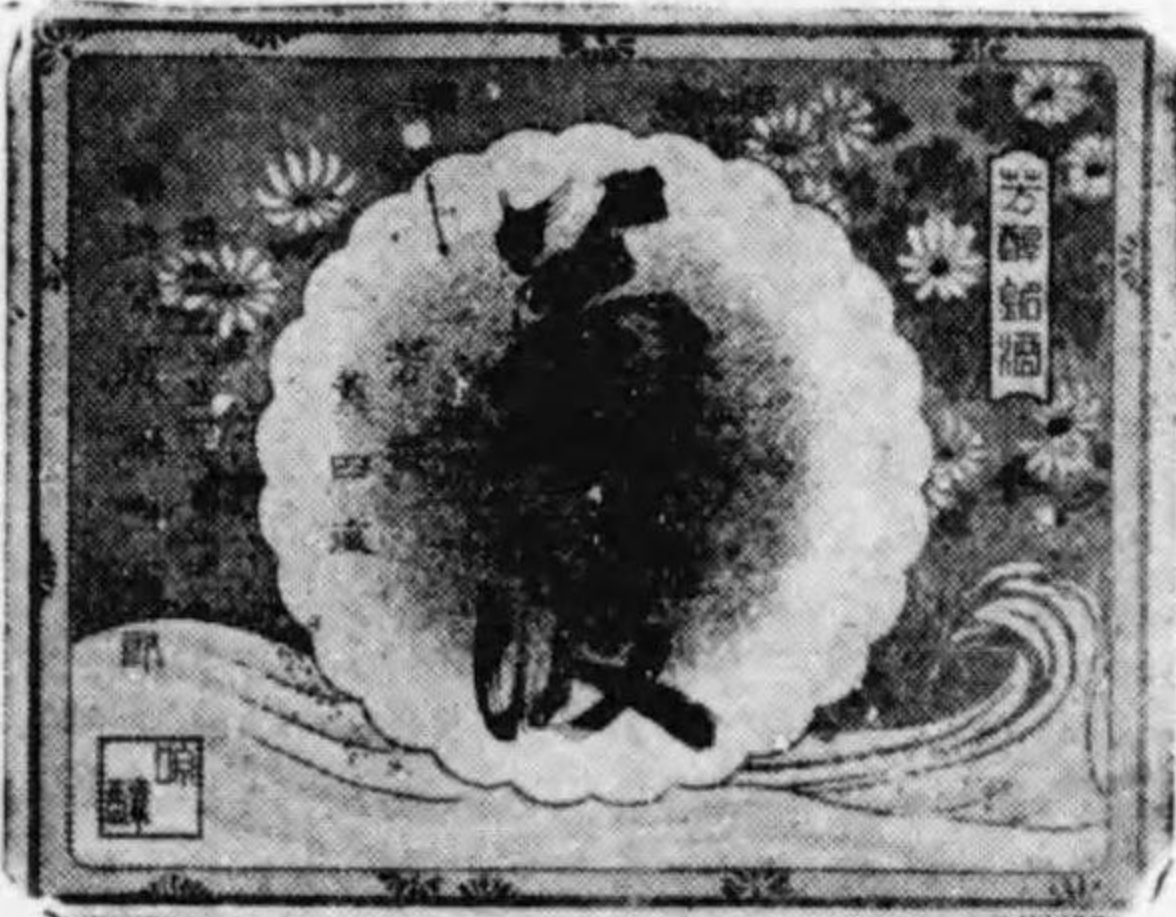
氏は進取の氣性に富み、明敏達識才氣渾發大いに將來を囑望されてゐる。明治四十三年生れの逸材にして、本年二十九歳の新進氣鋭の青年紳士である。氏は區長として自治の事に關與し、献身的努力

を以て村治に邁進してゐる外、産業組合青年聯盟理事として青年の指導と、共に發展せんことを畫策し、一意目的に向つて邁進してゐる。

二宮村石田

酒造業 近藤 吉司郎

當家は當村きつての舊家にて、代々銘



酒菊波釀造を造家として、名高く、地方民の眷顧を受けて居り、吉司郎氏の將來と共に、當家の發展も刮目して期待されるものがある。

郎氏未だ若年の爲、母堂マツ氏が後見人となり、家業一切を引受けて居り、マツ氏は男勝りの女丈夫にて、家業の發展も偏にマツ氏の努力によるものである。またマツ氏はさうした男勝りの性格の反面には、溫柔優雅にて、一面に家業の隆盛に精進すると同時に、他面吉郎氏の教育に努め、賢夫人として聞え、今や氏の前途を唯一の希としてゐる。

加茂村和木

酒釀造業 川上 可一

當家釀造の菊波は、此地方の銘酒として名高く、地方民の眷顧を受けて居り、吉司郎氏の將來と共に、當家の發展も刮目して期待されるものがある。

吉司郎氏は佐渡中學出身の秀才にしてまた孝心深い人物である。

時村長に官選され名村長として村治に盡瘁したるも、其の後當地に來りてより本業を始めたるものにして、賢吉氏は佐渡水産會及び通信事業の開發者にして、郡民の尊敬厚く、その功績碑は氏の徳を頌して不朽である。

當家にて釀造せられる銘酒は『扇山』

『和木川』にして、内國勸業博覽會に銅牌を受け、日本釀造協會品評會に於ては二等賞を二回に互りて受け、同郡同協會主催品評會に於て十三ヶ年間連續優等賞を受けるの榮譽に輝いてゐる。當家は従業員七名、支店を兩津町、及佐渡郡金澤町に置き著名盛大である。

川上可一氏はその代表者として先代の業を繼ぎ、爾來、着々その成果を擧げてゐるものにして、資性濃厚篤實にして德行に篤き人として信望がある。

新穂村青木

篤農家 齊藤 元治

當家は當村有数の舊家にして、今より



約三百五十年前より、當地に於て農を營み、歴代銳意農業の改善進歩に務め、篤農家として知らる。

當主元治氏は、先代元右衛門氏の男として、明治十二年十二月二十八日、呱呱の聲をあげた。性剛毅にして而も濃厚、日露の役勃發するや、應召して、勇躍滿洲の曠野に赴き、各地に轉戦して、武功赫赫たるものがあつた。よつて、其の功により、勳八等を賜るの光榮に浴し、尙一時金として金壹百圓を下賜せられたのである。氏は仙臺騎兵第二聯隊より出征したのである。

昨年七月、支那事變勃發するや、當時を回想して、感慨無量なるものあり、率先して、出征遺家族を慰問し、或は村民を指導し、之を班に分ちて、出征遺家族の勞働力の不足を補充せしめてゐる。

長男元一氏は、佐渡中學卒業の才幹、前途有爲の青年として、將來を囑望されてゐる。

氏は眞言宗を信奉し信仰最も厚い。

加茂村歌代

青年團長 榎 治郎



加茂村青年團長として、青年の指導教化に當つてゐる氏は、時局下に於ける銃後運動の必要を痛感し、着

着として發展してゆく國運の進展に伴い我國の將來は實に次の時代を支配する青年の雙肩にあると思惟し、眞の日本精神より發足したる日本主義に立脚して、青年の精神教育及び健全なる身體の養成を企畫し、献身的熱意を以てその職に任じ青年の信望をかち得てゐる。氏は又一等水兵として軍務に精勵したることあり、

その家庭は七人家族にして、氏は先代庫藏氏長男として當地に岳降したるものであり、本年三十八歳の働き盛りである。先代庫藏氏は温厚篤實なる人望家であつた。同氏の家庭は圓滿にして和合を極め眞言宗を信奉し、一家揃つて敬神崇祖の念に厚く、朝夕佛前に合掌するを常としてゐる。氏の今後に於ける村政家への活躍を期待されてゐる。

畑野村寺田

區長 今井長吉

當家は當村有数の舊家にして、歴代農業に従事し篤農家として聞えが高い。先代榮吉氏は性温厚篤實にして、村民の人望厚く、區長、區會議員として當區發展の爲め、多大の功勞ありたる人である。



吉氏は性温厚篤實にして、村民の人望厚く、區長、區會議員として當區發展の爲め、多大の功勞ありたる人である。

當主長吉氏は先代榮吉氏の男として、

明治二十七年一月一日、呱呱の聲を挙げた。氏は嚴父に似て温厚篤實村民の人望亦厚い。氏は若くして區長に推され、爾來今日に至る迄、區政の向上に貢献して來た。

氏は、特に道路を改修して、交通の不便を除き、産業の發展に資すると共に、他方、農業の多角的經營を奨励して、農家の収入を増加した。

長吉氏夫人ヒロ子さんは、當年四十五歳にして、愛國婦人會員として、活動してゐる。長男勘吉君は、當年十九歳にして、佐渡農學校を優秀なる成績を以て卒業、前途有爲の青年である。

氏は、眞言宗を信奉して、信仰が特に厚い。

畑野村猿八

區長 高橋武五郎

當家は、當村屈指の舊家にして、當主は其の第十二代目に當る。



先代萬藏氏は、永年神職を勤めた人である當主武五郎氏は、先

代萬藏氏の男として明治四十年八月廿六日、呱呱の聲を挙げたのであるが、長じて佐渡農學校に入學し、終始優秀なる成績を以て同校を卒業、郷里にありて、農業に従事してゐたのである。

氏は温厚にして篤實、村民の人望厚く初め推されて、青年會長に就任し、同地方青年の指導教化に當つた。氏は、質實剛健を旨とし、柔弱の風を憎み、之が打破に銳意力を注ぎ、其の効果大いに見えるべきものがあつた。間も無く、青年會長を勇退したが、目下區長として、當區々民の福利増進に努めて居る。又氏は産業組合幹事を兼ねて、其の貢献大なるものがある。尙氏は目下私設共同電燈の副社長の要職にもあり、當電燈の盛衰は一に

氏の腕にかゝつてゐる。氏は日蓮宗の信奉者である。氏は當部落第一の資産家である。

畑野村

區長 本間長太郎



當家は創立以來二百年以上に亘る舊家にして名望家として信望あり、代表農業を営み、篤農家として、農

業の發達に努力し來りたるものにして、先代菊藏氏は區會議員として村治に關與し、終生一身を挺してこれに精勵し來り資性温厚篤實にして實直なる人物として信望があつた。氏は菊藏氏の長男として明治二十四年七月當地に呱呱の聲を挙げた。爾來村治に關與せるものにて、區長として又區會議員として粉骨碎身村民の福祉増進に銳意努力し、多大の實績を擧

げ、また一宮神社世話役として敬神の念に厚く、小閑を割きて神社に参拜する篤志家である。

氏は兵役第一乙にして、政黨關係は民政黨に屬し、釣を好みて附近の河川に綸を垂れ忘我の境地に遊ぶを常としてゐる氏の家庭は至極圓滿にして、よく團樂に時を過し、笑聲絶ゆることなき良家庭として羨望されてゐ、當家は又代々眞言宗を信奉して崇祖の念に厚く、家族各々よくその分を守り家業に精勵してゐる。

畑野村

區長 土屋 恣



當家は當村有数の舊家にして、代々農業を営み、篤農家である當主は其の八代目に當る。

當主恣氏は、先代重右衛門氏の長男として明治四

十一年、呱呱の聲をあげた。性温厚にして而、篤實、村民の人望が厚い。長じて佐渡農學校に入學するや、終始優秀な成績を以て進級し同校を卒業するや、祖父の業をついで農に従事する傍ら、推されて、區長並に區會議員に就任、日夜區政の向上、區の福利増進に奔走し、席の暖まるを知らない様な次第である。

吉井村本郷 藍原左門

當院は昭和十二年六月の開院に係るものである。院長を藍原左門氏とす。先代三平氏は、性温厚にして篤實、村



民の人望厚く、推されて、村會議員の公職にありて、永年村自治の

爲め盡力し幾多の功勞ありし人である。氏は今尚ほ健在にして、生花をよくし、其の道の大家として名高い。現在、生花の師匠である。

當主左門氏は、三平氏の長男として、大正二年二月二十三日呱呱の聲を擧げたのであるが、最初、農業を以て身を立たんと欲し、縣立佐渡農學校に入學したるも、同校を卒業するや、感ずる所ありて醫師として身を立んと志し、電氣醫學專門學院に入院、同院に於て、醫學の蘊奥を極めた。同院を卒業するや當地に於て樂生堂佐渡支院々長として開業した。爾來氏は常に醫は仁術なり、との信念の下に金錢問題を超越して、醫業に従事しつゝある。爲めに、村民氏を敬慕するこ



と慈父の如きものがある。氏は生花を趣味とし、曹洞宗を信奉してゐる。

新穂村新穂
吳服問屋 荒井 實

當家は開祖以來六代目位にして、連綿と續いた家柄である。代々吳服問屋を營み、東京、京都大阪方面に

取引をなして盛業を極め、新穂部落第一の資産家として評判高く、先代忠平氏は家業に献身精勵せる人にして、當主實氏はその子息、明治三十三年五月四日生れ當年四十歳である、氏は天性謹嚴、圓滿なる人格者にして、非常に信仰心厚き人として尊敬を擔つてゐる。また氏は事業的手腕を有し、家業を益々隆盛ならしむると同時に村會にも參與し、前村會議員

として村政發展に盡力した人である。現在新穂商工會長として、商工業の發達に努力して居る。

氏は毎日朝夕佛壇に對し經を讀み、禮拜するを以て定めとなし、已を修め道を守るに熱心、氏の人望の日増しに高まる所以である。は眞言宗を奉じてゐる。家庭は氏の人格と相俟つて、一家みな信仰深く相和して居り、さらに大なるその一族の繁榮を期待されてゐる。

新穂村長 敬
天理教 大教會 加茂宣教所

當宣教所は面積約二千餘坪にして教堂約七十二坪、事務所五十餘坪、及土藏一棟あり、昭和七年新穂村正明寺より移轉したものである。當教會の信者は、新穂村、畑野村、吉井村、相川方面にして、その數二百餘人に及び日に月に擴大、布教の實績を擧げてゐる。大祭は毎年十一月、二月の二回に亘つて行ひ、月並祭は毎月十二日に執行、盛大なる祭典の儀式



布 教 師
穂 鷹 治 六

氏は明治八年八月十日生れにして本年六十四歳の高齡なるも矍鑠として壯者を凌ぐ旺盛なる元氣さであり、日夜布教に

従事し、天理教精神の全範圍に亘る布教を決意し一身を挺して教理の爲獻身的努力をなし居るものにして、氏の資性濃厚にして清廉潔白、よく衆の模範たるべき資質を備へ、信者の信望厚き名布教師である。

氏の長男政雄氏は大正元年十一月七日生れにして、縣立畑野農學校卒業の秀才であり、本年二十七歳、前途洋々たる將來性を持つ青年であり、氏の後繼者とし



新穂村下新穂
素封家 影山 テイ

當家は開祖以來十五代目位にして下新穂に於ける屈指の舊家である。代

代農業を營み、それを以て家業となし、篤農家の譽れ高く、先代直吉氏は家業精勵の傍、村自治開拓に參與、組合理事、村會議員、塚原山寶物係等に選ばれ、村民より徳望家として信任を寄せられてゐた。當家はまた當村有數の素封家にして、第一銀行と取引をなしてゐる。

テイ夫人は二宮村加藤新平氏家より嫁されるものにして、良妻賢母の名高く、資性溫和にして優雅、然してよく家を修

め、子弟の教育に懸命なる夫人にして、明治十九年生れ、當年五十三歳である。長男七十郎氏は佐渡中學卒業後、早稻田大學に學び、當年三十一歳、將來を有望視されて居り、七十郎氏夫人はミホさんも三十一歳にして賢夫人の令名高く、一家皆和氣霽々として圓滿なる家庭を營み村内より敬慕されてゐる。

吉井村大和
篤農家 北見 令助

當家は村内有數の舊家にして篤農家である。當主は先代坦藏氏の長男にして、本年六十二歳である。

氏は幼時より智慮業に勝れ、俊才の聞え高く、才氣煥發にして手腕卓越、名村會議員と謳はれし人であつて、その在職當時に残せる功績は偉大なるものにして、眞に一村の長老たるべき資格を具備し、加ふるに自治精神の顯揚に努力せし逸材である。

尙又氏は隣保相助の美風を敷衍して村勢の進展につくす所も多く、よく村民に當村向上の恩人と仰がれてゐる。禪宗を尊奉して、非常なる信仰家である。

家族は八人にして、長男は佐渡農學校出身の秀才にして、家業を繼ぎ、父君を助けながら、熱心に農事を研究してをりその將來に期待する所、甚だ大なるものがある。

新穂村丹下

素封家 後藤 キミ



キミ子夫人は故五郎左衛門氏の夫人にして、明治九年八月十八日生れ、畑野村本間藤七家より嫁し來れるものにして、東京にて女學校を卒業した才媛である。

當後藤家は開祖以來約四百年位にして先祖代々酒造家として名高く、舊家として知られてゐる。先代五郎左衛門氏當時故あつて酒造業を閉店、今日に至つたものである。祖父五郎次氏は代議士に當選功績甚大であつた。又先代五郎左衛門氏は生前縣會議員、佐渡電燈重役、その他佐渡銀行、佐渡物産、佐渡汽船等の重役の任にありたる名士にして、後年に至りて政友會に屬し名聲赫々、その逝去を痛惜されてゐる。

キミ夫人は本年六十五歳、夫君歿後よく家を修め、子弟の教育に努力せる人にして、良妻賢母として評判高く長男進氏は當年三十九歳にして早稻田大學商學部卒業後、農林省に奉職、現在産業協會に勤務中で、將來を囑望されてゐる。尙後藤家は當村屈指の財産家である。

畑野村三宮

素封家 中川 新一

當家は約三百年以前の開祖にして、當



村屈指の舊家である。代々篤農家として令名を誦はれし家柄にして氏の祖父は郡會議員たりしことあり、減私奉公の一念を以て盡瘁、郡政に多大の功績をあげ、當家今日全盛の礎石をなした人である。

當主新一氏は約十七年前に、區長として碎勵し、郵かき功勞を殘せし先代一氏が惜まれて早逝するや、弱冠にして家を繼ぎしものである。

ハル子未亡人は一氏無き後を承け、當主未だ幼少なるを以て、よく家事一切を切り廻し、熱心に當主の教育に當つてゐた賢女にして、資性溫雅、非常なる才媛にして、よく故主の名を恥づかしめず淬勵してゐる。

新一氏幼にして至情あり、その人となり深沈にして識量を有す。忠實にして、

母に仕へて至孝、その洋々たる前途は、必ずやなすところ多からんと村民はよくその將來を囑望してゐる。宗旨は曹洞宗にして、家族みな信仰心に富んでゐる。

新穂村内卷

素封家 本間 ヨシ

本間家は三百五十年前の開祖にして爾後營々と續いた當村屈指の舊家である。代々農を以て家業となし、誠農家として知られて居る。ヨシ子夫人は、不幸にして主人克己氏に大正九年二月他界されてより、婦人の身を以てよく一家を支配し家名をばづかしめず、良妻賢母として高評噴々たるものがある。女史は明治二十一年十一月二十六日生れにして、吉井村の井上家より本間家に嫁し來れるものにして、夫君克己氏早去の時は未だ三十三歳の若さであつたが、爾來今日まで家業に勵むと同時に、子弟の教育をまたよくこれを果し、一家を圓滿に修め、本間家

の今日あるも、偏へ女史の懸命なる努力と不撓の精力に依るものであり、女史の苦難如何許りかと察知し得られるのである。

女史は長岡高等女學校卒業の才媛にして、天性明朗快活、まゝ温良篤實の人となりにして、村民の愛慕を受けてゐる。

女史の後半生の努力に依つて、内巻部落有數の資産家として本間家は益々榮え、女史の献身的努力も報ひられつゝあるのである。

又本間家は日蓮宗の信者にして、信仰心厚く家庭圓滿徳望高き一家である。

河崎村

自治功勞者

本間七左衛門

書畫に趣味を有し、卓越せる識見を具備し、所蔵の書畫、地方に稀なる逸品を所有し、又氏は書道をよくし温厚なる徳望家として衆望を擔つて居る。

當本間家は開祖以來第二十一代目にして、當村屈指の舊家として知られ、又先

新穂村長畝

篤農家

土屋 泰雄

納稅組員、信用組合肥料世話役として功績ある氏は、前在郷軍人會理事として盡瘁し來り、當村の自治及産業經濟の發展に多大の實績を擧げた。



當家は代
代農業に従
事し、篤農
家として知
られてゐる
名望家にし

て、先代五郎氏は村役場に勤務し、助役として、功績多大にのほり、性温厚にして篤實謹直なる人格者として村内に信望厚かりし人であつた。

氏はその長男として明治三十八年一月六日當地に岳降し、本年三十四歳の壯年に在り、多大の抱負を持ち、將來を囑目せられてゐる。氏はかつて千葉鐵道隊に現役兵として入隊し居りたることあり、政黨關係は中立にして、趣味を謡曲にもち、數百年の傳統をもつ謡曲の心髓に觸れ、日本古來の藝術に陶醉するを常とし又生花に興味を有し、脈々としてつきるところを知らぬ境地に遊ぶを常としてゐる。氏の生花は、野山に有る自然の姿をそのまま一つの箱に、一つの器物に描寫

するを常とし、風流を愛する人である。氏の家庭は一家揃つて日本古來の藝術に興味をもつは、實に氏の影響を受けてゐるのであらう。

吉井村大和

篤農家 加藤 治平

職分を楽しみ、郷土愛の熱意を以て、自治公共事業に關與その敏腕を謳はれ名聲赫々たる氏は夙に加藤家に養子として早くより來り、養父易三氏の下に於て、嚴格な訓育を受け、熱心に精勵し、夙に村民にその將來を囑望さる。

先代易三氏は助役、村會議員、水利組合三郡聯合會長等の要職に歴任し、特に助役時代に發揮せる卓抜な手腕は村政に盡すところ絶大なものであつて名助役として名聲を博せり。その郡是に盡瘁せる功績は眞に多大なるものである。

當主は六十一歳にして、現に區長の要責にあり、氏もまた、嚴父の衣鉢を襲ぎ村自治の爲めに思念する所あり、人格剛



新穂村長畝
素封家 三田 正一
氏は新潟縣立畑野農學校卒業の秀才にして本年二十一歳の前途洋々たる青年紳士である。

當家は新穂村長畝に於ける代表的舊家にして、連綿たる家系を有し、素封家であり名門の家として著名である。氏の嚴父先代甚八

郎氏は惜しまれて他界せるも信用組合理事として村の産業經濟に關與多大なる功績を残せし、資性温厚にして公明正大なる性情の主であつた。氏は甚八郎氏長男として大正七年八月十四日當地に呱呱の聲を擧げ、若年なれど潑刺たる氣概を有し、しかも眞摯敬虔なる貴公子然とした外貌の持主である。氏の母堂先代甚八郎氏夫人ハル子氏は當年四十八歳にして、甚八郎氏他界後、よく家を守り正一氏の教育に意を用ひ、貞淑無比なる賢母として三田家の存続に一意腐心し今日に至りたるものであり、村民の信望厚く、女乍らもその双肩に家事、其他の責務を背負ひ遜色なき家業の維持に務めて來た。尙同夫人は佐渡郡吉井村の舊家名門より入家したるものにして愛國婦人會員として活躍し、銚後婦人として活躍、模範的賢夫人として徳望ある夫人である。尙當家は眞言宗にして、夫人は敬神崇祖の念に篤く、朝夕佛前に合掌するなど、實に正一氏の今日有るは夫人の献身的努力の賜

である。

氏の前途赫々として、今後の村を背負つて立つ逸材として衆望と期待とを集めてゐる。

新穂村

篤農家 菊池 政吉

當家は當村の舊家菊池勝五郎家より分家したるものである。



當主政吉
氏は長右衛門氏の男として、明治

廿年五月八日、呱呱の聲を擧げた。温厚なる篤實家である。

長じて、高田聯隊に入營、良く軍務に精勵して除隊さる。

除隊後は、父祖の業をつぎて、農業に精勵し、篤農家として聞えが高い。氏は常に細心の注意を以て農業に従ひ、其の經營方法については、常に嶄新なる知識

を吸収して、其の改善に務め、大いに其の能率をあげてゐる。

夫人ノヨ子さんは當年四十八歳にして氏の良き補助者である。

長女幾重さんは當年十七歳にして、畑野農業學校を優秀なる成績を以て卒業され、目下父母の業を助けて、孝養に務めてゐる。家庭は頗る圓滿にして、村民均しく羨望する所である。

氏は眞言宗を信奉し、信仰厚く、又敬神の念篤くして、朝夕神社の参拜を缺かさなう。

畑野村栗野江

元郡會議員 齋藤 順平

當家は當村屈指の舊家である。歴代當地に於て、



農業に従事し、篤農家である。當主は當家第五代目に該

る。

當主順平氏は、先代五作氏の男として明治三年一月十二日、呱呱の聲を擧げたのである。

性温厚にして篤實、村民の厚望を一身に集めてゐる。嘗て、郡會議員に出馬し村民多数の支持を得て當選し、在職中は郡政向上のため、日夜奔走して、多大の功勞あり、郡諸般上に足跡を印した。後退いて、鋭意農業に従事し今日に至つたのである。

氏は、當村に於ける篤農家にして、常に細心の注意を以て、農業に従事し、鋭意之が改善に努力してゐる。

特に、氏は農業を多角形的に經營して其の収入の増加を圖つてゐる。

昨年、支那事變勃發するや、當村よりも、多數青壯年が應召せられたのであるが、氏は銃後の護りを固くすると同時に戦線將士をして後顧の憂をなからしむるために盡力して各方面より感謝され敬慕されてゐる。

新穂村青木

篤農家 本間兼吉

當家は開祖以來六代目に於て、代々農を營み篤農家として知られてゐる。歴代農に對して、常に熱意を以て其の改良進歩に務め、常に嶄新なる知識を取り入れてきたのである。當家は米收其の他の收入の多きことに於て、又其の農産物の優秀なることに於て拔群である。當家が農業の改良に依り、間接に當村繁榮のため及びす影響、洵に甚大なりと云ふべきである。

當主兼吉氏は先代幸八氏の男として、明治十年三月廿八日、呱呱の聲を擧げたのであるが、氏は、資性温厚篤實にして寡言實行の人である。營々として常に耕す。しかし常に細心の注意を怠ることをしない、農に對しては頗る研究的である。氏は農以外に福壽生命、共立生命の各會社の代理店をなしてゐる。因に當家は當村屈指の資産家である。

夫人トクさんは當年五十四歳であり、

氏との間に四男あり、夫々性明敏にして圓滿なる性格を有し、將來を囑望されてゐる。長男氏は當年三十三歳にして、佐渡中學校を優秀なる成績を以て卒業するや、進みて札幌農科大學に入學し、尙大學に農業の蘊奥を極め、優秀なる成績を以て同大學を卒業したり。次男泰氏は今次の支那事變にいま出征中にしてすくなからざる勳功あり、三男俊男君は佐渡中學校在學中、四男宏君は、小學校在學中である。

新穂村新穂

雜貨商 山田周吉

三百五十年位以前、當家を創設、自後連綿として榮えた家に於て、代々名譽職を勤め、資産家として聞え



山田周吉 雜貨商 資産家

てゐる。先代幸吉氏の時より雜貨商を營み日々隆盛を極めてゐる。幸吉氏は家業に精勵する傍、村會に參與し區長の要職に就き、新穂村の有力者と目されてゐた

當主周吉氏は、明治十年七月三十日生れ、當年六十二歳にして、區長を三十五年勤續せる功勞者にして、前には村會議員として又區長代理を八ヶ年務め、氏はその生涯を村會に捧げた士である。當村發展に氏の名は赫々と輝き、現在新潟第一銀行株券を有し、相川銀行監査役として、名聲を馳せてゐる。

氏は德行重き圓滿なる人格者にして、村民みな厚き信望を寄せ、一家は平和に溢れ、一致協力して家業に勵んでゐる。氏は政友會に屬し、村政方面に於けると同様有力者と目されてゐる。

畑野村

軍人分會長 本間哲

當家は、當村屈指の名門である。遠く順徳天皇の御代より、歴代神職を勤めて



本間哲 軍人分會長 來た家柄である。當主の哲氏は、先代伊四郎氏の長男として

明治二十七年六月十五日、呱呱の聲を擧げた。性剛毅である。

氏は長ずるに及びて、教育者として、身を立てんことを志し、佐渡中學校を優秀なる成績を以て卒業するや、間も無く畑野村小學校に、小學校教員として奉職し、永年、教育界のため、貢獻すること茲に二十年、氏の兒童教育に致したる努力は洵に大きいものがある。

其の間、氏は旭川師團に入營、良く軍務に精勵してゐたのであるが、偶々シベリヤ出兵となり、氏も國家の干城としてシベリヤに出動、其の武勳赫々たるものがあつた。氏は其の功に依り、勳七等を賜つた。

其の後氏は、軍人分會副會長を経て、

軍人分會長となり、重く會員の指導訓練に當り、昨年支那事變勃發するや、よく本會の使命を發揮して銃後の守りを益々固くしてゐる。

新穂村武井

篤農家 田邊金十郎



田邊金十郎 篤農家 氏は明治五年一月十五日に生れ、開祖以來八代目の當主に當る。當家は武井部落の屈指の舊家にして、代

代農を以て家業となす。長ずるや、東京に遊學し、早稻田大學英語政治科を卒業す。

稟性忠允、篤農家として定評あり、統御の才と運營の妙に長じ、全村の信望を一身に集めてゐる。

その洽聞博識を以て、村自治の更張を攻究し、よく時務を知りて、不撓不屈、

村内不世出の異才として赫々たる光彩を放つてゐる。蓋し氏が早稻田大學在學當時、勉學大いに務めし所以ならん。

村第一番の元老にして、現在は悠々自適の生活を送つてゐるも、乞はるれば、熱心に献策す。

武井部落に於ては代表的素封家にして敬神の念深く、禪宗を信仰してゐる。寺運の興隆には夙に努力を拂ひ、住職との親交も厚し。家庭圓滿にして、和氣充滿せり。

新穂村青木

篤農家 本間 市作



五代目に該る。

當家は、篤農家として知られ、歴代農に従事して鋭意其の改良進歩に努力して來たのである。當主は其の

當主市作氏は、先代市造氏の男として明治十三年八月九日呱呱の聲を擧げた。性温厚にして篤實、村民の人望厚く。祖父傳來の家業を襲ひ、之に従事する事最も熱心である。常に細心の注意を以て之が改良進歩に努めてゐる。耕作地一千坪抜群の能率をあげて居る。即ち米收其の他の農産物の多きことに於て、其の品質の優良なることに於て、當村屈指である。又氏は、區長に推されて、永年勤続し當區民の福利増進に多大の功勞があつた。又現に當村熊野神社の氏子總代として、貢献してゐる。

氏は子寶に恵まれた人と云ふべきであつて、長男より三女に至る迄、皆性明敏であり、この點に於て氏を村民が羨望する所である。即ち氏は夫人との間に三男三女あり、長男米作氏は當年三十二歳にして、温厚の人、村民の人望厚く、近い將來に於て、當村の中堅として、當村發展のため盡力すべき人である。次男貞一氏、並に三男清次氏は、夫々三十歳二十

歳にして、共に新潟師範を卒業、目下青年教育家として、熱と愛とを以て兒童教育に當り、其の教育界に於ける兩氏の活動こそは、期して待つべきものであるとされてゐる。

吉井村海端

素封家 甲斐岱治郎



氏は逓信局に六ヶ年、稅務署に十ヶ年勤務し長年に亘り、官吏として努力、一意専心公職に盡瘁し來りたるものにして、現在は金錢債務臨時調査委員、村電氣常設委員として村治に盡瘁

し有り、實績甚大にのぼる。

先代五郎吉氏は、資性明快嚴正にして徳望あり、村長として實績多大に上り、當村の今日あるは氏の負ふ處甚大である。又氏は助役とし、村會議員、農會議員として村治に盡瘁し獻身的熱意を以て終始一貫、公明正大なる村政の功勞者として知られてゐ、収入役としても長期に亘り誠意を以て勤め、信望厚かりし人格者であつた。氏は五郎吉氏の二男として生を享け、血を繼いで、村治に盡力し本年五十八歳の高齡に有るも尙矍鑠として壯年の如き元氣さにある。

上杉謙信の臣、風卷寛次郎祐光が故有つて出家し、東本願寺教如上人の弟子となり、了順と稱して慶長年間三島郡雲出村に一寺を創立した、之が當寺の開基である。その後時代は不明であるが、現在の隣村藤樹村に移轉し、更に今より約二百年前、現在の地に移轉し今日に至つたものである。

刈羽郡内郷村田澤

祐光寺

當寺は淨土眞宗大谷派に屬し、御本尊に阿彌陀如來を祀る。

當寺の本堂は八間四方、鐘樓、庫裡六十四坪、經堂あり、境内は三段餘歩にして、その他山林、畑、田を有し、莊嚴の氣邊りに充ちてゐる。境内には古木鬱蒼と繁つて夏尙ほ冷氣を覺ゆる程である。寶物に親鸞上人直筆の名號あり、大谷本願寺の末寺である。眞宗大谷派規定の行事の外、經堂に釋迦三尊安置の故を以て、眞宗にては行事としてないもので

あるが、當寺にては涅槃會を執行し、盛大な參詣者がある。

檀家範圍は長岡市を始め刈羽郡、三島郡、古志郡等一市三郡十六ヶ村に亘る廣範圍に及ぶ。檀家總代は外山光信、松木久三、戸口仁三郎の三氏である。

住職

風卷靈樹

當山住職の師は、資性温厚にして慈心篤き高德の名僧として名聲がある。當寺の今日あるもの、師の徳を敬慕信賴して人望集るに依るのであり、法燈益々光彩を放つて、寺運隆盛の一路をたどつてゐる。

在外縣人

東京市

世田谷區玉川奥澤町

松永商店重役
芝浦合金社長

鈴木 留藏

電話田調二三九四番

常に勤儉力行を力調して、人々より努力の人と稱され、また温厚にして篤家なる人格者と敬慕され衆望の的となつてゐる氏は明治二年の十月二十四日、古志郡上北谷村の學歴のすこぶる深き名門の舊家島家に十左衛門氏の四男として呱呱の聲を擧げた。

島家の家系はすこぶる深く庄屋制度時代に村役人を勤め、代々村勢伸展上に貢献多く、現主ははやくより村治に關與して、いまや村會議員、區長など村内自治の任にあり、由緒も深き家門の長とし

て恥ぬものがある。

留藏氏は長じて後に古志郡柄尾町の織物問屋鈴木熊吉家の養嗣子となつた。獨力獨行の氣性に富みて事業方面に卓抜の才腕あれば、はやくより實業方面に志を抱き、永年努力精勵をつゞけて遂に大正十年四月松永氏等と共に株式會社松永商店を創設し、その常務取締役の要職に就任した。また同年十二月株式會社芝浦合金鑄造所を創設して社長の職に就いた。現在なほも前記二要職の任にあり、兼ねて他二會社の重役として卓抜なる手腕を揮ひ、帝都實業界に燦とその名を輝かしてゐる。

數多の社員店員を指導訓育するに、ある時は温情を以てなし、またある時は嚴格を以て當り、常に非常時日本の國民と

して恥るところなき堅實なる思想の持主たらしめんとしてゐる誠に氏こそ長期抗戰下日本の實業界に最も適應せる人材とも言ふべく、敬慕すべき材幹である。

株式會社

松永商店

東京市區神田花房町二十番地に本社を置く當商店は



大正十年四月の創立である同十二年株式組織となり、七萬餘圓拂込なれど、同年の關東大震災のために壹萬四千圓に減資した而し翌十

三年には八萬圓、同十五年に貳拾萬圓と増資し、昭和に至りては三年に參拾萬圓昨十二年には五拾萬圓に増資して現在の隆盛に至つてゐる。フォード自動車販賣が主なる事業にて、その販路は陸海軍諸官省、乗合自動車會社、運送店、タクシー會社、其他等全國に亘り、年賣上高が七百萬圓の巨額に達してゐる。歴代社長は松永七郎、小津貞祐、小津綠平の諸氏にして、現幹部として努力精勵するは鈴木留藏氏の外に小野昇、小津秋平、竹内徳介、小津きく乃の諸氏である。本所區堅川町三丁目サービス部を有し、目黒ボデー製作所、東京メーター製造株式會社の二社は當社の姉妹會社として共に伸展の一路を辿つてゐる。その營業方針は堅實の一字である。従業員は壹百餘名にして、全員一致斯界の王者を目指して邁進してゐる。

尙特筆すべきは陸軍省に自動車を献納してゐることで、各方面より感謝されてゐる。

株式會社 芝

浦合金鑄造所

鈴木留藏氏を社長とする當芝浦合金鑄造所は大正十年十二月合資會社の組織を以て創立せられた。昭和十年株式組織に變更し資本金拾萬圓であつた。今年更に貳拾五萬圓を増資し、全額拂込済である。その中拾壹萬五千圓は鈴木文子さんの出資に係る。眞鍮砲金アルミニウム其他鑄物工業一工業、東京電氣、東京光學等が販路にして年産額壹百貳拾萬圓に及ぶ。その品質は優良、同業間右に出づるものなく、實に斯業界の王者の地位を占めてゐる。

工場敷地壹千八百餘坪、建築物七百餘坪、新工場、舊工場敷地五百坪、建築物參百五拾餘坪を有し、従業員は壹百十餘名に達し、社長鈴木留藏氏及び専務相澤春吉、常務鈴木文二、相澤高次郎諸氏が幹部として温情を以て、従業員の指導訓育に當り、いよ／＼業績は伸展の途上にある。

下谷區谷中三崎町五〇

實業家

本井 健吉

電話下谷 四五二二
四五二四

氏は西蒲原郡栗生津村出身、二十歳にして上京後、何等外的資本の助力なく困苦精勵して今日の素因を作り、爾來着々發展に發展を重ね、ついに現在の成果をみるに至つた。當工場は、水飴、ジャム、晒し箔等の製造を爲し、年額三百萬圓以上の取引にして取引先は森永、明治一流の製菓業者、其他陸海軍指定、三井物産、三菱商事の一手販賣店である。

氏の經營する工場は、本工場下谷區谷中三崎町、分工場麻布區廣尾、出張所を五ヶ所に設置し、工場員二百名以上に及ぶ大工場である。

氏は明治十一年生れ、資性剛毅果斷にして獨斷專行なるも常に前途への見透しをつけ、的の中心を射抜き、胸の空く明敏な手腕家である。現在の營業は殆ど長

男功氏が、責任者として手腕を振つてゐる。功氏は明治三十五年生れ、當年三十五歳の新進氣鋭の實業家にして、荏原中學、立教大學卒業後、世界各國を巡歴して視察をなし、歸朝後家業に従事し、學生時代は水泳選手として知名であつた。明朗な、次の時代を背負ふに相應しい材幹である。氏は現在商業組合理事長として經濟界に重きを爲してゐる外、日本水上競技會評議員として我國水泳界に盡瘁してゐる。次男鏞一氏は京華中學、立教大學卒業にして前途を囑目されてゐ、長女氏は現警察部長に嫁し、功氏夫人は、長野縣上田市名望家より入家し、愛孫三人あり、家庭は頗る圓滿である。

淺草區駒形一ノ八

實業家 池浦 岩治

電話淺草四二九五番

氏は三島郡大河津村の出身にして、三百年前創家されたる舊家に生れ、明治十九年龜澤氏二男として十六代目當主

の代に分家し、二十七歳にして上京したその後獨立獨歩、孜々として初志貫徹に邁進し、現在の素因をつくり、その後前記の地に店舗を構へて以來一路發展途上をたどつてゐる。

氏は、電氣材料卸、ラヂオ製造卸として、東京同業者間の第一人者であり、工場を二ヶ所に經營して時代の波に乗り日に月に生長發展の路をたどるに至つた。殊に特製品としてトツブ・ラヂオを發賣し、堅牢にして、しかも優秀なるラヂオとして正に噴々たる名聲を馳せてゐる。氏は不言實行の人にして、剛毅果斷、明敏なる事業家として、業界の雄でありまた、人に接して頗る懇篤、俠氣に富める人格者として、工場従業員はもとより外に於ても、信望頗る篤い。

氏はまた、東京同業組合理事として、業界に盡瘁するところ多大にして、その他町會役員等數種の公務に就いて、献身的に盡力しつゝあり、正に氏の今後は旭日の如く事業に、公共の事に、行くとして

可ならざるは無い。

その家庭は、令闈との間に令嬢一人有り、夫人は、東奔西走に暇無き氏のよき内助者として、後顧の憂ひ無からしめ、また淑徳の譽れ高き賢夫人として令名が高

氏が今日有るは、實にその實行性にあり、確固たる立場に在つて常に現實を認識することにより、現在の發展をみるに至つたのである。氏の實業家としての才腕は言ふ迄も無いが、腹の坐つた、寛き心の持主として現在を成したのであらう。當家の宗旨は眞宗にして、氏をはじめ令闈、令嬢とも敬神崇祖の念に篤い。

芝區三田四國町二番地四號

自動車業 石曾根 音藏

自動車業者として、業界の重鎮である氏は、北魚沼郡吉谷村出身にして、同村切つての舊家として代々庄屋を勤めた名望家の男として、明治十四年岳降した。明治三十八年、志をたて、上京し、最初



人力車宿を經營し、その後、時代の進展に歩調を合せて現在自動車業

に轉じたものである。獨立獨行終始一貫して、至誠その職に邁進し、終に現在の盛大を爲すに至つた。氏の事業は現在自動車數臺を有し、廣大なるガレージあり増々日を追うて盛んにして、業界に重きを爲してゐる。

氏は又、東京自動車業組合幹事、新潟縣人會役員、吉谷郷友會顧問等に推され公共に盡瘁すること甚大にして、濃厚篤實なる氏の資性の如く、その營業方針は親切、眞面目をモットーとして、人格者の聞え高き人材である。氏の家庭は、令闈との間に、長男貞藏氏、長女きみ子さん廿六歳、次女千代さん、三女きくさん日の出女學校在學中にして、至極圓滿なる良家庭である。



足立區千住元町四五

遠藤 虎次郎

電話足立二七五四番

資性剛毅にして不屈の精神を有し、實業方面に卓

抜の手腕ありと稱せらる氏は、明治二十一年十二月十九日今は亡き駒形九兵衛氏の五男として呱呱の聲を擧げた。駒形家は南魚沼郡東村屈指の舊家名門である。村上義清の末裔駒形太右衛門にその祖を發し、代を累ぬること九兵衛氏を以て既に十六代を數へる。九兵衛氏は蠶業組合長、衛生組合長等の要責を永年に互り勤め、尠からざる功勞があつた。九兵衛氏亡き後は安太郎氏が家を繼ぎて益々家運の興隆につとめ現在に至る。虎次郎氏は夙に實業方面に志をたて、

青雲の志を抱いて上京せるは明治四十五年の事であつた。東京に出でるや牛乳配達夫として常に休む事なく刻苦精勵をつづけ、その傍ら商業夜學校に通ひて學を修め、勞働の傍らの勉學でありながら常に學業優秀にして模範生を以て稱讚された。卒業後も尙もあらゆる困苦と戦ひ、血と涙の努力をつゞけて大正四年遂に一家を爲すに至り、現在の場所に牛乳店を創立した。爾來卓越せる手腕と多年の努力より得たる不屈不撓の精神を以て著々業績を重ね、一歩々々地位を占めつゝ今日の大を爲すに至つた。

現在荒川區日暮里二丁目外一ヶ所に支店を有し、また帝國王冠製作所、遠藤食糧品部等を創業し經營なしてゐるが、みな相當の業績を擧げ、以て氏の商才の如何に卓越せるものか察知出来る。尙昭和二年日本ミルクプラント株式會社を創立して同時に専務取締役に就任して活躍せるが、のち中央ミルクプラントに合併し現にその役員として貢献してゐる。

その各方面に效せる手腕は衆より稀に見る材幹と稱讃をうけ、彼の人ならばの聲高まりて元町町會長、東京市牛乳商同業組合理事、足立區防護團第三分班副分班長等の任を會て多年に亘りつとめ、寄與多大なるものがあつた。現在は足立區千住納稅組合長、足立區千住第三小學校後援會理事、新潟縣人會足立支部長として盡瘁をつとめてゐる。

氏はまた佛教を信仰する念すこぶる厚く、淨土眞宗に歸依して常に同宗の研究を怠らず、尙郷土愛強くして、最近に於ては金壹百圓を以て郷里の役場にラヂオを寄附し感謝状を受けた。其の外各方面よりの表彰、實に三十數回に及んでゐる。家庭は圓滿にして幸江夫人は淑徳の譽が高い。長男剛和氏(二十七歳)は俊敏の氣性に富み、いま日暮里支店主任として父君を輔佐してゐる。従業員は二十七人に及ぶ。

因に郷里の八色ヶ原の開拓に氏は幼少の頃より志を抱いてゐたが、この不毛原

野を生かさんと年々蔬菜類其他の種子を送り試作しつゝある。

淺草區北田原町八

實業家 山田 彦藏

電話淺草〇一三番

明治三十九年、二十三歳の折志を建てて上京、爾來孜々として業務に精勵、幾多の辛酸をなめ、つひに今日の隆昌を得るに至つた。氏は、正に立志傳中の人物である。

氏は明治十四年、西蒲原郡松長村切つての舊家に生れた。資性剛毅にして、風半は眼光炯々としておかし難き風格あり人に接して極めて鄭重懇切であり、剛腹なる一面、細心の注意力をもつてゐる人格者である。

氏の事業は極めて多方面に及び、現在浴場の經營、食堂、料理店四ヶ所に亘り「辰巳亭」と稱して淺草一流の料亭であり食通に知られてゐる。その従業員數十名に及び、極めて整然たる統制下に於かれ

てよく精勵し、營業の實績を擧げてゐる。又、東京料理組合名譽顧問、町會長、防空團、防護團等々十數種の役員に擧げられ、滅私報國を念願として、事業の爲め寧日なきも、公共の事に關與して東奔西走、席の温まる間無く活躍、盡瘁するところ甚大であり、前淺草區會議員として二期に亘り區内の自治行政に寄與するところ多大であつた。また前浴場組合長として信望を集めてゐたなど、氏の名聲は淺草區内は勿論、郷土出身の名士として噴々たる聲望を馳せてゐる。氏の資性高潔にして清廉潔白、氣骨あり、稀に見る才幹である。浴場關係では、元赤塚代議士、田村府會議員等の大先輩として、かつては政界にその敏腕を振つたが、大震災の時十八萬圓以上の損害を被り政界より引退したといふ經歷をもつてゐる。

氏の家庭は頗る圓滿にして和樂に充ち令閨との間に令嬢二人あり、才媛として令名あり、また夫人も公共に盡して寧日なき氏をしてよく後顧の憂ひ無からしめ

てゐる賢夫人として信望が篤い。

本所區宇川橋五ノ一

本所區會議員
土木建築請負業

榊原 啓一郎

電話墨田六〇六二番

啓一郎氏は剛毅磊落の資性を有する獨力獨行の材幹である。



明治二十年九月二日、先代啓次郎氏の長男として呱呱の聲を擧げた。

啓次郎氏は家業として指物製造業を営み、相當の業績をしめたが、惜しくも啓一郎氏十三歳の折長逝した。啓一郎氏は嚴父に死別せる後は、母堂タツ子さんと共に専心家業に従事して努力精勵をなしたが、十六歳の時に大工職に轉業し、足尾町に在りし叔父のもとにて三ヶ年間修業した。その後は上州其他各方面に於て尙も修業を續け、同時に困難に屈せず

目的を遂行するところの不屈不撓の精神を涵養して將來大成の基礎を造つた。

二十一歳に至りて、見事甲種合格を以て東京中野鐵道聯隊に入營し、在營中はよく勅諭を奉戴して模範兵と謳はれ、成績拔群であつた。

除隊して後、本所區押上町に多年の希望たりし建築業を創業した。獨立するや夜に日に營々と努力を續けて、著々と業勢を高め、諸官省の下請負を爲して愈々その地盤を作り、創業してより數年後、二十八歳の折に遂に土木建築の認可を受けた。爾來倍舊の努力と精勵をつとけて家運の興隆をはかり、また常に斯業の研究を怠らず、都市計畫建築法制定に依る第一回講習會に参加して、優秀なる成績を以て終業した。永年の血と涙の努力は遂に實を結ぶに至り、今や斯界の重鎮として聲望すこぶる高く、燦と輝き渡つてゐる。

その屈する事知らぬ氣性と、卓抜な手腕は次第に衆望を高めて昭和九年區

會議員に推され、今年更に當選していま活躍中である。兼任するは家屋稅調査委員二期目、在郷軍人會本所聯合會常務理事、氏子總代等にして、その貢獻すくなからざるものがある。氏はまた、郷土を愛する心情きはめて深くして、昭和十一年在京縣人に呼びかけて郷土の豊饒稻荷神社に玉垣を寄進するため、之に金千圓を寄附し、昭和十二年更に金六千五百圓を以て同神社に社殿を寄進した。以て氏の郷土愛、敬神の念の如何に厚きかを推察出来る。

家にはタツ子母堂が七十一歳の高齡を以てなほ矍鑠と建在し、令閨美津子さんは貞淑溫雅にして、夫君を輔佐するところ頗る大なるものあり、間に三男三女がある。

下谷區御徒町三ノ五三

實業家 根津 甚平

氏は中魚沼郡十日町の出身にして、同町切つての名門家根津五郎左衛門家を本

家として舊家名門より分家したものである。氏は師範學校卒業後、小學校教員として盡瘁し、薫育の實を擧げて多くの人材を輩出した。其の後、明治三十九年上京し「半小林商店」に入り、爾來同店の柱石として財界人の認むるところあり、後に氏の經營となり株式取引界の第一人者として三井銀行、三菱銀行等の信用絶大にして、其の經營振りは利害を超越し正義の信念に立脚して、縦横にその才腕を驅使し、東都株式界にその名を謳はれた。昭和十三年四月店を譲り、現在は、東京染色株式會社監査役、米商店取締役新瀉縣人會下谷支部長及本部署理事、その他町會役員等各方面に亘り盡瘁し居りて信望厚き温厚なる紳士である。

氏の家庭は、長男氏は中央大學卒業して將來を囑せられ、次男氏は目下慶應大學經濟學部在學中、尙令嬢ありて、頗る圓滿にして和合に充てる良家庭である。尙當家の宗旨は眞宗にして、氏は趣味を讀書にもち、三昧の境地に在るを愉しむ。

むでゐる。郷土に於ける信望頗る厚く、當地出身の名士として聞えてゐる。

澁谷區宇田川町

合資會社澁谷 高木 三九郎
食堂代表社員 電話青山 六八〇六番
二七三二番



高木家は中蒲原郡白根町に於ける有數の舊家に於て、家業として旅館業を営み、三九郎氏を以て六代目とする。先代三九郎氏は温厚なる人格者にして人望すこぶる高かつた。

當主三九郎氏はその長男として明治二十一年四月十七日生を享けた。天性温厚明敏にして潤達、その反面俊敏なる氣性を有して事を處するに眞摯を以て當り、容易に屈せざる不屈不撓の精神の持主である。

つあつたが、世界大戰中の好景氣時代に株式店を營み、卓抜なる手腕を揮ひて活躍したが、不遇時に於て惜しくも失敗に歸した。店を閉づるや、不屈の精神を有する氏は再起を決心して、先づ朝鮮海峽を渡りて大陸に進出し、天津日々新聞に入りて經濟記者として活躍した。而し感ずるところありて、在支幾何もなく歸朝歸郷するや新潟に於て大正時報を創刊して之が社長として専ら青年の指導に任じ縣下青年間にその名を謳はれた。

其の後、大正十二年九月の大震災の折時到来りと金壹千參百圓を携へて上京し諸種の事業を物色せる後、意を決して大衆食堂の經營を初めた。氏はまた、悲境時代より般若心經の研究をなして精神修養に力めてゐたが、この修養より得たる確固不動の精神と剛毅なる資性は時の利を得て著々と業績を積み、開業幾何もなくして遂に業勢隆々たる現在に至つた。

今や支店九ヶ所を有して、使用人は三百貳拾名、一ヶ年の總賣上高百萬圓以上に

及び、庶民より立志傳中の人と稱讃されてゐるが、氏は愈々自重自愛して美服を纏はず、常に作業服のみ用ひて業務に精勵してゐる。

尙ほ氏は、曾て財産に關する各種の調査統計を細密に調査研究なしたるが、その智識の博大なる、調査の緻密なる事、驚異に値するものあり、斯界の權威者と稱され、今これが出版を計畫中と聞く。

謡曲に趣味を有し、三男三女の令息令嬢がある。

神田區淡路町九ノ二

須田町 加藤 清一郎
食堂主

裸一貫より身を起し、現在納税額に於ては神田區内では第一位、東京市内に於ては第三十一位之多額納税者よと稱へられてゐる「須田町食堂」經營者たる氏の今日を成すもの、まさしく生々しい血のにじむ一片奮闘の繪巻物である。

郷校を出で、商家に身を寄する三年、十八歳にして志願して軍隊生活に入り、



二十歳の時に除隊、恰もよし大戰後の好況時夢は一攫千金へと飛び、僅少の資金を懐ろに、進んで株界に投じた。そして無鐵砲なやり方は、千金どころか忽ちにして十萬金の儲けに、すつかり有頂天となり「天下何事か成らざらんや」を壯語し、豪奢な生活に入つたが、あはれ槿花一朝の夢、株界反動の餘波は、氏を眞裸となして路上に抛り出してつた。やう／＼にして起ち上つた氏は方向を轉換、サガレンに落ちて軍隊の雜役夫となり、半歳にして貯へ得た五百金を持つて内地に歸り、捲土重來の勢を以て株界に臨み、華々しく雪辱戦を試みること一週日、しかも贏ち得たるものは元の木阿彌「あゝ己んぬる哉、我れ一生涯株界に立たず」と、豁然として一攫千金の夢から覺めた。

二十五歳の時に上京、森永製菓會社の配達夫となり、三ヶ月にして外交員に拔擢の榮を擔つたが、これを以て甘んずる氏ではなく、今後共に處するの自分を考へた結果が、これからの事業は大衆相手であること、小資本で出來てしかも大きく爲し得られること、營利と社會奉仕を併行することの三ヶ條に到達し、これに當て筋まるものは食堂であるとなすや、斷然職を抛つて淺草に走り、昨日に變る今日は一洋食店の皿洗ひとなり、以て他日の戰備のためにとあらゆる苦楚を嘗め盡した果は病氣に倒れ、遂に店を退いて本所の木賃宿に身を置き、まだ癒えざれば市紹介所の仕事に就き、辛うじて雨露を凌ぐこと二ヶ月、次で再度のサガレン行を決行し、働くこと約半歳、時しも號外の鈴に驚天動地の關東大震災、氏は勇躍して起ち上り「時機到来！」を高らかに叫んで歸京、僅に握り得た四千百圓の資本金を以て、今、復興の途上へ乗り出した大東京市を舞臺に、年來の所願たる

大衆食堂を經營、乾坤一擲、自己更生へと一步を踏み出した。

燒跡の須田町の一角に候補地を選定、地所借入を申込んだが、斷然弾きつけられた。併し氏は「頑張る者は勝つ」のムツソリーの言葉をその儘に、地主が斷れば斷るほど頑張り、交渉を続けることに實に十三回、地主も氏の熱心に動かされて遂に承諾。やがて大正十三年三月十日の陸軍記念日をトして華々しく開業したのが「須田町食堂」練りに練つたる氏の經營方法は時代に順應してそつなく、爾來十五ヶ年にして直營食堂百を算するに至り、今や「須田町食堂」の名聲は東京市は勿論のこと、廣く天下に鳴り響いてゐる。

會て創業十週年に際し、その記念事業として一社會謝恩、二業界革新、三須田町食堂の名聲向上、この三理由を基調に六十萬圓を投じて「聚樂」建設にとりかかつた時、當業界ではこれを暴舉なりとして嘲笑したが、既に心中確固たる信念

を持する氏は、何等遲疑逡巡することなく竣工せしめたほどであつた、七轉八起食堂界の第一人者たる氏は、縣人會神田支部長としても、郷黨のために盡瘁してゐる。夫人貞子さんとの間に長男健一郎（十二歳）君、二男修次郎（八歳）君とがある。

因に氏は明治三十一年四月八日、あの中ノ口川に沿うた白根町（中蒲原郡）に先代清作氏の二男に生れた人、家は材木商を營み、令兄清一郎氏が五代目當主として父祖の業に活動してゐる。

足立區千住町三ノ二

民話教授

伊藤 東水



今、わが民話界にその人ありとなし、ラヂオにレコードによつて、満天下に嘖々たる聲名を謳はれてゐる

本名傳作氏、號東水氏の過程や、また數奇なる運命に弄ばれた一人であるとも言へる。

氏は明治二十四年三月一日、西頸城郡根知村に生れた人。

家は伊藤重五郎家より分家し、農を本業となして相繼ぐこと三代目、人格の高潔なる今は亡き兼吉氏の長男で、十六歳の時に上京、直ちに理髮の研修に身を委ね、同四十四年には早くも一本立となつて芝區三田松坂町に開業、業績大にあがり、管内業界の信望厚く、推されて三田署管内理髮業組合部長となり、また青年團會計の要職に就き、頻りと後進指導のために盡力しつゝあつたが、偶々大患に罹り、廢業の止むなきに至つた。次で田端驛前に運送業を開業したが、健康保持上、これまた業を廢し、呼吸器強壯を目的に民話界に入つたのが氏の趣味に投じ、研鑽久しきにわたつて天晴れ今日の榮えある地位を占め得たのである。現に大日本追分聯合會常任幹事並に大日本民

話聯合會演奏部長として、斯界に重きをなしてゐる。

氏は極めて愛郷心強く、大正八年東京市同郷人を糾合して村人會を創設し、郷黨のために盡すところ大、また震災當時挺身同郷人のために努力し、更に會總代として歸省、具さに窮狀をたづね、これが救援に専心するなど、今も村人の等しく感謝しつゝあるところである。昭和十一年には自ら發起して村内三學校のため校旗を製作して寄贈し、村内の信望ますます厚きを加へてゐる。

家庭は頗る圓滿、淑徳の譽れ高きイン子夫人との間に長男元一氏外、二女子がある。

高崎市

高崎市旭町

旭町區長

石黒 松太郎

俊敏の氣性に富みて獨力獨行の努力家である氏は明治二十五年四月新潟縣三島郡與板町本與板に呱呱の聲を擧げ、長じ



て後、二十七歳の折前橋市の材木商に入りて刻苦精勵、努力に努力

を積みて遂に三十一歳の時、多年の精進實を結びて獨立、以來業績は日を逐うて盛大、今日に至りしものである。その傍ら住友生命保險代理店を營んでゐる。亦自治公共方面にも寄與貢獻多く、會て青年時郷里の青年團創立に奔走努力し、感謝を受け、尙高崎市區長會會計兼理事防護團會計、國勢調査員の任に在りし事もあり、現在は旭町區長として寢食を忘れて執掌する外、旭町納稅組合長、方面委員、木材商組合理事、木材商群馬縣聯合會代議員等の重責に在つて自治の爲に斯業界發展の爲に盡瘁する。その功勞頗る多大にして庶民の信望頗る厚く、その一舉一動期待を以て囑目されてゐる。家には令閨とみ子さんとの間に二男四女あ

り、家庭は圓滿、附近羨望の的にて、氏はその圓滿なる家庭内に於ては俳句を趣味として松翠と號し、人格の修養につとめてゐる。

高崎市芝塚町一九〇五

理髮業

山本 一郎

我國運興隆への一大轉換期である日露戰役に際し勇躍應召、波荒き大洋を渡り彼地に上陸、戰場に在りては常に第一線に於て活躍勇戦、敵陣にをどり込み遂に名譽の戦死を遂げて護國の鬼と化した山本鷹藏氏を父に明治三十六年七月五日新潟縣西蒲原郡松尾村に呱呱の聲を擧げし氏は資性勤直、努力の權化そのものゝ如き獨力獨行の氣性に富む人物にして、亦圓滿なる人格の持主、長じて後、十八歳の時、志を抱いて單身上京、先づ理髮店の徒弟として修業、只管傍目もふらず業務に精勵、その時、彼の關東大震災に遭遇而し神は氏を見捨てず何事もなく難を逃れる事が出來て翌大正十三年春未だ淺き

四月、二十二歳の若年にて多年の望を果し、獨立して高崎市驛前に開業、以來顧客本位をモットーに努力精進、遂に今日の盛大に至りしものである。立志傳中の人とて市民より仰慕の眼を以て迎へられ、いま高崎理髮組合理事、衛生講習會理事の任に在る。はつ子夫人は新潟縣寺泊町小黒寛司氏の長女にて内助の功多大にして、間に二男一女あり、家庭頗る圓滿である。

昭和十三年九月一日印刷
昭和十三年九月三十日發行

(非賣品)

不許
複製

東京市本郷區駒込富士前町一
著作兼發行 株式會社 内外通信社
兼印刷人
代表取締役 佐藤億兆
東京市本郷區駒込富士前町一
印刷所 株式會社 内外通信社印刷部

發行所

東京市本郷區駒込富士前町一
振替口座東京八一二二番 株式會社

内外通信社

代表 電話大塚七四七〇番

終